

S	芸術教養基礎	科目コード： 40001
配当年次	1年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	なし	
開講日程・ 開講地・定員	芸術教養基礎 開催日程：2019年5月25日（土）～ 2019年5月26日（日） 開催地：京都、受講料： ¥8,000、定員：なし	
担当者	上村博*、中島敏行、岸川謙介	

科目概要と到達目標

芸術活動は人類史上、さまざまな時代やジャンルにわたって、きわめて多彩な形をとってきました。本科目ではその諸相を概観するとともに、芸術についてなされた先人たちの思索のあとをたどりつつ、芸術についての基礎概念を反省します。あわせて現在活躍中の作家をお招きしてお話をうかがいます。授業では、芸術活動の多様性と多義性を理解すること、そしてまた、これから自分の芸術活動や芸術研究を行うための視座を手に入れることを到達目標としています。

評価基準と成績評価方法

成績は授業中の試験と授業中に作成していただくレポートによって評価します。そして、

1. 授業内容の理解
 2. 今日の芸術状況に対して自分がどのような問題意識をもっているか
- 上記2点の評価観点を相応に満たしていることを合格の基準とします。

予習・復習

講義前には、あらかじめ講義内容について理解を深めるようにしてください。また、本シラバス等で目にした専門用語についても、わからないものがあれば事前に調べておきましょう。講義後はノートやプリントを再読し、今回得られた知見を折に触れて復習しつつ、他の科目の授業に向けて準備をしてください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	『美学をめぐる思考のレッスン』（小林留美/京都造形芸術大学・東北芸術工科大学出版局芸術学舎/2019年） 『美術史入門』（X. バラル・イ・アルテ/白水社クセジュ文庫/1999年） 『芸術哲学入門』（J. ラコスト/白水社クセジュ文庫/2002年） 『芸術理論古典文献アンソロジー 東洋篇』（宇佐美文理、青木孝夫編/京都造形芸術大学・東北芸術工科大学出版局芸術学舎/2014年） 『芸術理論古典文献アンソロジー 西洋篇』（加藤哲弘編/京都造形芸術大学・東北芸術工科大学出版局芸術学舎/2014年）

授業計画

【1日目】

3講時 芸術とその環境

芸術は古くから社会的、宗教的機能を担ってきました。礼拝対象の表現、共通の記憶の形成としての芸術について、東西の作例を紹介するとともに、芸術の表現における超越と内在の問題や芸術が社会に及ぼす効果について考えます。

4講時 芸術の自律性

自律的な芸術作品という考え方が近代になって定着してゆきます。そのとき、形式と質料という対概念が強力に作用しましたが、いまなお芸術の評価言語や鑑賞態度に影響を与えています。

5講時 パラゴーネ（芸術諸ジャンルの比較）

芸術ジャンルが意識されると共にさまざまな芸術的な営為の相互の比較がなされるようになります。そこには制作者の競争心を読み取ることもできますが、それ以上に芸術の個々のジャンルが理論化されていく契機ともなります。物語と造形芸術の関係、彫刻と絵画の関係などについて、いくつかの議論を紹介します。

【2日目】

1講時 創造とデザイン

近代の芸術制作において重要な位置を占める「創造」と、また古来重視されてきた「模倣」の両概念について、その起源や内実を検証します。またデザインという概念の本来の意味とその変遷についても講じます。

2講時 「クラシック」と「アカデミック」

「古典的」（クラシック）という言葉の指す意味と、古典的なものを追求した作例を特に西欧の場合を中心に紹介し、それが今日の芸術概念にどう関わっているかを考察します。

3講時 芸術と社会

十九世紀以降の芸術家は否応なしにメディアとの関係を再考しなくてはなりません。ひとつは芸術家の像や評価がメディアによって作られるという点で。もうひとつは制作手段として新しいメディアが登場した点で。芸術が社会とどう関わるかという問題でもあります。

4講時 今日の芸術活動

ゲストとしてお招きした美術科の中島敏行さんと建築家の岸川謙介さんに今日の社会で芸術制作をする意味について、いくつかの事例を紹介しながら、お話を聞きます。

5講時 まとめ／試験

これまでの授業内容を確認する試験を行った後、ゲストへの質疑応答の時間を設けます。

受講にあたって

●持参物

- (1) 筆記用具
- (2) ペンライト（教室が暗くなるときがあります。必要な方は用意してください。）

●その他

この授業は、今年本学で学習を開始した新入生の方の受講を推奨します。

S	著作権を学ぶ	科目コード： 40003
配当年次	1年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	なし	
開講日程・ 開講地・定員	著作権を学ぶa 開催日程：2019年6月1日（土）～ 2019年6月2日（日） 開催地：京都、受講料： ¥8,000、定員：78 著作権を学ぶb 開催日程：2019年7月20日（土）～ 2019年7月21日（日） 開催地：京都、受講料： ¥8,000、定員：110	
担当者	古山真知子*	

科目概要と到達目標

著作権は、今や、アーティスト、デザイナー、プロデューサー、研究者、つまり私たちと切っても切れないものとなっています。自ら作品や論文を作る場合にも、またそれらを守っていくためにも、著作権についての知識は必須です。この講義では、法学・法律学的な視点から「クリエイター」の権利である著作権について考えます。この科目を受講することで、いままで茫漠としていた著作権のイメージが、くっきりしたものになり、理解が深まると思います。

本講義では、出来るだけコンパクトに、著作権を学ぶにあたって必要な法学の知識を習得することから始めます。その上で、著作権法上の様々な概念を明らかにし、著作権とはどのような権利なのかを考えます。さらに著作権の利用と権利侵害を概観します。様々な判例に触れながら以上のような学習をすることによって、著作権の基礎を身につけることを目的とします。

評価基準と成績評価方法

1. 受講姿勢および態度
 2. 授業内容への理解（授業中の筆記試験による）
- 成績評価は、授業への取り組みおよび授業中の課題の総合評価となります。

予習・復習

本講義は、法学・法律学を専門としない学生に対して、著作権法を講じようとするものです。従って、予習は特に求めません。いままで触れたことがないような議論が出てくるかと思いますが、頭を柔らかくし耳を澄ませて講義を聴いてください。逆に、復習は重要です。配られたプリントや自分のノートを参考にして、その日の講義のポイントを押さえておくことは必須です。その積み重ねによって理解が深まっていきますし、また、最後の筆記試験の準備にもなります。さらに、講義を受けた後で、紹介する参考文献の一つを選んで、自分の力で読んでみましょう。講義全体の復習になるとともに、自分の理解度がよくわかるはずです。どうか頑張ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	プリントを授業中に配布します。
参考文献・URL	講義の中で紹介します。

授業計画

【1日目】

3講時 著作権を学ぶための法学案内

ここでは、著作権を学ぶために必要な法的知識を学習します。時間の関係上、基礎的なものに限られますが、これを理解しているかどうかは、以降の講義が分かるかどうかの分かれ目になります。法律学で著作権という権利を学ぶということは、どういうことを意味するのかをしっかりと把握しましょう。

4講時 著作権とは何か？

著作権法の規定の仕方の特徴を学習して、著作権法の仕組みを把握します。さらに著作権法を概観して、著作権の内容を大まかに見て行きます。

5講時 著作物

著作物とは、著作権法上の重要な概念です。著作権は、著作物を客体として成立する権利ですから、あるものが著作物かどうかは、著作権が成立するかしないかを分ける分水嶺となります。では、著作物とはどのようなもののでしょうか？その要件を考えます。

【2日目】

1講時 著作者

客体に続いて主体について学びます。著作権の主体は、著作者です。著作者とは、だれのことか、どのように認定されるのかなど、詳しく見て行きます。さらに、著作者人格権について概説します。

2講時 著作権（その1）

著作権法の中心である財産権としての著作権を考えます。著作権は、どのように発生し、どのような効力を持っているのかを学んだ後、著作権の内容をなす支分権にはどのようなものがあるのかを学習します。

3講時 著作権（その2）

引き続き、財産権としての著作権を考えます。著作権の様々な支分権が成立していても、著作権が制限されて、自由利用が出来る場合があります。それはどのような場合でしょうか？

4講時 権利の利用・権利侵害

著作権は、どのように利用され、どのようにして経済的利益を上げるのでしょうか？利用の許諾、譲渡など、著作権の利用の仕組みについて学びます。さらに如何なる場合に、著作権が侵害されたと言えるのか権利侵害について考えます。侵害された場合、それはどのように救済されるのでしょうか？民事救済と刑事罰についても解説します。

5講時 講義および試験

これまでの復習を行いつつ、頭の中を整理します。それから、筆記試験を行います。

受講にあたって

●持参物

ノートと筆記用具

●その他

受講時には、必ず、ノートを取りましょう。従って、ノートと筆記用具は必ず持参してください。ノートは、メモ書きではなく、出来るだけ文章でとるようにしましょう。慣れないとなかなか難しいかもしれませんが、法律学は言葉の学問です。自分の考えを正確に法律学的に文章で表すための訓練となりますし、最後の筆記試験のためにも必須です。

TR	美学概論 感性論としての美学の今日的課題についての考察	科目コード： 40521
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※2016年度まで開講していた「美学概論」（4単位）の単位を修得済みの場合、履修は不可	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	郵送・窓口・airU ※再提出の場合の提出方法は、初回提出方法に準ずる。 ※芸術教養学科・アートライティングコースはairUのみ。	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】 04/21～04/30、【7/30締切分】 07/21～07/30、 【10/30締切分】 10/21～10/30、【1/31締切分】 01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	有	
担当者	小林留美*	

科目概要と到達目標

日本語の「美学」は、西欧の「エステティック (aesthetics, esthétique, Ästhetik)」の翻訳語として、明治半ば以降に定着した用語です。「美」や「芸術」を主題とする考察はそもそも古代ギリシャの頃からありましたが、ギリシャ語の「アイステーシス (感覚・知覚の意)」に由来してその語がつけられ、哲学の一分野として、「感性」「美」「芸術」の三者が関わりあうところをその領域とした「美学 (エステティック)」が確立したのは、西欧18世紀半ばのことでした。本科目は、テキストと補助教材とによって、そのような「美学 (エステティック)」に関する基礎的概念を整理し、さらに、現代の身近な美や芸術 (アート) の状況に応答する美学の思考を試みようというものです。

「美学 (エステティック)」という学問の基礎的概念を理解することがまず目標です。さらに、現代の美や芸術 (アート) をめぐる状況への感性を養い、思考を深めることを目指します。

評価基準と成績評価方法

- ・文章の表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業の趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握
- ・受講生自身の見解の明示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

成績評価方法は、全課題の平均と試験の平均です。

テキストと参考文献・URL

テキスト	1) 小林留美『美学をめぐる思考のレッスン』藝術学舎出版、2019
------	-----------------------------------

テキスト	2) 百科事典『ブリタニカ』の以下の項目（補助教材） 大項目事典「美学」「芸術」「美術」「象徴」 小項目事典「詩学」「自然美」「趣味」「人体の比例」「崇高」「バウムガルテン」
参考文献・URL	佐々木健一『美学への招待』中公新書、2004年 小田部胤久『西洋美学史』東京大学出版会、2009年 カロール・タロン＝ユゴン『美学への手引き』上村博訳、白水社（文庫クセジュ）、2015年 ブリタニカ・オンライン・ジャパン https://japan.eb.com

レポート課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	1. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2. レポート本文 手書きの場合：大学指定レポート冊子の原稿用紙面または任意の400字原稿用紙面8枚程度・ヨコ書き、 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に3,200文字程度・ヨコ書き 3. 宛名表紙（レポート冊子綴込み、または『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返送先明記・切手不要） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 添削指導評価書と3. 宛名表紙は不要です。 ※芸術教養学科・アートのライティングコースの課題提出形態はairUのみです。
再提出物 (一括送付)	1. 再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2. 再提出レポート本文 3. 前回提出（=D評価）のレポート（添削指導評価書（添削文含む）、レポート本文、宛名表紙） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 再提出用添削指導評価書と3. 前回提出レポートは不要です。 ※芸術教養学科・アートのライティングコースの課題提出形態はairUのみです。

課題の内容

【設問1】

「基礎的概念の整理」と題して、補助教材を参考にしながら次の8つの概念の要旨をそれぞれまとめてください（字数はすべて合わせて1600字程度）。

- 1) 美のアイデア
- 2) 詩学
- 3) 人体の比例
- 4) 自然美
- 5) 感性的認識論
- 6) 趣味判断
- 7) 崇高
- 8) もののあわれ

【設問2】

テキストを参考にしながら、自分にとって身近な「美」や「芸術（アート）」に関わるテーマについて、もしくは、「美学」の課題について、1600字程度で自由に考察してください（その際、何について論じているのかわかるように、タイトルを付けておいてください）。

TR	美術史（日本）1	科目コード： 40522
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※2016年度まで開講していた「日本美術史」の単位を修得済みの場合、履修は不可	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	郵送・窓口	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。	
単位修得試験	有	
担当者	金子典正*、荒賀栄子	

科目概要と到達目標

この科目は日本美術史の入門的な科目です。日本彫刻史に関する課題に取り組みます。それぞれ指定された6作品の図版を集めて各作品について調べ、6作品すべての素描を完成させます。また、2つの作品を選んで1600字程度のレポートを作成します。

こうした方法による学習を通じて、日本美術史の基礎知識を身につけると共にその全体像や他のアジア地域の美術との関連を把握し、どのように日本の美術が成立してきたのかについて理解を深めることが到達目標です。

評価基準と成績評価方法

- 1、素描
 - ・ 作品をしっかり観察して描いているか。
 - ・ 丁寧に描いているか。
 ※巧拙は評価基準ではありません。
- 2、キャプション
 - ・ 適切な情報が記載されているか。
 - ・ 誤字・脱字はないか。
- 3、レポート
 - ・ 自分の言葉で具体的に論述できているか。
 - ・ 作品に関する適切な情報が、正しい文章で書かれているか。

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

成績評価方法は、全課題の平均と試験の平均です。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『日本美術史』（本学テキスト） 補助教材：『日本美術史－彫刻編』 配本されていないテキスト（および補助教材）の入手については『学習ガイド』の「テキスト配本」の項を確認のうえ、巻末書式の「テキスト送付・購入申込書」で請求してください。
参考文献・URL	『日本古寺美術全集1～25』座右宝刊行会編集制作 集英社 1979～1981年 『奈良・京都の古寺めぐり』水野敬三郎 岩波ジュニア新書 岩波書店 1985年 『カラー版 日本仏像史』水野敬三郎監修 美術出版社 2001年 『カラー版日本美術史』辻惟雄監修 美術出版社 2002年 『日本の芸術史 造形篇I 信仰、自然との関わりの中で』栗本徳子編 藝術学舎 2013年 『日本の芸術史 造形篇II 飾りと遊びの豊かなかたち』栗本徳子編 藝術学舎 2013年

レポート課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	1、添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2、素描シート（シラバス巻末の指定用紙、またはairUシラバスの「テキスト・教材学習」ページからダウンロード） 3、レポート本文（手書き：大学指定レポート冊子の原稿用紙面または任意の400字原稿用紙面4枚程度・ヨコ書き、 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に1600文字程度・ヨコ書き） 4、宛名表紙（レポート冊子に綴込のもの あるいは『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返送先明記・切手不要）
再提出物 (一括送付)	1、再提出用添削指導評価書 2、再提出レポート本文 3、前回提出（=D評価）の添削指導評価書（添削文含む）、レポート本文、宛名表紙

課題の内容

日本彫刻史の中から、以下の6つの彫刻作品をテキストや参考文献などから自分で探して、各作例について詳しく学んでください。

次に、以下の6つの作品から2作品を選び、1作品800字程度を目安に、合わせて1600字程度で作品の詳細と日本美術史上における重要性について（必要があればアジア美術との関連を含めて）論じなさい。なお、レポートの冒頭に選んだ2作品を明記すること。また、参考文献はレポートの末尾に明記してください。

さらに、シラバス巻末の素描シートを6枚コピー（airUシラバスの場合は「テキスト・教材学習」ページからPDF形式でダウンロードして印刷）して、各作品の基本データをキャプション欄に記入すると共に、6作品すべての素描を素描シートに完成させてください。

1. 法隆寺金堂《釈迦三尊像》
2. 興福寺《旧山田寺仏頭》
3. 東大寺法華堂《不空羼索観音立像》
4. 新薬師寺《薬師如来坐像》
5. 平等院鳳凰堂《阿弥陀如来坐像》
6. 東大寺南大門《金剛力士立像》（阿形・吽形のいずれか、または両方）

TR	美術史（日本）2	科目コード： 40523
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※2016年度まで開講していた「日本美術史」の単位を修得済みの場合、履修は不可	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	郵送・窓口	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。	
単位修得試験	有	
担当者	金子典正*、多田羅多起子、奥井素子	

科目概要と到達目標

この科目は日本美術史の入門的な科目です。日本絵画史に関する課題に取り組みます。それぞれ指定された6作品の図版を集めて各作品について調べ、6作品すべての素描を完成させます。また、2つの作品を選んで1600字程度のレポートを作成します。

こうした方法による学習を通じて、日本美術史の基礎知識を身につけると共にその全体像や他のアジア地域の美術との関連を把握し、どのように日本の美術が成立してきたのかについて理解を深めることが到達目標です。

評価基準と成績評価方法

- 1、素描
 - ・ 作品をしっかりと観察して描いているか。
 - ・ 丁寧に描いているか。

※巧拙は評価基準ではありません。
- 2、キャプション
 - ・ 適切な情報が記載されているか。
 - ・ 誤字・脱字はないか。
- 3、レポート
 - ・ 自分の言葉で具体的に論述できているか。
 - ・ 作品に関する適切な情報が、正しい文章で書かれているか。

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

成績評価方法は、全課題の平均と試験の平均です。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『日本美術史』（本学テキスト）
------	-----------------

テキスト	補助教材：『日本美術史－絵画編』 配本されていないテキスト（および補助教材）の入手については『学習ガイド』の「テキスト配本」の項を確認のうえ、巻末書式の「テキスト送付・購入申込書」で請求してください。
参考文献・URL	『日本古寺美術全集1～25』座右宝刊行会編集制作 集英社 1979～1981年 『奈良・京都の古寺めぐり』水野敬三郎 岩波ジュニア新書 岩波書店 1985年 『カラー版 日本仏像史』水野敬三郎監修 美術出版社 2001年 『カラー版日本美術史』辻惟雄監修 美術出版社 2002年 『日本の芸術史 造形篇I 信仰、自然との関わりの中で』栗本徳子編 藝術学舎 2013年 『日本の芸術史 造形篇II 飾りと遊びの豊かなかたち』栗本徳子編 藝術学舎 2013年

レポート課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	1、添削指導評価書 2、素描シート（シラバス巻末の指定用紙、またはairUシラバスの「教材提供」ページからダウンロード） 3、レポート本文 手書きの場合：大学指定レポート冊子の原稿用紙面または任意の400字原稿用紙面4枚程度・ヨコ書き、 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に1600文字程度・ヨコ書き 4、宛名表紙（レポート冊子に綴込のもの あるいは『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返送先明記・切手不要）
再提出物 (一括送付)	1、再提出用添削指導評価書 2、再提出レポート本文 3、前回提出（=D評価）の添削指導評価書（添削文含む）、レポート本文、宛名表紙

課題の内容

日本絵画史のうち、以下の6つの絵画作品をテキストや参考文献などから自分で探して、各作例について詳しく学んでください。

次に、以下の6つの作品から2作品を選び、1作品800字程度を目安に、合わせて1600字程度で作品の詳細と日本美術史上における重要性について（必要があればアジア美術との関連を含めて）論じなさい。なお、レポートの冒頭に選んだ2作品を明記すること。また、参考文献はレポートの末尾に明記してください。

さらに、シラバス巻末の素描シートを6枚コピー（airUシラバスの場合は「教材提供」ページからPDF形式でダウンロードして印刷）して、各作品の基本データをキャプション欄に記入すると共に、6作品すべての素描を素描シートに完成させてください。

1. 《捨身飼虎図》（玉虫厨子須弥座絵）
2. 《法隆寺金堂壁画》のうち6号壁
3. 《源氏物語絵巻》（どの場面でも構いません）
4. 雪舟《四季山水図巻（山水長巻）》（画面に人物像が描かれている部分を選んでください）
5. 狩野永徳《唐獅子図屏風》
6. 葛飾北斎《神奈川沖浪裏》（富嶽三十六景のうち）

TR	美術史（ヨーロッパ）1	科目コード： 40524
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※2016年度まで開講していた「ヨーロッパ美術史」の単位を修得済みの場合、履修は不可	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	郵送・窓口	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。	
単位修得試験	有	
担当者	加藤志織*、嶋谷昭彦、大崎智史	

科目概要と到達目標

この科目はヨーロッパ美術史の入門的な科目です。古代ギリシアからルネサンスまでの作品に関する課題に取り組みます。それぞれ指定された6作品の図版を集めて各作品について調べ、6作品すべての素描を完成させます。また、2つの作品を選んで1600字程度のレポートを作成します。

こうした方法による学習を通じて、ヨーロッパ美術史の基礎知識を身につけると共にその全体像を把握し、どのようにヨーロッパの美術が成立してきたのかについて理解を深めることが到達目標です。

評価基準と成績評価方法

- 1、素描
 - ・ 作品をしっかり観察して描いているか。
 - ・ 丁寧に描いているか。

※巧拙は評価基準ではありません。
- 2、キャプション
 - ・ 適切な情報が記載されているか。
 - ・ 誤字・脱字はないか。
- 3、レポート
 - ・ 自分の言葉で具体的に論述できているか。
 - ・ 作品に関する適切な情報が、正しい文章で書かれているか。

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

成績評価方法は、全課題の平均と試験の平均です。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『ヨーロッパ美術史』（本学テキスト） 補助教材：『ヨーロッパ美術史』（2002年4月1日付以降発行のもの）
------	--

テキスト	配本されていないテキスト（および補助教材）の入手については『学習ガイド』の「テキスト配本」の項を確認のうえ、巻末書式の「テキスト送付・購入申込書」で請求してください。
参考文献・URL	『西洋の芸術史 造形篇I 古代から初期ルネサンスまで』 水野千依編 藝術学舎 2013年 『西洋の芸術史 造形篇II 盛期ルネサンスから十九世紀末まで』 水野千依編 藝術学舎 2013年 『カラー版 西洋美術史』 高階秀爾監修 美術出版社 1990年 そのほか、テキスト各章末尾の参考文献リストも積極的に活用しましょう。図版については小学館『世界美術大全集 西洋編』を推薦しておきます。 画像検索 (ART CYCLOPEDIA) http://www.artcyclopedia.com/

レポート課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	1、添削指導評価書 2、素描シート（シラバス巻末の指定用紙、またはairUシラバスの「教材提供」ページからダウンロード） 3、レポート本文 手書きの場合：大学指定レポート冊子の原稿用紙面または任意の400字原稿用紙面4枚程度・ヨコ書き、 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に1600文字程度・ヨコ書き 4、宛名表紙（レポート冊子に綴込のもの あるいは『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返送先明記・切手不要）
再提出物 (一括送付)	1、再提出用添削指導評価書 2、再提出レポート本文 3、前回提出（=D評価）の添削指導評価書（添削文含む）、レポート本文、宛名表紙

課題の内容

以下の6つの作品の図版を教科書や参考図書などから自分で探してください。

次にシラバス巻末の素描シートを6枚コピー（airUシラバスの場合は「教材提供」ページからPDF形式でダウンロードして印刷）して、各作品の基本データをキャプション欄に記載すると共に、6作品すべての素描を素描シートに完成させてください。

さらに、以下の6つの作品から2作品を選び、1作品800字程度を目安に、合わせて1600字程度でそれぞれの作品において人体がどのように表現されているのか、その特徴に注目しつつ、論じなさい。なお、レポートの冒頭に選んだ2作品を明記すること。また、参考文献は、レポートの末尾に明記してください

1. アゲサンドロス、アタノドロス、ポリュドロス合作《ラオコーン》（テキスト『ヨーロッパ美術史』p.7）
2. 《ユスティニアヌスと廷臣たち》（テキスト『ヨーロッパ美術史』p.26）
3. 《使徒の伝道派遣》（テキスト『ヨーロッパ美術史』p.38）
4. 《聖母のエリザベツ御訪問》（テキスト『ヨーロッパ美術史』p.60）
5. ジョット《キリスト哀悼》（テキスト『ヨーロッパ美術史』p.62）
6. ボッティチェッリ《春》（テキスト『ヨーロッパ美術史』p.74）

TR	美術史（ヨーロッパ）2	科目コード： 40525
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※2016年度まで開講していた「ヨーロッパ美術史」の単位を修得済みの場合、履修は不可	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	郵送・窓口	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。	
単位修得試験	有	
担当者	池野絢子*、山上紀子、嶋谷昭彦	

科目概要と到達目標

この科目はヨーロッパ美術史の入門的な科目です。ルネサンスから19世紀までの作品に関する課題に取り組みます。それぞれ指定された6作品の図版を集めて各作品について調べ、6作品すべての素描を完成させます。また、2つの作品を選んで1600字程度のレポートを作成します。

こうした方法による学習を通じて、ヨーロッパ美術史の基礎知識を身につけると共にその全体像を把握し、どのようにヨーロッパの美術が成立してきたのかについて理解を深めることが到達目標です。

評価基準と成績評価方法

- 1、素描
 - ・ 作品をしっかり観察して描いているか。
 - ・ 丁寧に描いているか。

※巧拙は評価基準ではありません。
- 2、キャプション
 - ・ 適切な情報が記載されているか。
 - ・ 誤字・脱字はないか。
- 3、レポート
 - ・ 自分の言葉で具体的に論述できているか。
 - ・ 作品に関する適切な情報が、正しい文章で書かれているか。

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

成績評価方法は、全課題の平均と試験の平均です。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『ヨーロッパ美術史』（本学テキスト） 補助教材：『ヨーロッパ美術史』（2002年4月1日付以降発行のもの）
------	--

テキスト	配本されていないテキスト（および補助教材）の入手については『学習ガイド』の「テキスト配本」の項を確認のうえ、巻末書式の「テキスト送付・購入申込書」で請求してください。
参考文献・URL	『西洋の芸術史 造形篇I 古代から初期ルネサンスまで』 水野千依編 藝術学舎 2013年 『西洋の芸術史 造形篇II 盛期ルネサンスから十九世紀末まで』 水野千依編 藝術学舎 2013年 『カラー版 西洋美術史』 高階秀爾監修 美術出版社 1990年 『美術史入門』 グザヴィエ・バラル・イ・アルテ著 吉岡健二郎/上村博訳 白水社（文庫クセジュ） 1999年 そのほか、テキスト各章末尾の参考文献リストも積極的に活用しましょう。図版については小学館『西洋美術館』『世界美術大全集 西洋編』を推薦しておきます。 画像検索（ART CYCLOPEDIA） http://www.artcyclopedia.com/

レポート課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	1、添削指導評価書 2、素描シート（シラバス巻末の指定用紙、またはairUシラバスの「教材提供」ページからダウンロード） 3、レポート本文 手書きの場合：大学指定レポート冊子の原稿用紙面または任意の400字原稿用紙面4枚程度・ヨコ書き、 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に1600文字程度・ヨコ書き 4、宛名表紙（レポート冊子に綴込のもの あるいは『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返送先明記・切手不要）
再提出物 (一括送付)	1、再提出用添削指導評価書 2、再提出レポート本文 3、前回提出（=D評価）の添削指導評価書（添削文含む）、レポート本文、宛名表紙

課題の内容

以下の6つの作品の図版を教科書や参考図書などから自分で探してください。

次にシラバス巻末の素描シートを6枚コピー（airUシラバスの場合は「教材提供」ページからPDF形式でダウンロードして印刷）して、各作品の基本データをキャプション欄に記載すると共に、6作品すべての素描を素描シートに完成させてください。

さらに、以下の6つの作品から2作品を選び、1作品800字程度を目安に、合わせて1600字程度でそれぞれの作品をリアリズムという観点から論じなさい。その際に、それぞれの時代の文化的・社会的な背景や技法的な違いも考慮すること。なお、レポートの冒頭に選んだ2作品を明記すること。また、参考文献は、レポートの末尾に明記してください。

1. ファン・エイク《アルノルフィーニ夫妻像》（テキスト『ヨーロッパ美術史』p.110）
2. カラヴァッジョ《聖マタイの召命》（テキスト『ヨーロッパ美術史』p.151）
3. レンブラント《夜警》（テキスト『ヨーロッパ美術史』p.158）
4. ダヴィッド《マラーの死》（テキスト『ヨーロッパ美術史』p.209）
5. クールベ《オルナンの埋葬》（テキスト『ヨーロッパ美術史』p.246）
6. モネ《印象、日の出》（テキスト『ヨーロッパ美術史』p.280）

TR	美術史（アジア）1	科目コード： 40526
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※2016年度まで開講していた「アジア美術史」の単位を修得済みの場合、履修は不可	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	郵送・窓口	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。	
単位修得試験	有	
担当者	金子典正*	

科目概要と到達目標

この科目はアジア美術史の入門的な科目です。中国美術史に関する課題に取り組みます。それぞれ指定された6作品の図版を集めて各作品について調べ、6作品すべての素描を完成させます。また6作品を例にあげながら、美術史の流れについて1600字程度のレポートを作成します。

こうした方法による学習を通じて、アジア美術史の基礎知識を身につけると共にその全体像を把握し、各地域においてどのように芸術が成立してきたのかについて理解を深めることが到達目標です。

評価基準と成績評価方法

- 1、素描
 - ・ 作品をしっかり観察して描いているか。
 - ・ 丁寧に描いているか。

※巧拙は評価基準ではありません。
- 2、キャプション
 - ・ 適切な情報が記載されているか。
 - ・ 誤字・脱字はないか。
- 3、レポート
 - ・ 自分の言葉で具体的に論述できているか。
 - ・ 作品に関する適切な情報が、正しい文章で書かれているか。

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

成績評価方法は、全課題の平均と試験の平均です。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『アジア美術史』（本学テキスト） 配本されていないテキストの入手については『学習ガイド』の「テキスト配本」の
------	---

テキスト	項を確認のうえ、巻末書式の「テキスト送付・購入申込書」で請求してください。
参考文献・URL	『世界美術大全集東洋編1～16』高浜秀他編 小学館 1998～2000年 『増補新装カラー版東洋美術史』前田耕作監修 美術出版社 2012年 『アジアの芸術史 造形篇I 中国の美術と工芸』金子典正 藝術学舎 2013年 『アジアの芸術史造形篇II 朝鮮半島・西アジア・中央アジア・インド』金子典正 藝術学舎 2013年

レポート課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	1、添削指導評価書 2、素描シート（シラバス巻末の指定用紙、またはairUシラバスの「教材提供」ページからダウンロード） 3、レポート本文 手書きの場合：大学指定レポート冊子の原稿用紙面または任意の400字原稿用紙面4枚程度・ヨコ書き、 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に1600文字程度・ヨコ書き 4、宛名表紙（レポート冊子に綴込のもの あるいは『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返送先明記・切手不要）
再提出物 (一括送付)	1、再提出用添削指導評価書 2、再提出レポート本文 3、前回提出（=D評価）の添削指導評価書（添削文含む）、レポート本文、宛名表紙

課題の内容

中国美術の中から、以下の6つの作品をテキストや参考文献などから自分で探して、各作例について詳しく学んでください。

次に、これらの6作品を例にあげながら、秦時代から北宋時代までの美術史の流れについて1600字程度で論じてください。なお、参考文献はレポートの末尾に明記してください。

さらに、シラバス巻末の素描シートを6枚コピー（airUシラバスの場合は「教材提供」ページからPDF形式でダウンロードして印刷）して、各作品の基本データをキャプション欄に記入すると共に、6作品すべての素描を素描シートに完成させてください。

1. 兵馬俑（西安市始皇帝陵兵馬俑坑出土の1体をどれか選んでください）
2. 伝顧愷之《女史箴図巻》
3. 雲岡石窟第20洞《仏坐像》
4. 龍門石窟奉先寺洞《盧舎那仏像》
5. 郭熙《早春図》
6. 徽宗《桃鳩図》

TR	美術史（アジア）2	科目コード： 40527
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※2016年度まで開講していた「アジア美術史」の単位を修得済みの場合、履修は不可	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	郵送・窓口	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。	
単位修得試験	有	
担当者	金子典正*、永田郁、石附啓子	

科目概要と到達目標

この科目はアジア美術史の入門的な科目です。朝鮮半島／インドの美術史に関する課題に取り組みます。それぞれ指定された6作品の図版を集めて各作品について調べ、6作品すべての素描を完成させます。また6作品を例にあげながら、美術史の流れについて1600字程度のレポートを作成します。

こうした方法による学習を通じて、アジア美術史の基礎知識を身につけると共にその全体像を把握し、各地域においてどのように芸術が成立してきたのかについて理解を深めることが到達目標です。

評価基準と成績評価方法

- 1、素描
 - ・ 作品をしっかり観察して描いているか。
 - ・ 丁寧に描いているか。
 ※巧拙は評価基準ではありません。
- 2、キャプション
 - ・ 適切な情報が記載されているか。
 - ・ 誤字・脱字はないか。
- 3、レポート
 - ・ 自分の言葉で具体的に論述できているか。
 - ・ 作品に関する適切な情報が、正しい文章で書かれているか。

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

成績評価方法は、全課題の平均と試験の平均です。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『アジア美術史』（本学テキスト） 配本されていないテキストの入手については『学習ガイド』の「テキスト配本」の
------	---

テキスト	項を確認のうえ、巻末書式の「テキスト送付・購入申込書」で請求してください。
参考文献・URL	『世界美術大全集東洋編1～16』高浜秀他編 小学館 1998～2000年 『増補新装カラー版東洋美術史』前田耕作監修 美術出版社 2012年 『アジアの芸術史 造形篇I 中国の美術と工芸』金子典正 藝術学舎 2013年 『アジアの芸術史造形篇II 朝鮮半島・西アジア・中央アジア・インド』金子典正 藝術学舎 2013年

レポート課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	1、添削指導評価書 2、素描シート（シラバス巻末の指定用紙、またはairUシラバスの「教材提供」ページからダウンロード） 3、レポート本文 手書きの場合：大学指定レポート冊子の原稿用紙面または任意の400字原稿用紙面4枚程度・ヨコ書き、 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に1600文字程度・ヨコ書き 4、宛名表紙（レポート冊子に綴込のもの あるいは『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返送先明記・切手不要）
再提出物 (一括送付)	1、再提出用添削指導評価書 2、再提出レポート本文 3、前回提出（=D評価）の添削指導評価書（添削文含む）、レポート本文、宛名表紙

課題の内容

アジアの美術作品のうち、以下の6つの作品をテキストや参考文献などから自分で探して、各作例について詳しく学んでください。

次に、これらの6作品を例にあげながら、朝鮮半島の美術史とインド・ガンダーラの仏教美術史の流れについて、それぞれ800字程度を目安に、あわせて1600字程度で論じてください。なお、参考文献は、レポートの末尾に明記してください。

さらに、作品の基本データをシラバス巻末の素描シート（airUシラバスの場合は「教材提供」ページからPDF形式でダウンロードして印刷）のキャプション欄に記載し、6作品すべての素描を素描シートに完成させてください。

【朝鮮半島】

1. 朝鮮半島・高句麗の安岳3号墳《墓主像》
2. 朝鮮半島・至治三年（1323）《水月観音菩薩半跏像（楊柳観音半跏像）》（京都・泉屋博古館蔵）
3. 朝鮮半島・安堅《夢遊桃源図》

【インド・ガンダーラ】

4. バールフット出土《祇園精舎布施》浮彫もしくは《鹿本生図》浮彫
5. シクリ出土《燃灯仏授記図》浮彫もしくはサリ・バロール出土《如来立像（釈迦如来立像）》
6. ジャマールプル出土《仏立像》もしくはサールナート出土《仏坐像（初転法輪釈迦坐像）》

TR	美術史（近現代）1	科目コード： 40528
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※2016年度まで開講していた「近現代美術」の単位を修得済みの場合、履修は不可	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	郵送・窓口	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。	
単位修得試験	有	
担当者	山上紀子*、加藤志織、大崎智史	

科目概要と到達目標

この科目は近現代美術の入門的な科目です。諸外国の近現代美術に関する課題に取り組みます。それぞれ指定された6作品の図版を集めて各作品について調べ、6作品すべての素描を完成させます。また、2つの作品を選んで1600字程度のレポートを作成します。

こうした方法による学習を通じて、近現代美術の基礎知識を身につけると共にその全体像を把握し、各地域においてどのように近現代美術が成立してきたのかについて理解を深めることが到達目標です。

評価基準と成績評価方法

- 1、素描
 - ・ 作品をしっかり観察して描いているか。
 - ・ 丁寧に描いているか。

※巧拙は評価基準ではありません。
- 2、キャプション
 - ・ 適切な情報が記載されているか。
 - ・ 誤字・脱字はないか。
- 3、レポート
 - ・ 自分の言葉で具体的に論述できているか。
 - ・ 作品に関する適切な情報が、正しい文章で書かれているか。

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

成績評価方法は、全課題の平均と試験の平均です。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『20世紀美術』（本学テキスト） 補助教材：『近現代美術』（2002年4月1日付以降発行のもの）
------	---

テキスト	配本されていないテキスト（および補助教材）の入手については『学習ガイド』の「テキスト配本」の項を確認のうえ、巻末書式の「テキスト送付・購入申込書」で請求してください。
参考文献・URL	『20世紀美術』 高階秀爾 ちくま学芸文庫 1993年 『世界美術大全集 西洋編』 25～28巻 小学館 1994～1996年 『近現代の芸術史 造形篇I 欧米のモダニズムとその後の運動』 林洋子編 藝術学舎 2013年 『近現代の芸術史 造形篇II アジア・アフリカと新しい潮流』 林洋子編 藝術学舎 2013年 画像検索 (ART CYCLOPEDIA) http://www.artcyclopedia.com/

レポート課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	1、添削指導評価書 2、素描シート（シラバス巻末の指定用紙、またはairUシラバスの「教材提供」ページからダウンロード） 3、レポート本文 手書きの場合：大学指定レポート冊子の原稿用紙面または任意の400字原稿用紙面4枚程度・ヨコ書き、 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に1600文字程度・ヨコ書き 4、宛名表紙（レポート冊子に綴込のもの あるいは『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返送先明記・切手不要）
再提出物 (一括送付)	1、再提出用添削指導評価書 2、再提出レポート本文 3、前回提出（=D評価）の添削指導評価書（添削文含む）、レポート本文、宛名表紙

課題の内容

以下の6つの作品の図版を教科書や参考図書などから自分で探してください。

次にシラバス巻末の素描シートを6枚コピー（airUシラバスの場合は「教材提供」ページからPDF形式でダウンロードして印刷）して、各作品の基本データをキャプション欄に記載すると共に、6作品すべての素描を素描シートに完成させてください。

さらに、以下の6つの作品から2作品を選び、1作品800字程度を目安に、合わせて1600字程度でそれぞれの重要性について論じなさい。なお、レポートの冒頭に選んだ2作品を明記すること。また、参考文献は、レポートの末尾に明記してください。

1. アンリ・マティス《帽子の女》（テキスト『20世紀美術』p.6／『近現代の芸術史 造形篇I』p.9）
2. ヴィレム・デ・クーニング《女I》（テキスト『20世紀美術』p.63／『近現代の芸術史 造形篇I』p.96）
3. パブロ・ピカソ《ゲルニカ》（テキスト『20世紀美術』p.94／『近現代の芸術史 造形篇I』p.57）
4. シャガール《私と村》（テキスト『20世紀美術』p.128／『近現代の芸術史 造形篇I』p.16）
5. ウンベルト・ボッチョーニ《空間の連続における単一の形態》（テキスト『20世紀美術』p.168／『近現代の芸術史 造形篇I』p.75）
6. マルセル・デュシャン《自転車の車輪》（テキスト『20世紀美術』p.203／『近現代の芸術史 造形篇I』p.49）

TR	美術史（近現代）2	科目コード： 40529
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※2016年度まで開講していた「近現代美術」の単位を修得済みの場合、履修は不可	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	郵送・窓口	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。	
単位修得試験	有	
担当者	山上紀子*、加藤志織、大崎智史	

科目概要と到達目標

この科目は近現代美術の入門的な科目です。日本の近現代美術に関する課題に取り組みます。それぞれ指定された6作品の図版を集めて各作品について調べ、6作品すべての素描を完成させます。また、2つの作品を選んで1600字程度のレポートを作成します。

こうした方法による学習を通じて、近現代美術の基礎知識を身につけると共にその全体像を把握し、各地域においてどのように近現代美術が成立してきたのかについて理解を深めることが到達目標です。

評価基準と成績評価方法

- 1、素描
 - ・作品をしっかり観察して描いているか。
 - ・丁寧に描いているか。

※巧拙は評価基準ではありません。
- 2、キャプション
 - ・適切な情報が記載されているか。
 - ・誤字・脱字はないか。
- 3、レポート
 - ・自分の言葉で具体的に論述できているか。
 - ・作品に関する適切な情報が、正しい文章で書かれているか。

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

成績評価方法は、全課題の平均と試験の平均です。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『20世紀美術』 補助教材：『近現代美術』（2002年4月1日付以降発行のもの）
------	---

テキスト	配本されていないテキスト（および補助教材）の入手については『学習ガイド』の「テキスト配本」の項を確認のうえ、巻末書式の「テキスト送付・購入申込書」で請求してください。
参考文献・URL	『20世紀美術』 高階秀爾 ちくま学芸文庫 1993年 『世界美術大全集 西洋編』 25～28巻 小学館 1994～1996年 『近現代の芸術史 造形篇I 欧米のモダニズムとその後の運動』 林洋子編 藝術学舎 2013年 『近現代の芸術史 造形篇II アジア・アフリカと新しい潮流』 林洋子編 藝術学舎 2013年 画像検索 (ART CYCLOPEDIA) http://www.artcyclopedia.com/

レポート課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	1、添削指導評価書 2、素描シート（シラバス巻末の指定用紙、またはairUシラバスの「教材提供」ページからダウンロード） 3、レポート本文 手書きの場合：大学指定レポート冊子の原稿用紙面または任意の400字原稿用紙面4枚程度・ヨコ書き、 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に1600文字程度・ヨコ書き 4、宛名表紙（レポート冊子に綴込のもの あるいは『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返送先明記・切手不要）
再提出物 (一括送付)	1、再提出用添削指導評価書 2、再提出レポート本文 3、前回提出（=D評価）の添削指導評価書（添削文含む）、レポート本文、宛名表紙

課題の内容

以下の6つの作品の図版を教科書や参考図書などから自分で探してください。

次にシラバス巻末の素描シートを6枚コピー（airUシラバスの場合は「教材提供」ページからPDF形式でダウンロードして印刷）して、各作品の基本データをキャプション欄に記載すると共に、6作品すべての素描を素描シートに完成させてください。

さらに、以下の6つの作品から2作品を選び、1作品800字程度を目安に、合わせて1600字程度でそれぞれの重要性について論じなさい。なお、レポートの冒頭に選んだ2作品を明記すること。また、参考文献は、レポートの末尾に明記してください。

1. 上村松園《序の舞》（テキスト『20世紀美術』p.22）
2. 速水御舟《炎舞》（テキスト『20世紀美術』p.106）
3. 萬鐵五郎《裸体美人》（テキスト『20世紀美術』p.118／『近現代の芸術史 造形篇II』p.20）
4. 梅原龍三郎《竹窓裸婦》（テキスト『20世紀美術』p.119／『近現代の芸術史 造形篇II』p.27）
5. 古賀春江《海》（テキスト『20世紀美術』p.126／『近現代の芸術史 造形篇II』p.26）
6. 関根伸夫《位相一大地》（テキスト『20世紀美術』p.188／『近現代の芸術史 造形篇II』p.55）

初回提出物 (一括送付)	1. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2. レポート本文 手書きの場合：大学指定レポート冊子の原稿用紙面または任意の400字原稿用紙面8枚程度・ヨコ書き、 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に3,200文字程度・ヨコ書き 3. 宛名表紙（レポート冊子綴込み、または『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返送先明記・切手不要） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 添削指導評価書と3. 宛名表紙は不要です。
再提出物 (一括送付)	1. 再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2. 再提出レポート本文 3. 前回提出（=D評価）のレポート（添削指導評価書（添削文含む）、レポート本文、宛名表紙） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 再提出用添削指導評価書と3. 前回提出レポートは不要です。

課題の内容

中国宋時代の陶磁器の特色について述べよ。（3,200字程度）

○レポート作成にあたっての注意事項

レポート作成時の注意として、時代背景について書くときに、政治史的な部分に重きを置きすぎないこと。また、宋代の陶磁器の様式（器形、釉、文様など）がどのようなものか、他の時代の様式とどこが違うのかに留意してください。

TR	写真論1	科目コード： 40546
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	郵送・窓口・airU ※再提出の場合の提出方法は、初回提出方法に準ずる。	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	有	
担当者	高橋千晶*、森井真一、大崎智史	

科目概要と到達目標

写真は、描画補助装置としての「カメラ・オブスクラ」を起源としますが、今日のデジタル写真に至るまで、技術的進化とともに表現方法や社会的役割をさまざまに変えつつ、発展をとげてきました。この科目では、私たちにとって身近な媒体である「写真とは何か？」という問題に迫ります。

「写真論1」のテキストでは、二人の人物の対話篇というスタイルで、「写真の歴史と現在」を次の12のキーワード——（1）光、（2）旅、（3）瞬間、（4）顔、（5）絵画、（6）社会、（7）モノ、（8）都市、（9）鏡と夢、（10）記憶、（11）自己、（12）デジタル——から語っています。テキストを通読して、関連する文献も手掛かりにしながら、写真という媒体の豊かな可能性と多様な役割を探求してください。この科目の目標は、次の3点です。

- ①写真の歴史的展開と応用範囲の拡大について理解を深めること。
- ②重要な写真家や写真表現の動向について知識を養うこと。
- ③受講者各自がそれぞれ興味のあるテーマを見出し、写真という媒体の可能性を見出すこと。

評価基準と成績評価方法

- 1、課題の理解（問題意識の鮮明さ）
- 2、具体的情報の把握（作品分析の的確さ）
- 3、文章の構成（表記の正確さ・構成の明快さ）
- 4、結論の表明（着眼点の鋭さ・結論の独自性）

当科目においては、各項目を「S・A・B・C・D」の五段階で評価します。Dは不合格です。

成績評価方法は、全課題の平均と試験の平均です。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『写真概論』（本学テキスト） 配本されていないテキストの入手については『学習ガイド』の「テキスト配本」の
------	---

テキスト	項を確認のうえ、巻末書式の「テキスト送付・購入申込書」で請求してください。
参考文献・URL	『カラー版：世界写真史』 飯沢耕太郎監修 美術出版社 2004年 『写真の歴史』 ナオミ・ローゼンブラム 大日方欣一他訳 美術出版社 1998年 『「知の再発見」双書109 写真の歴史』 クエンティン・バジャック 伊藤俊治監修 創元社 2003年 『写真のアルケオロジ』 ジェフリー・バッチェン 前川修/佐藤守弘/岩城覚久訳 青弓社 2010年 『アンチ・スペクタクル：沸騰する映像文化の考古学』 ダイ・ヴォーン他長谷正人他編訳 東京大学出版会 2003年 『視覚論』 ハル・フォスター編 樽沼範久訳 平凡社 2000年 『〈写真と絵画〉のアルケオロジ』 伊藤俊治 白水社 1987年 『日本写真史概説』 長野重一・飯沢耕太郎編 岩波書店 1999年

レポート課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	1. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2. レポート本文 手書きの場合：大学指定レポート冊子の原稿用紙面または任意の400字原稿用紙面8枚程度・ヨコ書き、 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に3,200文字程度・ヨコ書き 3. 宛名表紙（レポート冊子綴込み、または『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返送先明記・切手不要） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 添削指導評価書と3. 宛名表紙は不要です。
再提出物 (一括送付)	1. 再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2. 再提出レポート本文 3. 前回提出（=D評価）のレポート（添削指導評価書（添削文含む）、レポート本文、宛名表紙） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 再提出用添削指導評価書と3. 前回提出レポートは不要です。

課題の内容

テキストを通読して関心をもったテーマを選び、そのテーマに関連する写真家を少なくとも2人取り上げて以下の作業を行い、合わせて3200字程度で記してください。

【作業1】それぞれの写真家の写真作品を比較して共通点と相違点を導き出しなさい。

※ここでは、比較対象の選択が妥当であるかどうか、比較作業によってそれぞれの特徴を的確に導き出せているかどうかの評価のポイントになります。

【作業2】なぜそのような共通点や相違点が生まれたのかを、社会的背景や技術的進化などを踏まえて説明しなさい。

※ここでは、写真の歴史的展開の理解度、受講生自身の着眼点の鋭さ、結論の独自性によって評価します。

○提出にあたっての注意事項

・テーマの選択は、各章のキーワード——（1）光、（2）旅、（3）瞬間、（4）顔、（5）絵画、（6）

社会、(7)モノ、(8)都市、(9)鏡と夢、(10)記憶、(11)自己、(12)デジタル——に準じてください。

これらのキーワードのいくつかに共通性があると見なせる場合は(たとえば(6)社会と(8)都市など)、複数のキーワードを合体させても構いませんが、どのテーマを選んだのかを明記してください。

・写真家の選択については、テキストに登場する写真家でも良いですし、テキストで取り上げられていない写真家を選ぶことも可能です。

・【作業1】と【作業2】の割合は、各自で自由に設定してください。

・参考文献や参照URLを明記してください。

・引用箇所には必ず註をつけてください。長すぎる引用は註に回してください。

・レポート内で取り扱う作品については、すべて「制作者名、タイトル、制作年」を明記してください。特に重要な作例は画像を添付してください。ただし、画像のコピーやスキャンが困難な場合は、添付がなくても構いません。

TR	写真論2	科目コード： 40547
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	郵送・窓口・airU ※再提出の場合の提出方法は、初回提出方法に準ずる。	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	有	
担当者	高橋千晶＊、唄邦弘、森井真一	

科目概要と到達目標

今日、写真はますますその応用範囲を広げ、記録・報道・広告・芸術などさまざまな領域を横断しながら、現代社会の重要なコミュニケーション・ツールとして機能しています。まさに写真の氾濫と呼べる今日の状況において、こうした写真イメージを適切に理解するためには、「写真を読む」視点を養うことが必須といえるでしょう。

「写真論2」のテキストでは、写真に関する問題系を（1）身体／自己／性、（2）記録と表現、（3）メディアとジャーナリズム、（4）光／暗箱／痕跡、（5）時間と空間、という5つのテーマに大別し、各論でより個別の問題へと踏み込んでいます。テキストを通読して興味をもった問題領域を選び、その問題を深く追求するために他の参考文献も活用して情報を集めましょう。

本科目の目標は以下の通りです。

- ① 写真の領域の多様性と、その歴史的展開について知識を養うこと。
- ② それぞれの写真の領域（ジャンル）が、どのような社会的役割や文化的役割を果たしてきたのかについて、具体例をもとに説明する力を身につけること。
- ③ それぞれの写真の領域（ジャンル）が、これからの社会でどのような意義を担うのか、自分自身の考えを呈示すること。

評価基準と成績評価方法

- 1、課題の理解（問題意識の鮮明さ）
- 2、具体的情報の把握（作品分析の的確さ）
- 3、文章の構成（表記の正確さ・構成の明快さ）
- 4、結論の表明（着眼点の鋭さ・結論の独自性）

当科目においては、各項目を「S・A・B・C・D」の五段階で評価します。Dは不合格です。

成績評価方法は、全課題の平均と試験の平均です。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『写真芸術論』（本学テキスト） 配本されていないテキストの入手については『学習ガイド』の「テキスト配本」の項を確認のうえ、巻末書式の「テキスト送付・購入申込書」で請求してください。
参考文献・URL	『写真のアルケオロジ』 ジェフリー・バッチェン 前川修/佐藤守弘/岩城覚久 訳 青弓社 2010年 『写真のキーワード：技術・表現・歴史』 ジル・モラ 前川修他訳 昭和堂 2001年 『写真をく読む＞視点』 小林美香 青弓社 2005年 『写真論』 スーザン・ソントグ 近藤耕人訳 晶文社 1979年 『他者の苦痛へのまなざし』 スーザン・ソントグ 北條文緒訳 みすず書房 2003年 『第三の意味』 ロラン・バルト 沢崎浩平訳 みすず書房 1985年 『明るい部屋：写真についての覚書』 ロラン・バルト 花輪光訳 みすず書房 1985年 ベンヤミン「写真小史」「複製技術時代の芸術作品」（『近代の意味：ベンヤミン・コレクションⅠ』 浅井健二郎編訳 ちくま学芸文庫 1995年所収） 『写真との対話』 近藤耕人・管啓次郎編 国書刊行会 2005年

レポート課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	1. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2. レポート本文 手書きの場合：大学指定レポート冊子の原稿用紙面または任意の400字原稿用紙面8枚程度・ヨコ書き、 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に3,200文字程度・ヨコ書き 3. 宛名表紙（レポート冊子綴込み、または『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返送先明記・切手不要） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 添削指導評価書と3. 宛名表紙は不要です。
再提出物 (一括送付)	1. 再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2. 再提出レポート本文 3. 前回提出（=D評価）のレポート（添削指導評価書（添削文含む）、レポート本文、宛名表紙） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 再提出用添削指導評価書と3. 前回提出レポートは不要です。

課題の内容

写真のジャンル（肖像写真、風景写真、報道写真、広告写真など）を一つ選択し、次の作業を行い、合わせて3200字程度で記してください。

【作業1】 選択した写真ジャンルの歴史的展開を踏まえて、そのジャンルを自分なりに定義をしてください。

【作業2】 【作業1】の成果を活用して、特定の時代や地域において、その写真ジャンルがどのような社会的役割や文化的役割を果たしてきた／果たしていくのか、具体例を挙げて論じなさい。

○提出にあたっての注意事項

- ・写真ジャンルについては、上記のもの以外にも、「家族写真」「静物（モノ）写真」「ファッション写真」など、様々な種類が想定できます。自分が興味をもったジャンルを自由に選択してください。
- ・あるジャンルの歴史的変遷を記して終わるのではなく、特定の時代や地域の事例を具体的に語ることに特に注意を向けてください。
- ・【作業1】と【作業2】の割合は、各自で自由に設定してください。
- ・参考文献や参照URLを明記してください。
- ・引用箇所には必ず註をつけてください。長すぎる引用は註に回してください。
- ・レポート内で取り扱う作品については、すべて「制作者名、タイトル、制作年」を明記してください。特に重要な作例は画像を添付してください。ただし、画像のコピーやスキャンが困難な場合は、添付がなくても構いません。

TR	デザイン論1	科目コード： 40548
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	※2014年度まで開講していた「現代デザイン論」の単位を修得済みの場合、履修は不可	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	郵送・窓口・airU ※再提出の場合の提出方法は、初回提出方法に準ずる。	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	有	
担当者	成實弘至*、吉田拓、古川真宏	

科目概要と到達目標

日本人は「デザイン」をどのように受容し、自分たちの文化として発達させてきたのでしょうか。本科目では明治以降の日本デザインの展開をたどり、西洋化、工業化、情報化などを経て、段階的に進んできた歩みを丁寧に学習します。

本科目の目標は、近現代日本のデザイン史を学ぶことを通して、それぞれの時代においてどのようにそれが構想・実現されてきたかを知り、デザインと社会とのかかわりを理解すること、さらに、これからどのような役割を果たすべきかについて、自分の力で考える力を養うことにあります。

評価基準と成績評価方法

- ・テキストの内容を理解しているか
- ・自分なりの問題意識があるか
- ・他の文献にあたるなど、独自の調べをおこなっているか
- ・文章の構成が明快か、論旨がはっきりしているか
- ・独自の見解、意見をもっているか

成績評価方法は、全課題の平均と試験の平均です。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『現代デザイン論』 藤田治彦著 京都造形芸術大学通信教育部 配本されていないテキストの入手については『学習ガイド』の「テキスト配本」の項を確認のうえ、巻末書式の「テキスト送付・購入申込書」で請求してください。
参考文献・URL	『日本デザイン史』 竹原あき子 森山明子監修 美術出版社 『近代日本デザイン史』 長田謙一 樋田豊郎 森仁史編 美学出版 『戦後日本デザイン史』 内田繁著 みすず書房

初回提出物 (一括送付)	1. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2. レポート本文 手書きの場合：大学指定レポート冊子の原稿用紙面または任意の400字原稿用紙面8枚程度・ヨコ書き、 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に3,200文字程度・ヨコ書き 3. 宛名表紙（レポート冊子綴込み、または『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返送先明記・切手不要） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 添削指導評価書と3. 宛名表紙は不要です。
再提出物 (一括送付)	1. 再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2. 再提出レポート本文 3. 前回提出（=D評価）のレポート（添削指導評価書（添削文含む）、レポート本文、宛名表紙） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 再提出用添削指導評価書と3. 前回提出レポートは不要です。

課題の内容

デザインは時代、社会とどうかかわってきたのでしょうか。まず、テキスト『現代デザイン論』を読んで、4つの章（「産業芸術としてのデザイン」「生活芸術としてのデザイン」「情報芸術としてのデザイン」「環境芸術としてのデザイン」）から、自分が興味を持った章、あるいはデザイン分野を選んで、その流れ・展開をまとめてください。選ぶのは1つでも、複数でもかまいません。その上で、第二に、日本のデザインがどんな課題を解決してきたのかを考察したあとで、具体的な事例に焦点をあてたり、特定の観点から掘り下げたり、興味のあるテーマを設定するなどして、これからどんな課題と向きあうべきなのかを考えてください。

TR	デザイン論2	科目コード： 40549
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	※2014年度まで開講していた「現代デザイン論」の単位を修得済みの場合、履修は不可	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	郵送・窓口・airU ※再提出の場合の提出方法は、初回提出方法に準ずる。	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	有	
担当者	成實弘至*、吉田拓、古川真宏	

科目概要と到達目標

近現代デザイン史について学びます。19世紀から現在まで、主として欧米のデザインにおける主要な人物、運動、作品、出来事を学習することを通して、先人がデザインとどう格闘してきたかを概観します。

現在のデザインは消費社会の尖兵として、大量生産・大量消費を促進する道具となっている観も否めません。一度立ち止まって、デザインの原点に立ち戻りその由来を確認すること、歴史の広がりにおいてデザインの役割をとらえ直すこと。それによって、デザイン本来の可能性を取り戻すために何をするべきかを考える一助になることを目的としています。

評価基準と成績評価方法

- ・テキストの内容を理解しているか
- ・自分なりの問題意識があるか
- ・他の文献にあたると、独自の調べをおこなっているか
- ・文章の構成が明快か、論旨がはっきりしているか
- ・独自の見解、意見をもっているか

成績評価方法は、全課題の平均と試験の平均です。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『デザイン史を学ぶクリティカル・ワーズ』 高島直之監修 フィルムアート社 配本されていないテキストの入手については『学習ガイド』の「テキスト配本」の項を確認のうえ、巻末書式の「テキスト送付・購入申込書」で請求してください。
参考文献・URL	『世界デザイン史』 阿部公正監修 美術出版社 『デザイン史とは何か』 ジョン・ウォーカー著 技報道出版 『欲望のオブジェ』 アドリアン・フォーティ著 鹿島出版会

初回提出物 (一括送付)	1. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2. レポート本文 手書きの場合：大学指定レポート冊子の原稿用紙面または任意の400字原稿用紙面8枚程度・ヨコ書き、 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に3,200文字程度・ヨコ書き 3. 宛名表紙（レポート冊子綴込み、または『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返送先明記・切手不要） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 添削指導評価書と3. 宛名表紙は不要です。
再提出物 (一括送付)	1. 再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2. 再提出レポート本文 3. 前回提出（=D評価）のレポート（添削指導評価書（添削文含む）、レポート本文、宛名表紙） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 再提出用添削指導評価書と3. 前回提出レポートは不要です。

課題の内容

社会において、デザインはどんな問題と対峙してきたのでしょうか。またデザインは時代の要請にどう応え、人びとの欲望をどうかき立ててきたのでしょうか。

テキストを通読し、19世紀～20世紀のデザインの流れを学んだうえで、興味を持ったデザイナーの考え方・作品、装飾デザイン運動、出来事、歴史を選び、その意義を論じてください。具体的に装飾・デザインの事例を参照・解説したうえで、冒頭の二つの問いについて、自分自身の考えを述べてください。

TR	都市概論	科目コード： 40645
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※建築デザインコースの方：卒業のための必修科目です。 ※2017年度以前入学のランドスケープデザインコースの方：卒業のための選択必修科目です。	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	airU	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	有	
担当者	井口勝文*、倉知徹、中島宏典	

科目概要と到達目標

明治維新以来、我々は西洋に倣う都市化に懸命に務めてきた。第2次世界大戦以後は、戦災復興から高度経済成長に至る都市開発に懸命に対応してきた。その結果我々は世界に誇る便利、安全、快適な町に住んでいる。しかしそこに「美しさ」を求める価値観が欠けていなかったか？その反省がようやく社会の問題として意識されるようになってきた。都市計画の最終目的は美しい町をつくることだ、と言ってもいいだろう。美しい町は決して偶然に生まれるものではない。意識され、計画し設計されて初めてそれは出来る。美しい町とはどんな町なのか。どうすれば実現できるのか。都市景観に関する多角的な視点に立って論じる力を習得してください。

評価基準と成績評価方法

1. 課題の把握と主張は的確か
2. 文章の表現、構成は的確か
3. 論点が整理されて主張には論理的な説得力があるか
4. 具体的な事例、経験に基づく主張であるか
5. 借り物でない独自の観点に基づく主張であるか

本科目の成績評価は課題と単位修得試験の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『都市のデザイン』 都市美研究会 学芸出版社 2002年 建築デザインコース以外の方：各自で購入してください。（『学習ガイド』p.82 「書店購入テキスト（学部共通専門教育科目）」参照）
参考文献・URL	『失われた景観―戦後日本が築いたもの』松原隆一郎 PHP新書 ※我国の都市景観の今日的課題を適確に指摘した好書です。 『メルカテッロの暮し―イタリアの小さな町で考える、日本の都市の可能性』 京

参考文献・URL	都造形芸術大学出版局 ※ イタリアの小さな町の生活を紹介して何故イタリアの風景があんなに美しいのかを語ります。入手方法は「学習のポイント」欄を参照。 『都市計画教科書』都市計画教育研究会編 彰国社 ※ 課題に良く応えるためには都市計画の基本的な知識が必要です。本書の1, 2, 3, 9 章に目を通されることを勧めます。旧版が古書で比較的安価に入手可能
----------	--

レポート課題

課題コード：11

課題の内容

美しい町とはどんな町なのかを考えてください。そして美しい町をつくる設計の手法を考えてください。あるいはそれを実現するための社会への問題提起をしてください。観念的、抽象的でなく、具体的な設計手法、問題提起をしてください。なお、レポートには内容に相応しいタイトルやサブタイトルを付けること。

●提出物

1. レポート本文（3200文字程度）

※図版や写真の提出は任意

●図版・写真の提出方法

図版・写真を添付する場合はレポート本文とは別に添付ファイルとして提出してください。図版・写真に出典がある場合は「参考文献・註」の欄に出典リストを作成してください。（添付ファイルの提出は必須ではありません。）

※出典リストの例

fig.01：『○○』○○著 ●●出版

fig.02：『○○』（URLアドレス）

※添付ファイルはJPG形式とし、ファイル名は「学籍番号_fig.jpg」を用いてください。（例：34567890_fig01.jpg）

また、30文字以内の説明（キャプション）をつけてください。（例：fig.01：「○○○○○○」）

※ひとつあたりのファイルの容量は（5MB以下）とし、ファイルは最大8つまで提出できます。

※レポート文中に写真・図版をレイアウトして提出することはできません。

TR	住宅概論	科目コード： 40646
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※建築デザインコースの方：卒業のための必修科目です。	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	airU	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	有	
担当者	小野暁彦*、吉田裕枝、池田雪絵、酒井康介	

科目概要と到達目標

住宅を設計すること、特にわが国で設計する際に、現在までの日本住宅の歴史ということを知らずに設計することほど浅薄で危険なことはないであろう。湿潤多雨、高温、積雪など気候への対応、地震への技術的対応、技術の導入や社会・制度の変化における住宅様式の転用や変容、もちろんそのどれもが気の遠くなるような長時間の試行によって、前例を踏まえながら行われてきたことである。

ここではテキストに従って、第二次大戦後のいわゆる戦後小住宅の時代までに綿々とつながる（あるいは時々の切断を含む）日本住宅の歴史を振り返り、現在われわれが持つ住宅観がどこに拠って立つのかを自省しつつ、計画学的、歴史的、技術史的、社会的に検証を試みることを目的とする。

評価基準と成績評価方法

- 1、課題の把握
- 2、内容の把握
- 3、視点の明快さと論点の整理
- 4、表記・レポートの形式
- 5、文章表現力

本科目の成績評価は課題と単位修得試験の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『図説 日本住宅の歴史』 平井聖 学芸出版社 建築デザインコース以外の方：各自で購入してください。（『学習ガイド』p.82 「書店購入テキスト（学部共通専門教育科目）」参照）
参考文献・URL	なし

課題の内容

学習のポイントを踏まえ、日本住宅の歴史を、計画学的、歴史学的、技術史的、あるいは社会学的などの様々な見方において、あまり変化していない点（連続の相）と大きく変化した点（切断の相）を意識しながら概観しまとめる。さらにそれを引き継ぐ現代日本住宅が今後どうなっていくのか（いくべきか）についての考察を加える。

●提出物

1. レポート本文（3200文字程度）

※図表・写真の添付はできません。

TR	建築史1（近代） 科目コード： 40647
配当年次	1年次～
単位数	2
履修の前提条件	なし ※建築デザインコースの方：卒業のための必修科目です。 ※2017年度以前入学のランドスケープデザインコースの方：卒業のための選択必修科目です
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験
課題提出形態	airU
課題数	1
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。
単位修得試験	有
担当者	朽木順綱*、神戸啓、藤田慶、山本一貴、三木勲、本橋仁、松井健太

科目概要と到達目標

科学・技術の進歩や多様な芸術運動の展開など、近代とはあらゆるものが激しく変化を遂げた時代であるといえる。技術と芸術の両側面を有する建築もまた、こうしたなかで大きな変化を遂げた。当時の通念を超える様々な空間が相次いで実現される一方で、空間それ自体についての理念や概念も改めて問い直されることとなるのである。この科目では、そうした変化の過程について理解することを目的とし、現在につながる最も近い歴史として、自らの視点で読み解く分析力、批評力の習得を目指す。

評価基準と成績評価方法

- 1、課題の理解
- 2、議論の展開・文章表現
- 3、情報・資料の活用
- 4、具体性
- 5、独自の視点

本科目の成績評価は課題と単位修得試験の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『建築史－近代の建築－』 配本されていないテキストの入手については『学習ガイド』の「テキスト配本」の項を確認のうえ、巻末書式の「テキスト送付・購入申込書」で請求してください。
参考文献・URL	『近代建築の系譜－1900年以後 上・下巻』 W. J. R. カーティス著、澤村明ほか訳 鹿島出版会 『現代建築史』 ケネス・フランプトン 青土社 2003年 『近代・現代建築史（新建築学大系5）』 鈴木博之・山口廣 彰国社 1993年 『テキスト 建築の20世紀』 本田昌昭・末包伸吾 学芸出版社 2009年

参考文献・URL	『建築20世紀 part1/part2』 新建築社 『マトリクスで読む20世紀の空間デザイン』 矢代真己・田所辰之助・浜崎良実 彰国社 『近代建築史図集 新訂版』 日本建築学会編 彰国社
----------	--

レポート課題

課題コード：11

課題の内容

近代の建築や都市は、成立以来、つねに社会や芸術、思想の変化に応答しながら、多様な展開を遂げてきた。とりわけ20世紀においては、おおむね10年ごとの区切りで、その展開における特徴的な諸側面を見出すことができるといえる。そこで、1920年代や1960年代など、各自で注目する10年間を取り上げ、その年代での建築・都市がどのような展開を遂げたのか、取り上げる年代の前後の歴史的な関連性にも言及しつつ、具体的な作品や概念に加え、独自の観点を提示しながら簡潔に論述しなさい。教科書を含む複数の参考文献より知識を集約した上で、その10年間の社会や芸術、思想史の発展についてもよく調べ、それらがどのように影響しあっていたと考えられるのか、自分自身の考えや解釈へと発展させた成果を期待している。なお、レポートには内容に相応しいタイトルやサブタイトルをつけること。

●提出物

1. レポート本文（3200文字程度）

※図版や写真の提出は任意。

●提出にあたっての注意事項

図版・写真を添付する場合はレポート本文とは別に添付ファイルとして提出してください。図版・写真に出典がある場合は「参考文献・註」の欄に出典リストを作成してください。（添付ファイルの提出は必須ではありません。）

※出典リストの例

fig.01：『〇〇』〇〇著 ●●出版

fig.02：『〇〇』（URLアドレス）

※添付ファイルはJPG形式とし、ファイル名は学籍番号_fig.jpgを用いてください。

（例：34567890_fig01.jpg）また、30文字以内の説明（キャプション）をつけてください。

（例：fig.01：「〇〇〇〇〇」）

※ひとつあたりのファイルの容量は（5MB以下）とし、ファイルは最大8つまで提出できます。

※レポート文中に写真・図版をレイアウトして提出することはできません。

TR	建築史2（西洋）	科目コード： 40648
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※建築デザインコースの方：卒業のための選択必修科目です。 ※2017年度以前入学のランドスケープデザインコースの方：卒業のための選択必修科目です	
履修方法	airU	
課題提出形態	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	有	
担当者	西田雅嗣*、小島見和、原愛、嶋崎礼、三木勲	

科目概要と到達目標

明治以降、日本建築はヨーロッパの建築を自らの建築としたので、ヨーロッパ建築の歴史は日本建築の歴史です。パルテノン、現在の日本建築の祖先の一つです。こうしたリアリティーを持って西洋の建築の歴史を学びましょう。

先人たちが建築の名の下にどんなことを考え、何を建ててきたのか、建築の名の下に何が建てられてきたのか。こうした側面を、時代様式をガイドとして、古代ギリシアから19世紀まで概観します。時代様式毎に、その様式の特質、代表的な建築家・建築とその変遷過程を学びます。

この科目の目的は、過去の建築に対する無関心を払拭し、過去の建築に詰まった我々の記憶に思いをはせ、西洋文化における人間と建物との付き合い方としての「建築」の歴史を考えることです。

評価基準と成績評価方法

- 1、課題の把握
- 2、自分にとってのリアルな問題として課題をとらえているか
- 3、レポートを書き始めるまでに行った準備学習
- 4、文章の構成や、レポートの形式の工夫
- 5、文章表現

本科目の成績評価は課題と単位修得試験の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『建築史－西洋の建築－』 配本されていないテキストの入手については、『学習ガイド』の「テキスト配本」の項を確認のうえ、巻末書式の「テキスト送付・購入申込書」で請求してください。
参考文献・URL	※個々の建築物についての解説は以下の本に詳しい。

参考文献・URL	『西洋建築史図集 三訂版』 日本建築学会編 彰国社 『フレッチャー世界建築の歴史－建築・美術・デザインの変遷』 西村書店 （新版『フレッチャー図説世界建築の歴史大事典：建築・美術・デザインの変遷』（2012年11月）も有り） 『世界美術大全集 西洋編』 小学館 『シリーズ都市・建築・歴史』1－10 鈴木博之・石山修武・伊藤毅・山岸常人編 東京大学出版会 2005-2006年
----------	---

レポート課題

課題コード：11

課題の内容

テキストの中から、異なる時代様式に属する建築家、工匠、あるいは特定の建築を構想した人物を2人選び、あるテーマを設定して、あなたが司会進行役となって彼ら2人と共に3人で架空の鼎談（ていだん：3人で向かい合って話をする）を行い、その模様を3人の鼎談形式で書きなさい。必要に応じて図や写真などを添付しても良い。ただし、鼎談相手として20世紀以降の近代に属する人物を選んではいけない。

●提出物

1. レポート本文（3200文字程度）

※図版や写真の提出は任意。

●提出にあたっての注意事項

図版・写真を添付する場合はレポート本文とは別に添付ファイルとして提出してください。図版・写真に出典がある場合は「参考文献・註」の欄に出典リストを作成してください。（添付ファイルの提出は必須ではありません。）

※出典リストの例

fig.01：『○○』○○著 ●●出版

fig.02：『○○』（URLアドレス）

※添付ファイルはJPG形式とし、ファイル名は学籍番号_fig.jpgを用いてください。（例：34567890_fig01.jpg）

また、30文字以内の説明（キャプション）をつけてください。（例：fig.01：「○○○○○○」）

※ひとつあたりのファイルの容量は（5MB以下）とし、ファイルは最大8つまで提出できます。

※レポート文中に写真・図版をレイアウトして提出することはできません。

TR	建築史3（日本）	科目コード： 40649
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※建築デザインコースの方：卒業のための選択必修科目です。	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	airU	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	有	
担当者	岩本葉子、登谷伸宏、岩波由佳*	

科目概要と到達目標

日本の建築・都市の歴史を学習することにより、それらに関する基礎的な知識を得るとともに、日本列島において建築・都市がどのように成立し、時代とともに如何なる空間的・機能的変容を遂げたのかを理解することが目的である。さらに、そうした変容の背景にある各時代の建築技術や社会・文化のあり方についても考えられるようになってほしい。

また、それと合わせて、歴史的建造物、歴史的環境の保存が持つ意味を理解し、それらの保存・活用のあり方を自分なりに提示できるようにもなってほしい。

なお、建築・都市の特徴を把握するためには、テキストによる学習のみでは不十分であり、実際に各地の建築・都市を見学することが望ましい。

評価基準と成績評価方法

- 1、課題内容の理解
- 2、基本的な知識の獲得
- 3、論理的な議論の展開
- 4、参考文献の収集と内容の把握
- 5、独自の視点の設定

本科目の成績評価は課題と単位修得試験の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『建築史-日本の建築-』 配本されていないテキストの入手については『学習ガイド』の「テキスト配本」の項を確認のうえ、巻末書式の「テキスト送付・購入申込書」で請求してください。
参考文献・URL	(1) 太田博太郎監修『日本建築様式史』増補新装（美術出版、2010年） (2) 後藤治『日本建築史』建築学の基礎6（共立出版、2003年） (3) 鈴木博之・石山修武・伊藤毅・山岸常人編『シリーズ都市・建築・歴史』1-10（東京大学出版会、2005～2006年）

参考文献・URL	(4) 藤井恵介・玉井哲雄『建築の歴史』（中央公論社、1995年） (5) 日本建築学会編『日本建築史図集』（彰国社、2011年） ※(1) (2)の巻末には日本建築史に関する文献リストがあるので参考にすること。 上記以外にも参考文献リストがあります。「テキスト・教材学習」の【1】よりpdfファイルをダウンロードして確認してください。
----------	--

レポート課題

課題コード：11

課題の内容

レポートでは以下2つの問いについて記述してください。なお、文字の配分は自由とします。

(1) 古代から中世にかけて寺院建築の屋根構造は大きく変化しました。当該期における屋根構造の変容過程とその要因、およびそれが寺院建築の平面形式や形態などに与えた影響について“具体的な事例”を示しつつ論じなさい。

(2) 座敷飾は社会秩序の視覚的表現として、書院造を特徴づける要素となっています。以下3つの建物の座敷飾について意匠および室内における位置づけを比較しつつ、それぞれの特徴をまとめなさい。課題に取り組むにあたり図面や写真を参照すること。ただし、テキストの平面図や内部写真は読み取りにくい部分もあるので、必要に応じて参考文献からこれらを収集すること。

1. 同仁斎（東山殿東求堂内）
2. 二条城二の丸御殿大広間
3. 桂離宮新御殿

●提出物

1. レポート本文（3200文字程度）

※図版・写真の提出は任意。

●提出にあたっての注意事項

必ず参考文献を明記してください。

図版・写真を添付する場合はレポート本文とは別に添付ファイルとして提出してください。図版・写真に出典がある場合は「参考文献・註」の欄に出典リストを作成してください。（添付ファイルの提出は必須ではありません。）

※出典リストの例

fig.01：『〇〇』〇〇著 ●●出版

fig.02：『〇〇』（URLアドレス）

※添付ファイルはJPG形式とし、ファイル名は学籍番号_fig.jpgを用いてください。（例：34567890_fig01.jpg）

また、30文字以内の説明（キャプション）をつけてください。（例：fig.01：「〇〇〇〇〇」）

※ひとつあたりのファイルの容量は（5MB以下）とし、ファイルは最大8つまで提出できます。

※レポート文中に写真・図版をレイアウトして提出することはできません。

TR	建築環境工学	科目コード： 40650
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※建築デザインコースの方：卒業のための必修科目です。	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	airU	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	有	
担当者	池上陽子*	

科目概要と到達目標

建築における環境工学の重要性を認識し、環境工学の課題を学習し理解する。環境工学の基礎となる地球環境、環境保全、環境評価などの環境問題にかかわる課題を学習する。またこれらの課題を理解する上で基礎となる、建築を取り巻く光環境、日射環境、空気環境、音環境、熱環境、湿気環境などの基本事項を確実に理解し、活用できるレベルに達すること。
また学生への要望としては、常日頃から環境の重要性に対する認識を持ち環境問題に関心を持ってもらいたい。

評価基準と成績評価方法

- 1、課題内容の把握（問われている内容を正しく理解しているか）
- 2、理解の正確さ（重要キーワード（用語）を正確に理解しているか）
- 3、考察の深さ（十分な考察が来ているか。展開に誤りは無いか）
- 4、表記と文章力（誤字・脱字はないか。わかりやすい論理的な文章になっているか）

本科目の成績評価は課題と単位修得試験の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	<2018年度までの入学生>『ポイントで学ぶ建築環境・設備学読本』 田中毅弘 森北出版 <2019年度以降の入学生>『図説建築環境』松原斎樹 他 学芸出版社 ※デザイン科の方：配本されていないテキストの入手については『学習ガイド』の「テキスト配本」の項を確認のうえ、巻末書式の「テキスト送付・購入申込書」で請求（有料）してください。 ※芸術学科・美術科の方：各自で購入してください。
参考文献・URL	『初学者の建築講座 建築環境工学（第二版）』 倉淵隆 市ヶ谷出版社 『図説テキスト建築環境工学』 加藤信介・土田義郎・大岡龍三 彰国社 『最新建築環境工学』 田中俊六・他 井上書院

課題の内容

建築環境工学における以下の1.～5.の設問に答えよ。

※ 字数についてはおおよその目安であり、仮にその字数を超えたとしても無理して字数内に納める必要は無い。

※インターネットからの明らかな写しは評価の対象としません。

1. 近年マスコミ等でもよく取り上げられる環境問題の中からテーマを選び(一つでも複数でも可)、建物が「与える影響」「受ける影響」の両面からの考察とともに、その内容を解説せよ。(800字程度)

注1) 1つの環境問題に対して、建物が「与える影響」「受ける影響」の双方について必ず記述されていること。

注2) 「建物が与える影響」ならびに「建物が受ける影響」についてそれぞれ明確にわかるように記述されていること。

2. 屋外環境と室内環境に関する以下の問いに答えよ。

2-1. クリモグラフ(クライモグラフ)とはどのようなものか説明し、これを用いて日本の気候の特徴を述べよ。

2-2. また、その気候が日本の住宅建築にどのような特徴をもたらしたと思うか、各自の考えるところを述べよ。

(2-1、2-2の字数は自由、2-1と2-2を併せて400字程度)

3. 光環境に関する以下の問いに答えよ。また、それぞれについて解答(数値)を導いた過程を簡単に記すこと。また、図を使用した場合、どの文献のどの図を用いたか明記し、読み取り位置に印をつけるだけでなく、その図からどのように読み取ったか分かる図を添付すること。(各小問の字数は自由、全体で400字程度)

3-1-1. 光度が1000[cd]の様な配光を持つ点光源がある。この光源から2m離れた位置にあり、光線の向きに垂直な受照面での照度を求めよ。

3-1-2. また、光源からの距離が2mから4mになった場合、照度はどのように変化するか。

3-2. 2019年9月23日14時の東京において、地面に垂直に立てた高さ2mの棒の影の方向と長さを求めよ。ただし、方位角や太陽高度などに、自動的に算出できるホームページからの数値を用いてはならない。(均時差は無視しても良い。)

3-3-1. テキスト・教材学習>タブ2のページに挙げられている図において、受照点における窓の立体角投射率(昼光率)を求めよ。

3-3-2. また、窓面から受照点までの距離が半分の場合、ならびに2倍の場合の立体角投射率(昼光率)を求め、窓面から受照点までの距離が離れるほど、立体角投射率(昼光率)はどのように変化するか述べよ。

4. 熱環境、湿気環境に関する以下の3つの問いについて答えよ。

4-1. 複数の材料で構成された建物の外壁を挟んで、屋外の空気から屋内の空気へ(屋内から屋外へでも可)熱が伝わる過程を、「伝導」「伝達」「貫流」というキーワードの説明を含めて解説しなさい。(400字程度)

注) 日射の影響、壁中の中空層の存在は考慮しなくて良い。

4-2. 上の設問を踏まえ、冬季の夜間において、室内の壁の表面温度を求める方法を理由と一緒に説明せよ。(300字程度)

注1) 屋外温度と室内温度は常に一定であることを前提とする。

注2) 室内の壁の表面温度を求める計算式を日本語の文章で表現する必要はない。

4-3. 冬季の室内において窓のカーテンを閉めると、一般に窓ガラス表面の結露はよりひどくなると言

われている。このようになる理由を4-1, 4-2を踏まえ、下記の①～③を参考に自分なりに考えよ。(300字程度)

- ① 窓のカーテンを閉めることで、熱貫流率(熱貫流抵抗)はどのようになるのか。そして、熱貫流量はどのように変化するか。
- ② 熱貫流量が変化することで、4-2の方法を用いて室内側窓面温度がどのようになるか。
- ③ カーテンを閉める前と比べて、室内側窓面温度がどのように変化する、なぜ結露が発生するのか

5. 音環境に関する以下の問いについて答えよ。(各300字程度)

5-1. 音圧レベルと騒音レベルの違いについて、人間の聴覚の特性と関連付けて説明せよ。

5-2-1. 残響時間(以下、RTと表記)ならびにその計算方法について学習し、RTに影響を及ぼす空間の各要素について、その増減がRTの長短に及ぼす影響をその理由とともに整理せよ。(例: 室の〇〇が大きくなると、▲▲▲なので残響時間は短くなる、など)

5-2-2. また、建物完成後にRTが長過ぎることが明らかになった場合、適切なRTにするのにどのような具体的な対策が考えられるか述べよ。

●提出物

1. レポート本文(全体で3200文字程度)

※図版・写真の提出は、問題3-2ならびに問題3-3において図を用いて読み取りをした場合は必須。その他は任意であり、指定のテキストの図表は、レポートにページ数と図表番号を記載するのみでよい。ただし、図表に書き込みをしている場合は添付すること。

●提出にあたっての注意事項

図版・写真を添付する場合はレポート本文とは別に添付ファイルとして提出してください。図版・写真に出典がある場合は「参考文献・註」の欄に出典リストを作成してください。(添付ファイルの提出は必須ではありません。)

※出典リストの例

fig.01: 『〇〇』 〇〇著 ●●出版

fig.02: 『〇〇』 (URLアドレス)

※添付ファイルはJPG形式とし、ファイル名は学籍番号_fig.jpgを用いてください。(例: 34567890_fig01.jpg)

また、30文字以内の説明(キャプション)をつけてください。(例: fig.01: 「〇〇〇〇〇」)

※ひとつあたりのファイルの容量は(5MB以下)とし、ファイルは最大8つまで提出できます。

※レポート文中に写真・図版をレイアウトして提出することはできません。

TR	建築設備	科目コード： 40651
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※建築デザインコースの方：卒業のための必修科目です。	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	airU	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	有	
担当者	芳村恵司*、田中篤	

科目概要と到達目標

建築設備の基礎事項を学び、電気設備、給排水衛生設備、空調設備、防災設備、昇降機設備の基本システムを習得する。また実際の建築設備を通して、省エネルギー設備などの最新建築設備技術を習得する。

到達目標としては、建築設備に関する各種の課題に対して対応できることを目指すことである。また、建築と設備の融合した設計が出来るようになり、さらに環境と共生する建築設備をデザインできるようになることを目標とする。

評価基準と成績評価方法

- 1、課題内容の理解
- 2、論点の絞込み
- 3、表記・レポートの形式
- 4、キーワードの盛り込み

本科目の成績評価は課題と単位修得試験の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	<2018年度までの入学生>『ポイントで学ぶ建築環境・設備学読本』 田中毅弘 森北出版 <2019年度以降の入学生>『図説建築設備』村川三郎・芳村恵司 他 学芸出版 ※デザイン科の方：配本されていないテキストの入手については『学習ガイド』の「テキスト配本」の項を確認のうえ、巻末書式の「テキスト送付・購入申込書」で請求（有料）してください。 ※芸術学科・美術科の方：各自で購入してください。
参考文献・URL	『建築環境工学』 浦野良美・中村洋 森北出版 『最新建築設備工学』 田中俊六・他 井上書院 『初学者の建築講座 建築設備』大塚雅之 市ヶ谷出版社

レポート課題

課題コード：11

課題の内容

下記に示す建築設備における8つの分野について、それぞれ400字程度で解説しなさい。

1. 電気設備の幹線の配線方式を4種類挙げて、それぞれの概要と特徴を信頼性やコストを中心に説明しなさい。
2. 省エネルギー・省資源に配慮した設備システムについて全体像と具体例を論じなさい。
3. 空気調和設備計画の企画から実施設計までの各段階にしたがって概要を記し、その要点を示しなさい。
4. 空気調和設備の熱源設備を3つ挙げ、それぞれの概要と特徴を説明しなさい。
5. 湿り空気線図の原理と活用方法について説明しなさい。
6. エレベータの構造には、主なものとしてロープ式と油圧式があるが、それぞれの概要と特徴を説明しなさい。
7. 給排水衛生設備の給水方式を4つ示し、それぞれの概要と特徴を説明しなさい。
8. 設備計画を進めるにあたり、建築（建築計画、構造）と設備の接点において起こる問題点とその対策について述べなさい。

●提出物

1. レポート本文（3200文字程度）

※図版・写真の提出はできません。

TR	建築材料 科目コード： 40652
配当年次	1年次～
単位数	2
履修の前提条件	なし ※建築デザインコースの方：卒業のための必修科目です。 ※2017年度以前入学のランドスケープデザインコースの方：卒業のための選択必修科目です
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験
課題提出形態	airU
課題数	1
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。
単位修得試験	有
担当者	伊藤立平*、鴻野吉宏、浅野元樹

科目概要と到達目標

建物は環境の中で人間が生活するためにあり、それは自然界のものを加工した「材料」から出来ています。人間が歴史の中で獲得してきた様々な技術の一端を担う「建築材料」について、「成り立ち」・「現在」・「未来」の関係を捉える射程から理解することが目的です。まず古今東西の「具体的な建物」に照準を絞り、実際に見学したり、資料を調べたりして「観察」してください。その上で「気付いたこと」や「興味のあること」にテーマを定め、何故そうになっているのかを「考察」して下さい。「考察」して「観察」するとさらに理解が深まります。自分自身でテーマを見付け、「成り立ち」から「未来」を展望した魅力的なレポートを楽しみにしています。

評価基準と成績評価方法

- 1、視点の独自性（何かの真似ではなく、自分自身の意見が述べられているか）
- 2、観察したこと（建物をしっかり観察し、観察を深めるために接触・サンプル実験などを行っているか）
- 3、調べたこと（観察を踏まえて、または観察の準備として文献・資料等により調査・考察ができているか）
- 4、これからの可能性（上記のプロセスを経て、対象とした建築材料の特徴が、未来の展望の中で述べられているか）

本科目の成績評価は課題と単位修得試験の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『わかる！建築材料』 森長一郎 オーム社出版局 建築デザインコース以外の方：各自で購入してください（『学習ガイド』p.82「書店購入テキスト（学部共通専門教育科目）」参照）。
参考文献・URL	『初めての建築材料』 〈建築のテキスト〉編集委員会 学芸出版社 『初学者のための建築材料入門』 檜野紀元 鹿島出版会

参考文献・URL	『建築材料学』 三橋博三・大濱嘉彦・小野英哲 共立出版 『建材・設備はどこで何から作られているのか』 内田信平 エクスナレッジ 『初めての建築一般構造』 〈建築のテキスト〉編集委員会 学芸出版社 『構造デザイン講義』 内藤廣 王国社
----------	---

レポート課題

課題コード：11

課題の内容

実際の建物で材料が実際にどう使われているか、観察したこと・試みたこと・調べたこと・考えたことをレポートにまとめてください。

(1) 材料は、テキストの

- 第1章 石材
- 第2章 コンクリート
- 第3章 セラミックス
- 第4章 ガラスとカーテンウォール
- 第5章 金属
- 第6章 屋根材
- 第8章 木材
- 第9章 機能材料

に該当する部分から、興味のあるものを選んでください。選ぶのは、1つでも複数でも構いません。その際、選んだ材料の章と枝番を明記してください。

(例：1-1石灰岩、1-3大谷石、3-4モザイクタイル、を選んだ場合、解答の前に「1-1、1-3、3-4」と記載)

(2) 建物は、

- a. 日頃よく使う建物（家・学校・図書館・公民館・店舗・美術館など）
- b. 日頃から気になる建物
- c. メディアで見る有名な建物（歴史的建築物を含む）
- d. テキスト中に記載された建物（ただし、(1)で選択した章の中で直接参照している個々の建物は不可とします。）

以上の中から興味のあるものを選び、(1)で選んだ材料が実際にどう使われているかを調べてください。

選ぶのは、1つでも複数でも構いません。その際、選んだ建物の区別をアルファベット（a～d）で明記してください。

●提出物

1. レポート本文（3200文字程度）
2. 建物の全体が分かる写真および材料の部分が分かる写真、それぞれ少なくとも1点（画像データ）

●提出にあたっての注意事項

提出物2.の写真はレポート本文とは別に添付ファイルとして提出してください。図版・写真に出典がある場合は「参考文献・註」の欄に出典リストを作成してください。

※出典リストの例

fig.01：『〇〇』〇〇著 ●●出版

fig.02：『〇〇』（URLアドレス）

※添付ファイルはJPG形式とし、ファイル名は「学籍番号_fig.jpg」を用いてください。（例：

TR	建築生産	科目コード： 40653
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※建築デザインコースの方は卒業のための必修科目です。	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	airU	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	有	
担当者	木内利夫*	

科目概要と到達目標

企画・設計・施工・保全から構成される建築生産プロセスを対象にして、生産活動を構成する主体（人や組織）とその役割を学びます。主体、情報、資金、建築材料などによって建築生産システムが構築されています。このシステムの成り立ちを学習し、建築生産全体の流れや関与者の役割などの基礎的な事項を理解します。デザインや設計は、すべて、この建築生産システムを通してはじめて現実のものとなるのです。

まず、「建築生産」の意味、国内外の建築市場の規模など建築活動の全般を把握します。

次に、建築システムとプロセスを順に理解します。また、プロジェクトのマネジメントに必要な技術も学びます。そして、建築物の施工について、施工計画や施工管理の概要を学び、施工のプロセスを理解します。

一連の知識を習得することを通じて、建築生産への理解を深めたいと思います。

評価基準と成績評価方法

- 1、課題で問われている論点の理解が正確か
- 2、用語と文章表現が正確か
- 3、テキストの理解が正確か
- 4、要約の構成が的確か
- 5、自分の意見が明確に述べられているか
- 6、自分の意見と引用した箇所の書き分けが明瞭か

本科目の成績評価は課題と単位修得試験の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『建築生産』 古阪秀三編著 理工図書 2009年 ※2018年度新入生より2017年5月改訂版が配本となりますが、版が異なっても課題に取り組むには問題ありません。 ※デザイン科の方：配本されていないテキストの入手については『学習ガイド』の
------	---

テキスト	「テキスト配本」の項を確認のうえ、巻末書式の「テキスト送付・購入申込書」で請求（有料）してください。 ※芸術学科・美術科の方：各自で購入してください。
参考文献・URL	『建築生産論』 宮武保義 丸善 『CMガイドブック』 日本コンストラクション・マネジメント協会 相模書房 『建築生産ハンドブック』 古阪秀三 総編集 朝倉書店 『図解事典建築のしくみ』 建築図解事典編集委員会編 彰国社

レポート課題

課題コード：11

課題の内容

テキストをよく読み理解してから、以下の建築生産に関する各テーマについて述べなさい。
テーマ(1)～(5)はそれぞれ200文字程度（計1000文字程度）で、テーマ(6)～(10)はこのうち2つを選択し、それぞれ1100文字程度（計2200文字程度）で述べることとする。

【要約型】

以下の(1)～(5)について、それぞれ200文字程度で述べなさい。

解答の前に、設問番号(1)～(5)を明記すること。

- (1)建築プロジェクトの特徴と建築生産プロセス
- (2)建築生産を取り巻く社会のしくみ
- (3)建築プロジェクト組織と調達方式
- (4)施工計画
- (5)建築施工における管理項目

【記述型】

以下の(6)～(10)から2つを選択し、それぞれ1100文字程度で述べなさい（個人意見を中心とする）。
解答の前に、(6)～(10)のどの設問を選択したかを明記すること。また、引用・参考文献を明記すること。

- (6)建設市場の変化に対する生産組織の対応
- (7)建設産業におけるマネジメント
- (8)日本の建築生産システムの特徴
- (9)建築生産プロセスにおける品質確保の取り組み
- (10)海外建設市場における日本企業の競争力

●提出物

1. レポート本文（3200文字程度）

※図版・写真の提出は任意。

●提出にあたっての注意事項

図版・写真を添付する場合はレポート本文とは別に添付ファイルとして提出してください。図版・写真に出典がある場合は「参考文献・註」の欄に出典リストを作成してください。（添付ファイルの提出は必須ではありません。）

※添付ファイルはJPG形式とし、ファイル名は学籍番号_fig.jpgを用いてください。

（例：34567890_fig01.jpg）また、30文字以内の説明（キャプション）をつけてください。

（例：fig.01：「〇〇〇〇〇」）

※ひとつあたりのファイルの容量は（5MB以下）とし、ファイルは最大8つまで提出できます。

※レポート文中に写真・図版をレイアウトして提出することはできません。

TR	建築法規	科目コード： 40654
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※建築デザインコースの方：卒業のための必修科目です。	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	airU	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	有	
担当者	岩村眞樹雄*	

科目概要と到達目標

建築家は、プロジェクト・マネージャーとして設計全般について把握しながら計画をまとめていくことを求められています。意匠・構造・設備の各設計を建築主の要求に合わせてまとめるに当たり、建築基準法及びその関連法令等を十分に理解して計画を進める必要があります。本課題では、実際にプロジェクトを計画することで建築基準法及び関連法令等がどのような形で、プロジェクトに影響や制限を及ぼしているかについて学びます。

また、建築基準法及び関連法令等を十分に理解することにより、デザインの自由度を高め必要最小限の設計にとどまらない視点を養います。

評価基準と成績評価方法

- 1、課題内容の把握
- 2、論点の絞り込みおよび正確さ
- 3、表記と文章表現力
- 4、発想力（奇抜なデザインは求めている）

本科目の成績評価は課題と単位修得試験の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『絵ときでわかる建築法規』 中村忠実 オーム社出版局 ※デザイン科の方：配本されていないテキストの入手については『学習ガイド』の「テキスト配本」の項を確認のうえ、巻末書式の「テキスト送付・購入申込書」で請求（有料）してください。 ※芸術学科・美術科の方：各自で購入してください。
参考文献・URL	『建築基準法令集』 『建築基準法を読みこなすコツ』 学芸出版社 『図解よくわかる建築基準法』 日本実業出版社

レポート課題

課題コード：11

課題の内容

別に定める設定による、建築主の要望する1つのプロジェクトを計画しなさい。建築家として施主の希望を聞き、計画を進める場合に、建築基準法関連法令がそのプロジェクトにどのように影響したのか、また制限の有無による規制の違いをどのように理解して計画したのかを論述しなさい。

(1)敷地の設定

1. 設定敷地はWeb教材「敷地図」の通りであり、記載以外に地域地区等の指定はないものとします。
（「敷地図」はairUマイページ＞カリキュラム一覧＞建築法規＞「テキスト・教材学習」ページからダウンロードする。）
2. ある地方の主要都市の中心市街地で、JRや私鉄の駅から徒歩数分にあたる平坦な敷地です。
3. 道路等との高低差はなく、地盤は良好です。
4. 杭地業等は不要で、地下水位も地盤面から10mほど下方です。

(2)建築主の要望等

1. 敷地は全て、一個人の所有地で、現在は賃貸駐車場を経営して収益を上げています。
2. 計画する建築物の用途は、下層階に貸店舗及び貸事務所を有する単身者用賃貸共同住宅です。
なお、店舗及び事務所部分は必要に応じて、様々に区画が出来るように考慮すること。
3. 本敷地を有効に使い、将来にわたっても入居率の高い高品質の建築を計画すること。
4. 店舗及び事務所用の駐車場は、隣接する敷地に別途に賃貸駐車場を確保しますが、共同住宅の居住者用として戸数分の駐輪場（バイクを含む）と戸数の1/5以上の駐車場及び外来者用駐車場2台設置すること。

(3)構造及び施工コストは特に指定しません。

●提出物

1. レポート本文（3200文字程度）
2. レポートの意図が判る簡単なスケッチ（平面図・断面図等）（JPEGファイル／5枚以内）
3. スケッチに関する面積表（1枚／JPEGファイル）

●提出にあたっての注意事項

（1）提出物「2.」としてレポート本文およびレポートの意図が判る簡単なスケッチ（平面図、断面図等。「Q&A」の項を参照）を提出してください。スケッチは手描き、CADなどのパソコンソフト使用のいずれも可としますが、縮尺は正確であること。手描きの場合はスキャンしてデータ化してください。スケッチ内の寸法および文字フォントは印刷して読むのに適切なサイズ（10.5ポイント程度）とすること。

（2）レポート作成の際に、建築基準法や関連法令等をどのように検討したのかを明確にするために、キーワード（建築基準法等の条項及び見出、例えば第一条は（目的））を1～3個選び出し、それらとの関連を説明しながら具体的に考察すること。

（3）建築基準法を調べ始めると、その膨大な規制に頭を抱えるかもしれませんが、文字数を考慮し、そのプロジェクトの中でより重要と思われるものを中心に選び出し、まとめてください。なお、建築基準法条文の羅列は必要ありません。「あなたの計画が建築基準法等の規制によりどのように変化したの

か、または条項の改正追加等の提言」を論の核にしてください。

(4) スケッチ（計画建築物）に関する各種の面積表を根拠（算式）と共に提出してください（「Q&A」の項を参照）。

※添付ファイルはJEPG形式とし、ファイル名は学籍番号を用いてください（例：34567890_01.jpg）。

※また各ファイルには30文字以内の説明（キャプション）を付けてください。

※ひとつあたりのファイル容量は（5MB以下）でファイルは最大6つまで提出できます。

※レポート文中に写真・図版をレイアウトして提出することはできません。

TR	構造力学1	科目コード： 40655
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	airU	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	有	
担当者	朝川剛*、貞許美和、押田光弘	

科目概要と到達目標

建築の骨格をなす構造躯体。重力・風・地震など、想定される様々な力に対して安全な構造躯体を造っていくためには、力が作用した場合に構造躯体に生じる力を理解し、これを数値的に求めることが必要となる。

構造躯体は通常複数の部材を組み合わせて構成されているが、この科目では、基本となる静定構造（単純梁・単純トラスなど）の断面力について理解できるよう進める。

構造力学により構造躯体の挙動を把握するための基礎的知識として、まず力の基礎、力のつりあいについて理解する。

次に部材に力が作用した場合に、部材内部に生じる力（断面力）および反力についての概念を学び、また具体的にそれらの数値を求められるようになることを目標とする。

この科目では、力のつりあい条件より部材断面力を求めることができる静定構造について学ぶ。

評価基準と成績評価方法

- 1、課題の理解（課題に取り組むにあたっての留意点を満足しているか）
- 2、文章の正確さや分かりやすさ
- 3、イラストの数と表現力
- 4、創意工夫（分かりやすくなるような独自の言葉・イラスト等）
- 5、全体の構成（テーマを理解させるための適切な構成となっているか）

本科目の成績評価は課題と単位修得試験の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	<2018年度までの入学生>『図説やさしい構造力学』 浅野清昭 学芸出版社 <2019年度以降の入学生>『改訂版 図説やさしい構造力学(2017/09/20 第1版)』 浅野清昭 学芸出版社 ※ランドスケープデザインコース・空間演出デザインコースの方：『学習ガイド』
------	---

テキスト	の「テキスト配本」の項を確認のうえ、巻末書式の「テキスト送付・購入申込書」で請求してください。 ※芸術学科・美術科・情報デザインコースの方：各自で購入してください。 『図説やさしい構造力学』、『改訂版 図説やさしい構造力学（2017/09/20第1版）』のどちらでも課題に取り組みますが、課題文において参照するページが異なりますので課題文中のページ数を確認してください。小テストにおける参照ページは「テキスト・教材学習」ページに対応表がありますので事前に確認したうえで取り組んでください。
参考文献・URL	『〈建築学テキスト〉 建築構造力学I 静定構造力学を学ぶ』坂田弘安、島崎和司 学芸出版社 2017年7月 改訂版4刷 『〈建築学テキスト〉 建築構造力学II 不静定構造力学を学ぶ』坂田弘安、島崎和司 学芸出版社 2011年2月 改訂版1刷

レポート課題

課題コード：11

課題の内容

「部材に生じる力」について解説した分かりやすい構造力学の教科書を作成しなさい。且つその中にテキストp.76、104、120（改訂版のテキストではp.79,80、pp108-110、p.126）の練習問題を参考にし、オリジナルな練習問題を2例作成し、解答を示すこと。また、ここで学習した静定梁、トラスが実構造物（土木構造物等も含む）に応用されている事例の一つを示し、建物概要、構造概要を調べ、列記した上、力の流れ、構造上の特徴、構造的視点での造形性について私見を述べなさい。

●課題に取り組むにあたっての留意点

- (1) 建築構造力学を初めて学んでいこうとしている入門者を対象とした教科書とする。テキスト『図説やさしい構造力学』または『改訂版 図説やさしい構造力学』第2章～第7章（力の基礎、力の釣り合い、反力、部材に生じる力、単純梁、片持ち梁、トラス）を良く読んで理解し、課題のテーマ「部材に生じる力」を理解させるためには、どのような構成で説明するのが良いかをよく考えて取り組むこと。
- (2) 教科書においては、「目次」は必ず作成すること。章立てについては自由に構成してよいが、最初に「まえがき」を設け、この教科書で何を学んでほしいか、どのような特徴をもった教科書であるかなどについて記し、構造力学を習得していこうとしている読者に向けて著者の気持ちを伝えること。また、最後には「あとがき」を設け、構造力学分野全体の中で今回の教科書で解説した範囲の位置づけを記し、今後学んでいくべき範囲を、学習意欲を刺激するような文章にて記すこと。
- (3) 文章やイラストを使って分かりやすい教科書とし、任意のA4用紙10ページ程度（目次、まえがき、本文、あとがき、イラスト、オリジナルな練習問題全て含む）とする。文字数の制限は特に設けないが、文字は読むのに適切な大きさとする。
- (4) 教科書においては、イラストは全て手描きで作成すること。コンピューターを用いた図の作成、文献等からの図・写真のコピー、データ取り込みは不可とする。
- (5) 参考にした文献は「参考文献」として記載すること。文章およびイラストは自分で考えることが望ましいが、参考文献の文章や図を直接引用する場合には、引用箇所が分かるようにし、著者・タイトル・出版社・引用ページを明記すること。
- (6) 事例の提示とそれに対する私見は、自由に作成してよいが、教科書（上記A4用紙片面10ページ程度）とは別に任意のA4用紙片面5ページ以内とする。

●提出物

1. オリジナル教科書（A4用紙10枚程度）のpdfデータ

2. 事例研究（A4用紙5枚以内）のpdfデータ

●課題の提出方法

- ・提出物2点をpdf編集ソフトを用いてひとつのPDFファイルに結合して提出してください。
- ・制作した手描きオリジナル教科書（A4 10枚程度）をスキャンし、PDFファイルとして保存する。
- ・スキャンする際は【A4サイズ】【フルカラー】【解像度300dpi】とする。
- ・1ページずつ複数のPDFファイルになる場合は正しい順序にしてひとつのPDFファイルに結合する。
- ・事例研究についてもスキャンをする場合は上記と同じ手順とする。
- ・PDF化できたら「オリジナル教科書（10枚程度）」「事例研究（5枚以内）」の順にひとつのPDFファイルに結合する。
- ・PDFファイル名は「学籍番号.pdf」する。PDFファイルの容量は20MBまで。
- ・PDFファイル1点の提出を原則とするが、PDFの結合ができず複数のPDFファイルを提出する場合は、それぞれのPDFファイルに、教科書のPDFファイル名は「学籍番号_text_01.pdf」、事例研究のPDFファイル名は「学籍番号_ref_01.pdf」とし、前から順にPDFファイルに番号を振ること。その後、それらのファイルをひとつのフォルダにまとめ、フォルダ名を「学籍番号.zip」にして圧縮し、そのzipファイルを提出する。zipファイルの容量は20MBまで。

TR	構造力学2	科目コード： 40656
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	airU	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	有	
担当者	貞許美和*、朝川剛、押田光弘	

科目概要と到達目標

「構造力学1」では、静定構造の部材断面力を算定する手法について学んだ。「構造力学2」では、力が作用したときに生じている断面力によって部材が安全であることを確かめる手法、および部材の変形について学ぶ。

また、不静定構造の断面力算定法の基礎、構造物の崩壊現象の基礎についても学ぶ。部材に生じている断面力から部材内部の局所的な応力度を求め、この応力度が安全な値（許容応力度）以内であることを確認する手法を学ぶ。また、部材に力が作用したときの変形を算定する手法を習得することを目的とする。この科目では最初に、これらの算定のために必要な断面定数の求め方を学ぶこととする。

更に、複数の部材で構成される構造体の応力・変形を求めるための基礎知識として、不静定構造物の断面力算定法や崩壊荷重の基礎的考え方についても習得を目指す。

評価基準と成績評価方法

- 1、課題の理解（課題に取り組むにあたっての留意点を満足しているか）
- 2、文章の正確さや分かりやすさ
- 3、イラストの数と表現力
- 4、創意工夫（分かりやすくなるような独自の言葉・イラスト等）
- 5、全体の構成（テーマを理解させるための適切な構成となっているか）

本科目の成績評価は課題と単位修得試験の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	<2018年度までの入学生>『図説やさしい構造力学』 浅野清昭 学芸出版社 <2019年度以降の入学生>『改訂版 図説やさしい構造力学(2017/09/20 第1版)』 浅野清昭 学芸出版社 ※ランドスケープデザインコース・空間演出デザインコースの方：『学習ガイド』の「テキスト配本」の項を確認のうえ、巻末書式の「テキスト送付・購入申込書」で請求してください。
------	--

テキスト	※芸術学科・美術科・情報デザインコースの方：各自で購入してください。 『図説やさしい構造力学』、『改訂版 図説やさしい構造力学（2017/09/20第1版）』のどちらでも課題に取り組めますが、課題文において参照するページが異なりますので課題文中のページ数を確認してください。小テストにおける参照ページは「テキスト・教材学習」ページに対応表がありますので事前に確認したうえで取り組んでください。
参考文献・URL	『＜建築学テキスト＞ 建築構造力学I 静定構造力学を学ぶ』坂田弘安、島崎和司 学芸出版社 『＜建築学テキスト＞ 建築構造力学II 不静定構造力学を学ぶ』坂田弘安、島崎和司 学芸出版社

レポート課題

課題コード：11

課題の内容

「応力度と変形」について解説した分かりやすい構造力学の教科書を作成しなさい。且つその中にテキストp.130、148、156、164（改訂版のテキストではpp.137-138、p.156、p.164、p.172）の練習問題を参考にして、オリジナルな練習問題を1例作成し、解答を示すこと。テキストp.174（改訂版ではp.182）の練習問題を参考にして、固定モーメント法に関するオリジナルな練習問題を1例同様に作成し、解答を示すこと。さらに、テキストp.184 図13、23（改訂版ではp.192図13・23）に示す1スパンラーメンを参考にし、ABを結ぶ柱とDCを結ぶ柱のD値と柱の反曲点位置、寸法、作用力を具体的に設定し練習問題1題としてとりまとめ、解答を示すこと。合計3例の練習問題を作成する。

また、ここで学習したたわみ（大スパン構造、片持ち構造等）、座屈（細柱〔長柱〕）が問題になると考えられる実構造物（土木構造物等も含む）の事例の一つ示し、建物概要、構造概要を調べ、列記した上、力の流れ、構造上の特徴、構造的視点での造形性について私見を述べなさい。

●課題に取り組むにあたっての留意点

(1) 建築構造力学を初めて学んでいる入門者を対象とした教科書とする。テキスト『図説 やさしい構造力学』または『改訂版 図説やさしい構造力学』第8章～第13章の範囲（断面に関する数量、応力度、座屈、たわみ、不静定構造、塑性解析）を良く読んで理解し、課題のテーマ「応力度と変形」を理解させるためには、どのような構成で説明するのが良いかをよく考えて取り組むこと。

(2) 教科書においては「目次」は必ず作成すること。章立てについては自由に構成してよいが、最初に「まえがき」を設け、この教科書で何を学んでほしいか、どのような特徴をもった教科書であるかなどについて記し、構造力学を習得していこうとしている読者に向けて著者の気持ちを伝えること。また、最後には「あとがき」を設け、構造力学分野全体の中で今回の教科書で解説した範囲の位置づけを記し、今後学んでいくべき範囲を、学習意欲を刺激するような文章にて記すこと。

(3) 文章やイラストを使って分かりやすい教科書とし、任意のA4用紙片面10ページ程度（目次、まえがき、本文、あとがき、イラスト、オリジナルな練習問題全て含む）とする。文字数の制限は特に設けないが、文字は読むのに適切な大きさとする。

(4) 教科書においては、イラストは全て手描きで作成すること。コンピューターを用いた図の作成、文献等からの図・写真のコピーは不可とする。

(5) 参考にした文献は、「参考文献」として記載すること。文章およびイラストは自分で考えることが望ましいが、参考文献の文章や図を直接引用する場合には、引用箇所が分かるようにし、著者・タイトル・出版社・引用ページを明記すること。

(6) テキストp.184（改訂版ではp.192）を参考にして作成する練習問題についてはWeb教材「練習問題の例」についても参照すること（Web教材はairU>構造力学2>テキスト・教材学習よりダウンロード）。

(7) 事例の提示とそれに対する私見は、自由に作成してよいが、教科書（上記A4用紙片面10ページ程

度)とは別に任意のA4用紙片面5ページ以内とする。

●提出物

1. オリジナル教科書 (A4用紙10枚程度) のpdfデータ
2. 事例研究 (A4用紙5枚以内) のpdfデータ

●課題の提出方法

- ・提出物2点をpdf編集ソフトを用いてひとつのPDFファイルに結合して提出してください。
- ・制作した手描きオリジナル教科書 (A4 10枚程度) をスキャンし、PDFファイルとして保存する。
- ・スキャンする際は【A4サイズ】【フルカラー】【解像度300dpi】とする。
- ・1ページずつ複数のPDFファイルになる場合は正しい順序にしてひとつのPDFファイルに結合する。
- ・事例研究についてもスキャンをする場合は上記と同じ手順とする。
- ・PDF化できたら「オリジナル教科書 (10枚程度)」「事例研究 (5枚以内)」の順にひとつのPDFファイルに結合する。
- ・PDFファイル名は「学籍番号.pdf」する。PDFファイルの容量は20MBまで。
- ・PDFファイル1点の提出を原則とするが、PDFの結合ができず複数のPDFファイルを提出する場合は、それぞれのPDFファイルに、教科書のPDFファイル名は「学籍番号_text_01.pdf」、事例研究のPDFファイル名は「学籍番号_ref_01.pdf」とし、前から順にPDFファイルに番号を振ること。その後、それらのファイルをひとつのフォルダにまとめ、フォルダ名を「学籍番号.zip」にして圧縮し、そのzipファイルを提出する。zipファイルの容量は20MBまで。

TR	造園史1（日本）	科目コード： 40672
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※ランドスケープデザインコースの方[2018年度以降入学生]：卒業のための必修科目です。 ※ランドスケープデザインコースの方[2017年度以前入学生]：卒業のための選択必須科目です。 ※2016年度以前に開講していた「造園史」を単位修得済みの場合、履修できません。	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	airU	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	有	
担当者	尼崎博正*、町田香	

科目概要と到達目標

造園はランドスケープデザインの原点といえます。日本庭園と西洋庭園の歴史を実証的に学ぶことによって庭園文化の本質を理解するとともに、これからのランドスケープデザインの在り方に思いを馳せてください。

評価基準と成績評価方法

各時代、各地域の庭園文化の特徴と、その歴史的意義について理解が深まっているか。

本科目の成績評価は全課題と単位修得試験の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『造園史』 ランドスケープデザインコース以外の方：配本されていないテキストの入手については『学習ガイド』の「テキスト配本」の項を確認のうえ、巻末書式の「テキスト送付・購入申込書」で請求してください。
参考文献・URL	『造園の歴史』（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ） 岡崎文彬 同朋舎 1981～82年 『ランドスケープデザイン原論』 本学テキスト

レポート課題

課題コード：11

課題の内容

任意に選んだ庭園を訪れ、現地でその庭園の特徴（立地、空間構成、意匠、素材、工法など）を自身で見出し、その場でスケッチ（平面図や立面図でも可。その特徴を表現するのに最も適した方法を選ぶ）しなさい。また、その庭園の特徴をスケッチで示しながら具体的に論述しなさい。さらに、その庭園が作庭された時代性や地域性と関連づけながら、その庭園の特色を述べなさい（庭園案内のパンフレットに書かれているような庭園の概説ではない）。

スケッチや平面図・立面図はA4サイズで各1枚まで（計5枚以内）とする。

●提出物

1. レポート本文（3200文字程度）
2. スケッチ（見取図や立面図、断面図でも可）

●提出にあたっての注意事項

スケッチはレポート本文とは別に添付ファイルとして提出してください。添付ファイルは1～5つまでとし30字以内の説明（キャプション）を付けてください。

添付ファイルのデータ形式は（PDF、JPG）、ひとつあたりのファイル容量は（5MB以下）です。

※レポート文中に写真・図版をレイアウトして提出することはできません。

TR	造園史2（西洋）
	科目コード： 40673
配当年次	1年次～
単位数	2
履修の前提条件	なし ※ランドスケープデザインコースの方[2018年度以降入学生]：卒業のための必修科目です。 ※ランドスケープデザインコースの方[2017年度以前入学生]：卒業のための選択必須科目です。 ※2016年度以前に開講していた「造園史」を単位修得済みの場合、履修できません。
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験
課題提出形態	airU
課題数	1
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。
単位修得試験	有
担当者	佐々木邦博*、平岡直樹

科目概要と到達目標

造園はランドスケープデザインの原点といえます。日本庭園と西洋庭園の歴史を実証的に学ぶことによって庭園文化の本質を理解するとともに、これからのランドスケープデザインの在り方に思いを馳せてください。

評価基準と成績評価方法

各時代、各地域の庭園文化の特徴と、その歴史的意義について理解が深まっているか。

本科目の成績評価は全課題と単位修得試験の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『造園史』 ランドスケープデザインコース以外の方：配本されていないテキストの入手については『学習ガイド』の「テキスト配本」の項を確認のうえ、巻末書式の「テキスト送付・購入申込書」で請求してください。
参考文献・URL	『ヨーロッパ100の庭園』 巖谷國士 平凡社 1998年 『造園の歴史』（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ） 岡崎文彬 同朋舎 1981～82年 『世界の庭園歴史図鑑』 ペネロピ・ホブハウス 原書房 2014年 『ランドスケープデザイン原論』 本学テキスト 『花と庭園の文化史事典』 ガブリエル・ターギット 八坂書房 2014年

レポート課題

課題コード：11

課題の内容

イタリア式、フランス式、イギリス式の各庭園様式の特徴を説明しなさい。次に、3つの様式のうち1つの様式を選び、その様式の代表的な庭園を1つ挙げ、様式の特徴をどのように備えているか考察した上で、魅力を述べなさい。

※テキストは読んでいることが前提ですので参考文献に挙げる必要はありません。

●提出物

1. レポート本文（3200文字程度）

●提出にあたっての注意事項

写真・図を添付する場合はレポート本文とは別に添付ファイルとして提出してください。添付ファイルには30字以内の説明（キャプション）を付けてください。添付ファイルの提出は必須ではありません。添付ファイルのデータ形式は（PDF、JPG、PNG、GIF）、ひとつあたりのファイル容量は（5MB以下）です。

※レポート文中に写真・図版をレイアウトして提出することはできません。

TR	環境の保全と計画1 水土緑	科目コード： 40674
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※ランドスケープデザインコースの方：卒業のための必修科目です。 ※2016年度以前に開講していた「環境の保全と計画」を単位修得済みの場合、履修できません。	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	airU	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	有	
担当者	高梨武彦*、朝倉真一	

科目概要と到達目標

環境問題は、今日あらゆる分野で複合的に発生しています。なかでも自然環境に関しては、身の回りの出来事から世界的視野をも含めて、多くのメディアで取り上げられ、それらを渉猟するだけで大変なものです。そしてその内容は、相当に専門的となってきました。それ故に、本科目はより身近な水・土・緑をキーワードとする環境要因に焦点をあわせることで、環境を保全することの重要性と難しさをわかりやすく知ってもらえる機会となることを目標と考え構成しています。

評価基準と成績評価方法

- 1、課題の主旨に応えた内容であること
- 2、自分の考え・提案がわかりやすく記されていること
- 3、出典（引用・参考文献）が明示されていること

本科目の成績評価は全課題と単位修得試験の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『ランドスケープデザインと環境保全』1～2章 ランドスケープデザインコース以外の方：配本されていないテキストの入手については『学習ガイド』の「テキスト配本」の項を確認のうえ、巻末書式の「テキスト送付・購入申込書」で請求してください。
参考文献・URL	「学習のポイント」欄を参照。

レポート課題

課題コード：11

課題の内容

土、水、緑の3つの要素のうち、一つの環境要素を選択し、それが地域環境のなかで果たす役割を明らかにし、そして、その保全と計画や実施にあたっての留意点を述べなさい（具体例を挙げてまとめてもよい）。

●提出物

1. レポート本文（3200文字程度）

TR	環境の保全と計画2 里山	科目コード： 40675
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※ランドスケープデザインコースの方：2018年度以降入学の方は卒業のための必修科目です。2016年度以前入学の方で「環境の保全と計画」を単位修得済みの場合、履修できません。	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	airU	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	有	
担当者	高梨武彦*、齋藤広道、増永滋生	

科目概要と到達目標

環境問題は、今日あらゆる分野で複合的に発生しています。なかでも自然環境に関しては、身の回りの出来事から世界的視野をも含めて、多くのメディアで取り上げられ、それらを渉猟するだけで大変なものです。本科目は人間が積極的にかかわることで形成され、そして維持してきた二次的自然環境を保全することの重要性と難しさをわかりやすく知ってもらえる機会となることを目標と考え構成しています。

評価基準と成績評価方法

- 1、課題の主旨に応えた内容であること
- 2、自分の考え・提案がわかりやすく記されていること
- 3、出典（引用・参考文献）が明示されていること

本科目の成績評価は全課題と単位修得試験の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『ランドスケープデザインと環境保全』第3～5章 ※ランドスケープデザインコース以外のデザイン科の方：『学習ガイド』の「テキスト配本」の項を確認のうえ、巻末書式の「テキスト送付・購入申込書」で請求（有料）してください。
参考文献・URL	「学習のポイント」欄を参照。

レポート課題

課題コード：11

課題の内容

日本では、里山、茅場、水田耕作地など人為的な管理のもと成立した伝統的、かつ多様な生物が生息する環境が維持されてきました。しかしながら、近年、人の生活様式の変化に伴い、これらの環境が放置されつつあります。これらの人との関わりのなかで維持されてきた自然（二次的自然環境）を守るための保全計画（利用計画、維持・管理計画など）について、具体例を取り上げその内容を概説し、その保全計画の意義について自分の考えをまとめなさい。

●提出物

1. レポート本文（3200文字程度）

TR	ランドスケープデザイン原論1
	科目コード： 40676
配当年次	1年次～
単位数	2
履修の前提条件	なし ※ランドスケープデザインコースの方[2018年度以降入学生]：卒業のための必修科目です。 ※ランドスケープデザインコースの方[2017年度以前入学生]：卒業のための選択必須科目です。 ※2016年度以前に開講していた「ランドスケープデザイン原論」を単位修得済みの場合、履修できません。
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験
課題提出形態	airU
課題数	1
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。
単位修得試験	有
担当者	下村泰史*

科目概要と到達目標

地域において自然と風景が損なわれ、地球においてもその環境の危機が叫ばれている現在、環境の姿を創造するランドスケープデザインの考え方は、専門家のみならず市民にとっても、ますます重要なものとなってきています。

本科目で学んで欲しいことは、芸術としてのランドスケープデザインの基本的な心構えを自分の内に確立することと、自然環境や風致との関わりにおいて、仕事としての造園のあり方について見識を磨くことです。

人間の生活領域のすべてに関わりを持つランドスケープデザインの本質とは何か、この科目での学びを通じて模索していただきたいと思います。

評価基準と成績評価方法

- 1、課題の論点を把握できているか
- 2、論理的かつ読みやすい構成となっているか
- 3、事例や資料を適切に利用しているか
- 4、内容に説得性・妥当性があるか
- 5、オリジナルな思考を読み取れるか

本科目の成績評価は全課題と単位修得試験の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『ランドスケープデザイン原論』 配本されていないテキストの入手については、『学習ガイド』の「テキスト配本」の項を確認のうえ、巻末書式の「テキスト送付・購入申込書」で請求してください
------	---

テキスト	い。
参考文献・URL	なし

レポート課題

課題コード：11

課題の内容

造園固有の方法論（対象空間、ものの見方、考え方、技術など）について、関連する分野（土木、建築、環境芸術、環境系NPO活動、その他からどれか1分野を選択すること）と比較しながら論じ、その協働の可能性について検討しなさい。

●提出物

1. レポート本文（3200文字程度）

●提出にあたっての注意事項

写真・図を添付する場合はレポート本文とは別に添付ファイルとして提出してください。添付ファイルには30字以内の説明（キャプション）を付けてください。添付ファイルの提出は必須ではありません。添付ファイルのデータ形式は（PDF、JPG、PNG、GIF）、ひとつあたりのファイル容量は（5MB以下）です。

※レポート文中に写真・図版をレイアウトして提出することはできません。

TR	ランドスケープデザイン原論2
	科目コード： 40677
配当年次	1年次～
単位数	2
履修の前提条件	なし ※ランドスケープデザインコースの方[2018年度以降入学生]：卒業のための必修科目です。 ※ランドスケープデザインコースの方[2017年度以前入学生]：卒業のための選択必須科目です。 ※2016年度以前に開講していた「ランドスケープデザイン原論」を単位修得済みの場合、履修できません。
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験
課題提出形態	airU
課題数	1
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。
単位修得試験	有
担当者	下村泰史*、塩見篤史

科目概要と到達目標

地域において自然と風景が損なわれ、地球においてもその環境の危機が叫ばれている現在、環境の姿を創造するランドスケープデザインの考え方は、専門家のみならず市民にとっても、ますます重要なものとなってきています。本科目で学んで欲しいことは、伝統的日本庭園が有する自然のありようや審美性を通して、自らの自然観や美意識を醸成し、創造の糧とすることです。
人間の生活領域のすべてに関わりを持つランドスケープデザインの本質とは何か、この科目での学びを通じて模索していただきたいと思います。

評価基準と成績評価方法

- 1、課題の論点を把握できているか
- 2、論理的かつ読みやすい構成となっているか
- 3、事例や資料を適切に利用しているか
- 4、内容に説得性・妥当性があるか
- 5、オリジナルな思考を読み取れるか

本科目の成績評価は全課題と単位修得試験の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『ランドスケープデザイン原論』 ランドスケープデザインコース以外の方：配本されていないテキストの入手については『学習ガイド』の「テキスト配本」の項を確認のうえ、巻末書式の「テキスト送付・購入申込書」で請求してください。
------	--

課題の内容

作庭から維持管理までの全プロセスを通じて不可欠な要素について述べなさい。

●提出物

1. レポート本文（3200文字程度）

●提出にあたっての注意事項

写真・図を添付する場合はレポート本文とは別に添付ファイルとして提出してください。添付ファイルには30字以内の説明（キャプション）を付けてください。添付ファイルの提出は必須ではありません。添付ファイルのデータ形式は（PDF、JPG、PNG、GIF）、ひとつあたりのファイル容量は（5MB以下）です。

※レポート文中に写真・図版をレイアウトして提出することはできません。

TR	マーケティング概論	科目コード： 40678
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※空間演出デザインコースの方：卒業のための必修科目です。 ※2016年度以前に開講していた「マーケティング論」を単位修得済みの場合、履修できません。	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	airU	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	有	
担当者	飯塚浩一郎*、須田亮	

科目概要と到達目標

実社会の「動き」にアンテナをあげましょう。人気商品を見つめ、話題CMに目を向け、元気な成長企業の市場活性化手法を学びます。消費者の立場、モノをつくり出し売る立場、その両方から「現在進行形」の市場を見る目を養います。社会の変化に適応し努力を続ける企業活動の実際に目を向け、コミュニケーションの大切さを知り、自らの生活のクオリティを見つめ直す力を付けるために、現場マーケティングの基本的な成り立ちを把握することを到達目標とします。

評価基準と成績評価方法

1. 課題、テキストの理解
2. 文章表現の正確さ
3. 論点の整理と構成
4. 実例の調査、分析、考察の内容

本科目の成績評価は全課題と単位修得試験の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『絵で見るマーケティングのしくみ』 安田貴志 日本能率協会マネジメントセンター ※空間演出デザインコース以外の方：『学習ガイド』p.75「2.教材・テキストの入手方法」およびp.81「6.テキスト一覧（学部共通専門教育科目）」の項を確認のうえ各自で購入してください。
参考文献・URL	『発想法』 川喜田二郎 中公新書 『アイデアのつくり方』 ジェームスW.ヤング 阪急コミュニケーションズ 『ビジネスリノベーションの教科書』 西村佳隆 自由国民社

課題の内容

テキストにあるように、マーケティングの要素は多岐にわたり、非常に幅広い内容を含んでいます。そのなかのひとつひとつのポイントがつながって、はじめてマーケティングが有機的に効果を発揮します。

そこでマーケティング概論では、テキストを通読し、マーケティング業務の要点を理解した上で以下の3つの課題についてレポートを作成します。文字数に限りがありますから、テキストの内容の細部にいたるまでの全てに触れていてはおさまりません。自分の目で取捨選択し論じるようにしてください。

課題3では、具体例として企業、店舗、商品、広告など身のまわりの出来事から現在進行している鮮度の高い事例をひとつ以上見つけて引用した上で考察してください。なお、必須での提出ではありませんが、事例調査シートとして引用した事例の写真をA4用紙1枚にまとめて添付することが望ましいです。（現場で撮影する場合は、必ず掲載許可を得て自身で撮影したものに限る）

（課題1）

テキストの第1章から第2章までを読み、現在の市場における消費者の購買心理と購買行動はマーケティングの分野においてどのように定義されているか、自身の体験と照らし合わせながら考察し、その内容を800字程度で記述せよ。

（課題2）

テキストの第3章から第4章までを読み、現在の企業が行うマーケティング活動にとって欠かせないことは何か、社会情勢と照らし合わせながら考察し、その内容を800字程度で記述せよ。

（課題3）

テキストの第5章から第9章までを読み、現在の企業が消費者へアプローチしているマーケティング戦略について、市場に流通している商品・サービスを例に取り上げ、自身の体験と照らし合わせながら考察し、「セグメンテーション」、「ポジショニング」という言葉を織り交ぜ、1,600字程度で論ぜよ。

以上の記述が整ったら、レポート課題を提出してください。

●提出物

1. レポート本文（3課題合わせて3,200文字程度）
2. 事例調査シート（任意）

●事例調査シートの提出方法

課題3に事例調査シートを添付する場合は以下のいずれかの方法でデータを作成しレポート本文とは別に添付ファイルとして提出してください。（①②を推奨します。）

- ①A4用紙に切り貼りで制作したものをスキャンしてデータ化したもの
- ②IllustratorやMicrosoft Wordなどのソフトウェアで作成したデータをPDF化したもの
- ③A4用紙に切り貼りで制作したものをデジカメで撮影したデータ

添付ファイルには30文字以内で説明（キャプション）として「商品・サービス名」を付けてください。添付ファイルのデータ形式はPDFもしくはJPEGとし、ファイル容量は10MB以下です。

※レポート本文中に写真・図版をレイアウトして提出することはできません。

※添付ファイルの提出は必須ではありません。

※③の場合は内容が鮮明に読み取れることを確認のうえ提出すること。

TR	ブランディングデザイン論	科目コード： 40679
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※空間演出デザインコースの方：卒業のための必修科目です。 ※2016年度までに「マーケティング論」を単位修得済みの場合、履修できません。	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	airU	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	有	
担当者	助川誠*	

科目概要と到達目標

インターネットの普及に伴い、商業や流通のあり方が大きく変化し、消費者の行動はますます多様化してきています。「ブランディングデザイン論」では、そうした多様化する消費者の行動の中にあっても、輝きを放つ商品を創造し、その価値を発信し続ける企業のブランディングデザインについて、テキストを通して理解します。また、市場に流通している製品・サービスなどを、ブランディングデザインの視点から調査し、レポートを通して、その背景にあるブランドづくりの仕組みを考察しましょう。

評価基準と成績評価方法

1. 課題、テキストの理解
2. 文章表現の正確さ
3. 論点の整理と構成
4. 事例の調査、分析、考察の内容

本科目の成績評価は課題と単位修得試験の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『ブランドをデザインする！』西澤明洋 パイインターナショナル ※空間演出デザインコースの方：2017年度入学生より配本開始。2016年度以前の入学生には配本されていません。2016年度以前入学の方でテキストを入手希望の方は『学習ガイド』p.75「2.教材・テキストの入手方法」およびp.81「6.テキスト一覧（学部共通専門教育科目）」の項を確認のうえ各自で購入してください。 ※空間演出デザインコース以外の方：各自で購入してください。
参考文献・URL	なし

課題の内容

まずシラバスを確認の上、科目のポイントを把握した後、テキスト『ブランドをデザインする!』を通読した上で、以下の3つの課題についてレポートを作成してください。

(課題1)

テキスト『ブランドをデザインする!』第1章を読み、ブランディングデザインの意義について、「商品」、「コミュニケーション」の両面から考察し、その内容を800字程度で記述せよ。

(課題2)

テキスト『ブランドをデザインする!』第2章を読み、ブランディングデザインの方法について、「フォーカス RPCD」というデザインプロセスを理解の上、あなたが大切だと思うポイントを交えながら、その概要について800字程度で記述せよ。

(課題3)

テキスト『ブランドをデザインする!』第3章を読み、現在、市場に流通している商品・サービスなどで、あなたの出身地(もしくは居住地)周辺の中小企業が手がけたもののうち、ブランディングデザインの視点からあなたが良いと思った事例をひとつ取り上げ、なぜ良いと思ったのかを考察し、その内容を1600字程度で記述せよ。なお、必須ではないが事例調査シートとして、取り上げた事例の写真をA4用紙1枚にまとめて添付することが望ましい(現場で撮影する場合は、必ず掲載許可を得て自身で撮影したものに限り)。

ここで取り扱うブランドとは、企業が提供する商品・サービスでも構わないし、企業そのものであっても構わない。記述する際には、必ず冒頭に「企業名」「(あれば)商品名もしくはサービス名」を明記すること。

以上の記述が整ったら、レポート課題を提出してください。

●提出物

1. レポート本文(3課題合わせて3,200文字程度)
2. 事例調査シート(任意)

●事例調査シートの提出方法

課題3で図版を添付する場合は以下のいずれかの方法でデータを作成しレポート本文とは別に添付ファイルとして提出してください。(①②を推奨します。)

- ①A4用紙に切り貼りで制作したものをスキャンしてデータ化したもの
- ②IllustratorやMicrosoft Wordなどのソフトウェアで作成したデータをPDF化したもの
- ③A4用紙に切り貼りで制作したものをデジカメで撮影したデータ

添付ファイルには30文字以内で説明(キャプション)として「ブランド名」を付けてください。

添付ファイルのデータ形式はPDFもしくはJPEGとし、ファイル容量は10MB以下です。

※レポート本文中に写真・図版をレイアウトして提出することはできません。

※添付ファイルの提出は必須ではありません。

※③の場合は内容が鮮明に読み取れることを確認したうえで提出すること。読み取れない場合は評価不能(再提出)となる場合があります。

TR	インテリア計画論1	科目コード： 40680
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※ 空間演出デザインコースの方：卒業のための必修科目です。	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	airU	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	有	
担当者	青山修也*、竹内正明	

科目概要と到達目標

現代においてインテリアデザインは、建築計画と切り離せるものでなく、それぞれが持つ異なった与条件を総合的に計画し実現するまでの知識と技術が必要とされている。ここではその知識と技術を住居の計画を中心に学ぶ。

インテリアの概念の発生からその変遷と確立までを検証した後、インテリア計画のプロセスを把握した上で、空間の構造、構法からインテリア空間の構成要素とその組み合わせまでを理解する。各空間における機能とインテリア計画上の要点について学び、今後の計画、設計への活用可能な知識の習得を目的とする。

評価基準と成績評価方法

- 1、課題、テキストの理解
- 2、文章表現の正確さ
- 3、論点の整理と構成
- 4、独自の視点と具体性
- 5、情報・資料の活用

本科目の成績評価は課題と単位修得試験の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『インテリア計画の知識』 彰国社 空間演出デザインコース以外の方：配本されていないテキストの入手については『学習ガイド』p.75「2.教材・テキストの入手方法」およびp.81「6.テキスト一覧（学部共通専門教育科目）」の項を確認のうえ各自で購入してください。
参考文献・URL	『インテリアの計画と設計』 彰国社

レポート課題

課題コード：11

課題の内容

テキスト『インテリア計画の知識』のⅠ章を通読し、airUマイページ＞カリキュラム一覧＞該当科目＞「テキスト・教材学習」ページで小テストに取り組んだ後、以下の課題に取り組んでください。

あなたが普段過ごしている生活空間（例えば家、学校、職場など）のインテリアを観察し、現状について把握します。そして、その生活空間のインテリアはあなたが具体的にどのようなことを考慮して計画したのか、または、より良いインテリアとするために、これからどのように計画しようと考えているのか、以下の6つのキーワードを入れながらレポートにまとめてください。

- ライフスタイルの変化
- アフオーダンス
- 室内環境
- 安全
- 構法
- 法令

※レポートには説明のために1ファイルだけであればイラスト（全て手描きしたもの）を用いてよいが必須ではありません。提出方法は下記を参照してください。

●提出物

1. レポート本文（3,200文字程度）
2. 説明用のイラスト（任意）

●イラストの提出方法

イラストを添付する場合は、手書きしたイラストを撮影した写真データ、もしくはスキャンした画像データをレポート本文とは別に添付ファイルとして提出してください。

添付ファイルには30文字以内でイラストの説明（キャプション）を付けてください。

添付ファイルのデータ形式はPDFもしくはJPEGとし、ファイル容量は10MB以下です。

※レポート本文中に写真・図版をレイアウトして提出することはできません。

※添付ファイルの提出は必須ではありません。

※撮影した写真データとする場合は内容が鮮明に読み取れることを確認のうえ提出すること。読み取れない場合は評価不能（再提出）となる場合があります。

TR	インテリア計画論2	科目コード： 40681
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※ 空間演出デザインコースの方：卒業のための必修科目です。	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	airU	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	有	
担当者	青山修也*、竹内正明	

科目概要と到達目標

現代においてインテリアデザインは、建築計画と切り離せるものでなく、それぞれが持つ異なった与条件を総合的に計画し実現するまでの知識と技術が必要とされている。ここではその技術に繋がる設計手法を中心に学ぶ。

インテリアの概念の発生からその変遷と確立までを検証した後、インテリア計画のプロセスを把握した上で、空間の構造、構法からインテリア空間の構成要素とその組み合わせまでを理解する。各空間における機能とインテリア計画上の要点について学び、今後の計画、設計への活用可能な知識の習得を目的とする。

評価基準と成績評価方法

- 1、課題、テキストの理解
- 2、文章表現の正確さ
- 3、論点の整理と構成
- 4、独自の視点と具体性
- 5、情報・資料の活用

本科目の成績評価は課題と単位修得試験の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『インテリア計画の知識』 彰国社 空間演出デザインコース以外の方：『学習ガイド』p.75「2.教材・テキストの入手方法」およびp.81「6.テキスト一覧（学部共通専門教育科目）」の項を確認のうえ各自で購入してください。
参考文献・URL	『インテリアの計画と設計』 彰国社

課題の内容

テキスト『インテリア計画の知識』のII章を通読し、airUマイページ＞カリキュラム一覧＞該当科目＞「テキスト・教材学習」ページで小テストに取り組んだ後、以下の課題に取り組んでください。

あなたのお気に入りの店をひとつ選びます。そしてその店のインテリア計画について調査、分析し、考察した結果をレポートとして簡潔にまとめてください。ただし、レポートには以下の4つのキーワードを必ず入れること。また、その店の調査見取り図（簡単な平面図に計画のポイントを記載したもの、手描きで構わない）をA4用紙1枚にまとめ、添付すること。

- エントランス(出入口)
- 動線
- 家具
- 照明

●提出物

1. レポート本文（3,200文字程度）
2. 選んだ店の調査見取り図 1枚（必須）

●調査見取り図の提出方法

調査見取り図を添付する際は以下のいずれかの方法でデータを作成しレポート本文とは別に添付ファイルとして提出してください。（①②を推奨します。）

- ①A4用紙に手書きした調査見取り図をスキャンしてデータ化したもの
- ②IllustratorやMicrosoftWordなどのソフトウェアで作成したデータをPDF化したもの
- ③A4用紙に手書きした調査見取り図をデジカメで撮影したデータ

添付ファイルには30文字以内で説明（キャプション）として「店舗名」を付けてください。

添付ファイルのデータ形式はPDFもしくはJPEGとし、ファイル容量は10MB以下です。

※レポート本文中に写真・図版をレイアウトして提出することはできません。

※③の場合は内容が鮮明に読み取れることを確認のうえ提出すること。読み取れない場合は評価不能（再提出）となる場合があります。

TR	空間構成材料	科目コード： 40682
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※ 空間演出デザインコースの方：卒業のための必修科目です。	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	airU	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	有	
担当者	杉浦充*	

科目概要と到達目標

建築を構成する材料を大きく2分野に分けると、建築構造躯体として利用される材料と、建築の内部、外部空間を構成する内外装の材料が挙げられる。

建築構造躯体は、重力・風・地震などの外力に対して安全かどうか確認するためには、その剛性（硬さ）や靱性（粘り強さ）という、耐力について把握しておく必要があり、内外装材においてはシックハウスなどの安全性の他、人間の五感と関わる色彩やテクスチャーなどの快適性についても把握しておく必要がある。また、長期間にわたって存在していくうえでは、耐久性のみならず、性質や取り扱いについても理解しておかなければならない。

建築物に使用されるこれらの材料について理解を深めることを目標とする。

評価基準と成績評価方法

- 1、課題、テキストの理解
- 2、文章表現の正確さ、論理構成
- 3、独自の視点と具体性
- 4、考察の内容
- 5、内容の発展性

本科目の成績評価は課題と単位修得試験の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『世界で一番やさしい建築材料』 エクスナレッジ出版 空間演出デザインコース以外の方：配本されていないテキストの入手については『学習ガイド』p.75「2.教材・テキストの入手方法」およびp.81「6.テキスト一覧（学部共通専門教育科目）」の項を確認のうえ各自で購入してください。
参考文献・URL	『わかる！建築材料』 オーム社出版局

課題の内容

テキスト『世界で一番やさしい建築材料』を通読し、airUマイページ＞カリキュラム一覧＞該当科目＞「テキスト・教材学習」ページで小テストに取り組んだ後、以下の課題に取り組んでください。

実在する内部・外部の空間(建物)のなかで、材料が実際にどのように使われているかを下記カテゴリーごとに調査し、考察をレポートにまとめてください。対象とするインテリア空間や建築物は同一のものでなくて構いません。

カテゴリー

- I. 内部(インテリアなど)空間に使われる材料
- II. 外部(ファサードなど)空間に使われる材料
- III. 空間(建物)の構造躯体に使われる材料

「III. 空間(建物)の構造躯体に使われる材料」については完成した建物や空間では確認できない場合がありますが、構造躯体を空間や造形に生かした例や、内装を構築しているフレームなどの構造構築物をインテリアに表現している例などをとりあげても構いません。また建築中の建物を取り上げる場合は、現場関係者に見学の意図を伝え、充分注意して調査を行うよう心がけてください。

レポートの作成にあたっては、まず、対象となるインテリア空間および属する建築物の名称と所在地を明記するようにしてください。(例：「京都〇〇ビル」18階レストラン「〇〇ラウンジ」、所在地：京都市〇〇区〇〇町 3-3) 但し、戸建ての店舗などの場合は店名と所在地のみで構いません。

調査のプロセスとしては、その材料を選定した理由を述べるとともに、実際にどのように使われているかを調べ、感じたこと、考えたことをまとめましょう。実際に使用されている方の意見や、それにより自身が感じたことなどもレポートに含められると尚良いです。また、意匠的な使われ方のみならず、性質を理解したうえでの使われ方も充分観察してください。

なお、必須ではありませんが、空間調査シートとして、対象とした空間(訪問した建物)の写真やスケッチ、雑誌の切り抜きなどをA4用紙1枚 にまとめて添付することが望ましいです。

例：テキストで扱われる材料

○構造躯体に使われる材料

木材、鋼材、コンクリート

○内・外部に使われる材料

木材、石材、金属材、布材(カーペット・テキスタイル)、左官材、塗装材、ガラス、スレート、樹脂材

●提出物

1. レポート本文 (3,200文字程度)
2. 空間調査シート (任意)

●空間調査シートの提出方法

空間調査シートを添付する場合は、以下のいずれかの方法でデータを作成しレポート本文とは別に添付ファイルとして提出してください。(①②を推奨します。)

①A4用紙に切り貼りで作成したものをスキャンしてデータ化したもの

②IllustratorやMicrosoftWordなどのソフトウェアで作成したデータをPDF化したもの

③A4用紙に切り貼りで作成したものをデジカメで撮影したデータ

添付ファイルには30文字以内で説明(キャプション)として「建物名」を付けてください。

添付ファイルのデータ形式はPDFもしくはJPEGとし、ファイル容量は10MB以下です。

※レポート本文中に写真・図版をレイアウトして提出することはできません。

※添付ファイルの提出は必須ではありません。

※③の場合は内容が鮮明に読み取れることを確認のうえ提出すること。読み取れない場合は評価不能（再提出）となる場合があります。

TR	生活空間デザイン史	科目コード： 40683
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※ 空間演出デザインコースの方：卒業のための必修科目です。	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	airU	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	有	
担当者	竹内正明*	

科目概要と到達目標

この科目では、空間デザインに関わるさまざまな現象や概念を基礎的な事柄から学びます。現代における空間デザインの礎を築いたのは、近代の日本で活躍した作家たちです。彼らの仕事の考察を通じて、居住空間を中心とした空間デザインおよびデザイン思想の変容について、そのバックグラウンドも含めて理解できるような課題内容としています。課題に取り組みながら今後の設計活動に役立てる知識、教養を身に付ける、ということを到達目標とします。

評価基準と成績評価方法

- 1、課題の理解
- 2、議論の展開、文章表現
- 3、情報・資料の活用
- 4、具体性
- 5、独自の視点

本科目の成績評価は課題と単位修得試験の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『近代日本の作家たち（建築をめぐる空間表現）』 学芸出版社 空間演出デザインコース以外の方：配本されていないテキストの入手については： 『学習ガイド』p.75「2.教材・テキストの入手方法」およびp.81「6.テキスト一覧（学部共通専門教育科目）」の項を確認のうえ各自で購入してください。
参考文献・URL	『建築史－近代の建築－』 本学テキスト 『建築史－日本の建築－』 本学テキスト 『作家たちのモダニズム』 学芸出版社

レポート課題

課題コード：11

課題の内容

テキスト『近代日本の作家たち』を通読し、airUマイページ＞カリキュラム一覧＞該当科目＞「テキスト・教材学習」ページで小テストに取り組んだ後、以下の課題に取り組んでください。

過去あるいは同時代の空間表現の手法を援用しつつ、さまざまな作家たちが生活空間のデザインの発展に貢献してきました。近代において、作家たちはどのようにして自らの空間表現を模索し、実践してきたのでしょうか。

テキスト『近代日本の作家たち』で紹介されている作家のなかから関連性が高いと思われる3名をピックアップし、次の3つの視点で分析した結果を、それぞれの作家の共通点と差異を明確にしつつ、レポートとしてまとめてください（合計3200文字程度）。

視点a) 空間表現の背景

（時代背景や影響を受けた人物、転機となった出来事などをレポートの論旨に則して考察します）

視点b) ものづくりへの態度や考え方

（作品制作における考え方や態度などをレポートの論旨に則して考察します）

視点c) 空間表現の比較・分析

（それぞれの作家の代表作品を具体的に挙げて比較・分析をおこないます）

レポートは、以下の流れに沿って作成してください。

- 1) 『近代日本の作家たち』を通読し、関連性が高いと思われる3名の作家をピックアップする
- 2) 3名の作家を論じる上でのキーワードを1つだけ見つけ、それをういたタイトルを考える
- 3) キーワードを踏まえつつ、上記3つの視点ごとに重要事項を整理する
- 4) 作家やキーワードと関連する資料をできるだけ多く集め、論考の根拠を明確にする
- 5) 章立てごとに要旨を簡条書きでまとめ、レポートの全体像を把握する
- 6) 5) を手がかりに各作家の関係性を明らかにしつつ、レポートを書く

また、レポートは以下の章立てで書いてください。

1. はじめに
（内容：キーワードの説明、レポートのねらい）
2. 空間表現の背景
（内容：視点aの分析をもとに得られた見解を自分の言葉で述べます）
3. ものづくりへの態度や考え方
（内容：視点bの分析をもとに得られた見解を自分の言葉で述べます）
4. 空間表現の比較・分析
（内容：視点cの分析をもとに得られた見解を自分の言葉で述べます）
5. おわりに
（内容：視点a～cの分析を通じて明らかにしたことを簡潔にまとめます）

●レポート作成にあたっての注意事項

- ・ レポートを作成する際に参照したすべての文献を参考文献としてレポートの末尾に明記すること
- ・ シラバスに記載されている参考文献以外の資料をできるだけ多く参照すること
- ・ レポート本文では、参考文献の要約に終始することなく、自分の言葉で見解を述べること
- ・ 引用・要約をおこなった場合はその出典元を明記すること
- ・ 引用・要約はレポート全体の1/3以内にとどめること
- ・ 引用・要約の出典元および参考文献は、著者名、「論文名」、『著書名』、出版社名、出版年、引用箇所のページ番号、の順で記載すること

●提出物

1. レポート本文（3200文字程度）

TR	芸術理論1 東洋の芸術理論 科目コード： 41001
配当年次	1年次～
単位数	2
履修の前提条件	なし
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験
課題提出形態	郵送・窓口・airU ※再提出の場合の提出方法は、初回提出方法に準ずる。 ※芸術教養学科・アートライティングコースはairUのみ。
課題数	1
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。
単位修得試験	有
担当者	池野絢子*、島村幸忠

科目概要と到達目標

日本、朝鮮、中国において、それぞれの時代と地域を代表する芸術家や思想家たちが遺した美学・芸術思想を集めたアンソロジーを教材として用い、そこからさまざまな芸術理論を学習します。

日本は歌論、能楽論、連歌論、書論、茶道論、花道論にくわえて庭園論や武道・武術論を扱います。朝鮮では高麗時代の文人の美学思想をはじめ、詩論や音楽論、實学思想などを紹介し、中国においては宗炳『画山水序』、張彦遠『歴代名画記』、蘇東坡などの重要な理論書を探りあげます。

これらの国々の多様な芸術理論を理解すると共に、それぞれの違いや共通項についても考察する力を身につけます。

お茶や生け花をたしなまれる方でも、中国の絵画にはちょっとうるさい、という方でも、それらの理論書を読んだ経験はなかなかないのではないのでしょうか。

この授業の第一の目標は、日本、朝鮮、中国の芸術に関する古典的テキストを読解し、その内容を正しく理解することです。日本人であっても、古文は外国語のように遠く思えることがあるものです。しかし、その意味を考えながら丁寧に読めば、知っているようで知らなかった、新しい発見が待っているはずです。そしてそれは、現代の私たちにとって驚くほど新鮮なメッセージであるかもしれません。

本科目では、まずテキストの内容を正確に理解し、その上で、その今日的な意義について自分なりに考える姿勢を身につけることを目指します。

評価基準と成績評価方法

- ・文章の表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業の趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握
- ・受講生自身の見解の提示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

成績評価方法は、全課題の平均と試験の平均です。

テキストと参考文献・URL

テキスト	宇佐美文理・青木孝夫編『芸術理論古典文献アンソロジー 東洋篇』（芸術教養シリーズ27）、藝術学舎、2014年
参考文献・URL	*1、2、3、6は品切れですが、図書館あるいは古本で入手可能です。 1. 青木正兒「中華文人画談」『青木正兒全集』第6巻、春秋社、1969年 2. 尼ヶ崎彬『花鳥の使 歌の道の詩学』勁草書房、1983年（新装版1995年） 3. 今道友信編『美学の歴史 講座美学1』東京大学出版会、1984年の第Ⅱ部「東洋の美学」 4. 宇佐美文理『歴代名画記 〈気〉の芸術論』岩波書店、2010年 5. 神林恒道編『日本の芸術論』ミネルヴァ書房、2000年 6. 福永光司『芸術論集 中国文明選14』吉川幸次郎・小川環樹監修、朝日新聞社、1971年 7. 李沢厚『中国の伝統美学』興膳宏・中純子・松家裕子訳、平凡社、1995年

レポート課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	1. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2. レポート本文 手書きの場合：大学指定レポート冊子の原稿用紙面または任意の400字原稿用紙面8枚程度・ヨコ書き、 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に3,200文字程度・ヨコ書き 3. 宛名表紙（レポート冊子綴込み、または『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返送先明記・切手不要） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 添削指導評価書と3. 宛名表紙は不要です。 ※芸術教養学科・アトライティングコースの課題提出形態はairUのみです。
再提出物 (一括送付)	1. 再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2. 再提出レポート本文 3. 前回提出（=D評価）のレポート（添削指導評価書（添削文含む）、レポート本文、宛名表紙） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 再提出用添削指導評価書と3. 前回提出レポートは不要です。 ※芸術教養学科・アトライティングコースの課題提出形態はairUのみです。

課題の内容

【設問1】

教材テキストに登場する以下の用語の中から二つを選び、どのような意味であるかをそれぞれ400字程度で説明してください。（800字程度）

万物斉同
臥游（臥以游之）

書画同源
中和の徳
風雅

【設問2】

現代を生きる私たちは、芸術作品の美しさは個人の感性によって決まるもので、芸術は社会や政治とは関係ないもの、と考えがちです。しかし、古来東洋の思想において芸術は、政治・道徳の形成に重要な役割を果たすものと考えられてきました。以下のキーワードから二語以上を用いて、芸術と政治・道徳がいかに結びついていたのかを説明してください。（1200字程度）

仁
徳
礼楽
文人
儒学

【設問3】

「気」という概念は、中国の思想（およびそれを受容した韓国・日本の思想）において、重要なものと捉えられてきました。気は芸術とどのように関わりあうのでしょうか。教材テキストに掲載された芸術理論の中から自由に二つ取り上げて比較しながら説明してください。（1200字程度）

TR	芸術理論2 西洋の芸術理論	科目コード： 41002
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	郵送・窓口・airU ※再提出の場合の提出方法は、初回提出方法に準ずる。 ※芸術教養学科・アートライティングコースはairUのみ。	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	有	
担当者	池野絢子*、井岡詩子	

科目概要と到達目標

西洋において古代ギリシア時代から20世紀前半までに生み出された多様な芸術理論について学びます。各時代、各地域で誕生した芸術理論の基礎的な内容を、さまざまな文化現象と照らし合わせながら解説します。

古代ギリシアの哲学者プラトンやアリストテレス、古代ローマの建築家ウィトルウィウス、中世では哲学者アウグスティヌスやトマス・アキナス、ルネサンスでは画家レオナルド・ダ・ヴィンチやヴァザーリ、近世はカントやヴィンケルマンなどの思想を紹介し、近現代ではベルクソン、フロイトらを取りあげ、それぞれの理論的な特徴について考察します。

芸術といえばすぐに思い浮かぶのは絵画や音楽でしょうが、仮にそれを人間の感性に働きかけるものとして捉え直してみると、舞踊や、衣服、果ては食文化に至るまで様々な領域があることに気づきます。この授業では、そうした様々な分野の芸術について書かれたテキストを読解し、その内容を正確に理解することを第一目標とします。それによって、これまで持っていた芸術の見方を広げ、より開かれた視点で芸術について考える姿勢を養ってください。また、それらの思想が、時代を通してどのように受け継がれていったのか、その歴史的な展望についても学んでいきましょう。

評価基準と成績評価方法

- ・文章の表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業の趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握
- ・受講生自身の見解の提示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

成績評価方法は、全課題の平均と試験の平均です。

テキストと参考文献・URL

テキスト	加藤哲弘編『芸術理論古典文献アンソロジー 西洋篇』（芸術教養シリーズ28）、 藝術学舎、2014年
参考文献・URL	1. ウンベルト・エーコ編著『美の歴史』川野美也子訳、東洋書林、2005年 2. 小田部胤久『西洋美学史』東京大学出版会、2009年 3. 佐々木健一『美学辞典』東京大学出版会、1995年 4. 当津武彦『美の変貌——西洋美学史への展望』世界思想社、1988年（品切れで すが古書で入手可）

レポート課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	1. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2. レポート本文 手書きの場合：大学指定レポート冊子の原稿用紙面または任意の400字原稿用紙 面8枚程度・ヨコ書き、 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に3,200文字程度・ ヨコ書き 3. 宛名表紙（レポート冊子綴込み、または『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返 送先明記・切手不要） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 添削指導評価書と3. 宛名表紙は不要 です。 ※芸術教養学科・アトライティングコースの課題提出形態はairUのみです。
再提出物 (一括送付)	1. 再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記 入） 2. 再提出レポート本文 3. 前回提出（=D評価）のレポート（添削指導評価書（添削文含む）、レポート本 文、宛名表紙） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 再提出用添削指導評価書と3. 前回提 出レポートは不要です。 ※芸術教養学科・アトライティングコースの課題提出形態はairUのみです。

課題の内容

【設問1】

教材テキストに登場する以下の用語の中から二つを選び、どのような意味であるかを各400字程度で説
明してください。（800字程度）

ゼウクシスのひそみ
エクフラシス
詩は絵（絵画）のごとく
シュムメトリア
批判哲学

【設問2】

古代ギリシアの彫像の理想的な人体、あるいは舞踊における身体表現のように、古来芸術は、身体を表現の対象や方法としてきました。テキストに掲載された芸術理論を自由に二つ取り上げて、芸術と身体との関わりがどのように考えられてきたのかを説明してください。（1200字程度）

【設問3】

西洋では古代ギリシア以来、芸術とは自然のミメシス（真似・模倣）であるという考え方が存在しました。テキストに掲載の芸術理論を自由に二つ取り上げて、芸術におけるミメシス（真似・模倣）がどのように論じられてきたかを説明してください。（1200字程度）

TW	造形基礎演習1 科目コード： 40501
配当年次	1年次～
単位数	2
履修の前提条件	なし ※「造形基礎演習2」との同時履修可 ※日本画・洋画・陶芸・染織・写真コースの方：卒業のための必修科目です。
履修方法	作品第1課題のみ
課題提出形態	郵送・窓口
課題数	1
課題提出期間	【4/20締切分】04/11～04/20、【5/20締切分】05/11～05/20、 【7/20締切分】07/11～07/20、【8/20締切分】08/11～08/20、 【10/21締切分】10/11～10/21、【11/20締切分】11/11～11/20、 【1/20締切分】01/11～01/20、【2/20締切分】02/11～02/20 郵送・窓口での提出は締切日必着。
単位修得試験	無
担当者	中島敏行*、池田雅文、池内晶子、杉山優子、丹下敬文、中島尚子、日比野ルミ、秋山一郎、他

科目概要と到達目標

あらゆる造形活動の基本であり根幹となるデッサン力。デッサン力＝見る力です。私たちにとって、見ることは、外界の情報を取り込むための窓口で、感性や思考にも大きく影響を与える、大切な行為です。見たことを描くデッサンには、作者の見た事柄が全て現れます。それゆえ、何を見て、何を見ていないのかを、自身で確認できるのが最大のポイントです。そして、階段を一段ずつ登るように、常に今以上を見ようとすることによって、デッサン力＝見る力は、向上し続けます。これには、実際に描き、体得する以外に方法はありません。時には“痛い目”にあっても、めげずに頑張りましょう。特別な技術は必要なく、ゆっくり丁寧に観察し、粘り強く丁寧に描き続けることによって、自ずと見方の工夫が生まれはじめ、手応えが掴めてきます。難しいと思える場所ほど、更にゆっくり観察しましょう。日常では、ほとんど行わない、この、ゆっくり目を動かして見るのが、まずは、何より大切です。テキストには、造形活動の内実は、デッサンに最も端的に現れると記されています。テキストも参考にし、造形やデッサンへの視野を拓けてください。

この科目を通じて、見ることの大切さが意識され、全力でデッサンに取り組めるようになること、そして、見たことの証としてデッサンを位置づけ、見ることを反省的にとらえ直し、粘り強く目を鍛え続けられるようになることを目標とします。

評価基準と成績評価方法

- 1、モチーフを見る時の目の位置を一定にし、一定にした目の位置から見たモチーフが、正確に描けているか。
- 2、真正面から見た時に正円の形状を持つものが、真正面以外の視点からは楕円に見える。その楕円の描出が正確にできているか。
- 3、ものが、台やテーブルに置かれている状態を意識して観察し、描かれているか。
- 4、ものの固有色を白黒の階調の中に置き換えて描出できているか。
- 5、ものやテーブル面、壁面の陰影を観察し描出できているか。
- 6、描出の手がかりに引かれた輪郭線が消え去っているか。

7、モチーフと進行中のデッサンとを何度も見比べ、違いを修正できるようになっているか。

本科目の成績評価は課題の評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『造形の基礎を学ぶ』（本学テキスト） 配本されていないテキストの入手については『学習ガイド』の「テキスト配本」の項を確認のうえ、巻末書式の「テキスト送付・購入申込書」で請求してください。
参考文献・URL	なし ○動画教材は、「テキスト・教材学習」のページ内に掲載しています。

作品第1課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	大学指定の作品提出用角筒あるいは作品送付用大型封筒に台紙をそえて入れて一括送付 1、作品1点（B4または八つ切り画用紙） 2、作品について、何を描いたかを含むコメントを100字程度で記述し、同封すること（400字詰め原稿用紙あるいは任意のA4用紙） 3、添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 4、返送用宛名シール（返送先明記、発送時と同額の切手を貼付） 【再履修について】 再履修の際には、初回提出物に加え、「前回の提出作品＋前回のコメント＋前回の添削指導入り提出作品コピー、前回提出（＝D評価）添削指導評価書」をつけて提出してください。
再提出物 (一括送付)	1、再提出作品＋再提出作品に関するコメント（100字程度） 2、再提出用添削指導評価書 3、前回の提出作品＋前回のコメント＋前回の添削指導入り提出作品コピー 4、前回提出（＝D評価）添削指導評価書 5、返送用宛名シール（返送先明記、発送時と同額の切手を貼付）

課題の内容

「指定されたものと、それらが置かれている状態をモチーフとして、鉛筆でデッサンする」

あなたの身の回りにあるものの中から、

- 1、コップ（シンプルな形で、飲み口と底が正円になっているもの。材質は問いません）を一つ。
- 2、立方体または直方体の構造をしたものを一つ。
- 3、野菜または果物を一つ。

以上の条件を満たし、かつ「描いてみたい」「描くぞ!」という意欲がわく合計【三つのもの】を選び出してください。

※もし、上記のようなものが身の回りにない場合は、購入してください。

それらを、台や床、背景等との関係を見ながら、あなたの生活の場の中の描きやすい場所に、自由に組み合わせて置いてみます。気に入った置き方ができるまで、いろいろ試してみてください。ただし直射

日光が当たる場所は避けましょう。※注意：光の設定方法は、制作のための注意事項参照。

【気に入った状態ができたなら、それがこの課題のためのあなたのモチーフになります。】

そのモチーフをよく見て、見たことを詳しく、B4または八つ切り画用紙に鉛筆を使って、絵に描きましょう。モチーフと描きつつある絵とをよく見比べて描きましょう。モチーフをじっくり観察し、観察したことは徹底的に描き込みましょう。かたちが違うとか色合いが違うとか、直すべきところが見つかったら、ごまかさず納得がいくまで直し、さらに徹底的に描き込みましょう。

そのようにして全力を尽くして描いた絵（1点）を提出してください。これらの総体をデッサンとします。

※選んだ【三つのもの】、全てを台やテーブル等の上に、自由に組み合わせ置き、その状態をモチーフとして、一枚の画用紙に描いてください。選んだものを一つずつ別の画用紙に描くではありません。

※【三つのもの】を置くテーブルなどの場所の質感や色が気に入らなければ、無地の布（白、グレー、黒など）を敷いた上に組み合わせて置いてかまいません。

○制作のための注意事項

・絵は、B4または八つ切り画用紙に鉛筆で描いてください。鉛筆の芯はカッターで研いでピンピンに尖らせませす。鉛筆の濃さはその都度好きなように選び、使い分けましょう。シャープペンシルは使わないでください。

※必ず指定されたサイズの手紙を使用してください（B4サイズ：257×364mm、または八つ切りサイズ：271×382mmの画用紙）。使用する画用紙は、長時間の制作に耐える適度な厚みがあり、表面があまり凸凹していないものが描きやすいです。例えば、ミューズ社製：ニューTMKポスター紙（特厚口または厚口）が、描きやすく値段が手頃なので推奨します。その他、ミューズ社製：ec水彩紙（230g）、タッチⅡ（230g）、サンフラワーA画（130g）、サンフラワーM画（特厚）。キャンソン社製：デッサンJA（200g）、シリウス水彩紙（特厚）等があります。もちろん、その他の画用紙でも描けます。画材屋さんで手に入れられる範囲内で購入してください。また、水彩で使用するものもあり、水彩紙として販売されている場合もありますが、上記の紙であれば、特に問題なく使用できます。販売サイズは様々なので、指定サイズの大きさと販売されていない場合は、指定サイズに切って使用してください。表裏がわからない場合は、画材屋さんで確認しましょう。また、スケッチブックから、切って使用しても構いませんが、ループの切り後が残っている場合は、カッターナイフ等で、直線にきれいに切り落としましょう。スケッチブックの場合、例えば、100枚綴りのように枚数が多いものは、薄い紙の場合が多いので推薦できません。

※この課題で使用する鉛筆には色鉛筆は含みません。芯が黒鉛の鉛筆を使用してください。使用する鉛筆の目安は、芯の硬さが6Hから6B位のデッサンに適したもの（参考として、ユニ、ハイユニ、FABER-CASTELL、STAEDLER、STABILO等）。

※消し具には「プラスチック消しゴム」の他に、「練り消しゴム」があると大変便利です。画材店や文房具店で販売しています。

・「描きやすい場所」というのは、完成までにじっくり時間をかけられるようにいくつかの条件を満たす必要があります。以下のことに注意して選びましょう。

- ①ずっとその場所にモチーフをセットしたままにしておく。
- ②周辺の状態も変化させる必要がないか、簡単に、同じ状況を作ることができる。
- ③モチーフから遠すぎも近すぎもせず（約1～1.5m位）、よく見える、そのような同じ位置に自分のからだを占めることができ、紙をテーブルや画板にひろげて、いつも目を同じ位置に保持できる。
- ④モチーフと絵を描く紙とに当たる光の状態が一定して安定しており、暗すぎも明るすぎもしない。

・モチーフに当たる光の設定方法は、描く位置からモチーフを見た時に、できる限り一方向からの光で

モチーフの右上または左上、いずれか斜め上部から光が当たるようにしましょう。光源が幾つかあり、主となる光と、別の方向からの光（特に主となる光と逆方向からの光）が、モチーフに当たると、描くことが大変難しくなるので、そのような設定は避けましょう。

- ・絵が完成したら、フィキサチフという定着剤で鉛筆の粒子を紙に定着させてください。フィキサチフはどんな画材店でも売っています。買うときに、お店の人に使い方を尋ねましょう。

- ・自分の目の位置がどこにあるかを絶えず意識し、描き始めから描き終わりまで同一のところに目を位置取りするようにしてください。目の位置が動くとそのたびに「見え」が変化してモチーフのかたちがとらえにくくなります。目の位置を一定のところにキープする、これがこの課題ではとても重要です。

- ・画用紙の四隅まで気を配り、自分の目で見ていることだけをよりどころにしてモチーフを描き切りましょう。

- ・そう簡単には思ったように描けるものではありません。どこかで習い覚えた「描き方」などで処理しようなどとしたりせず、早く描いてしまおう、とか、うまく描こう、とかいうことは最初からあきらめて、粘りに粘るのが唯一のコツです。

- ・描いているデッサンとモチーフを何度も何度もよく見比べ、モチーフと違っているところは妥協せずに修正しましょう。

- ・「全て見た。もう描くところはない！」と思った時が完成です。完成した作品について、何を描いたかを含むコメントを100字程度で記述し（400字詰め原稿用紙あるいは任意のA4用紙）、作品とともに送ってください。

○提出にあたっての注意事項

デッサンの裏面右下には必ず「学籍番号・氏名・造形基礎演習1・○回目提出」を明記すること。

TW	造形基礎演習2 科目コード： 40502
配当年次	1年次～
単位数	2
履修の前提条件	なし ※「造形基礎演習1」との同時履修可 ※日本画・洋画・陶芸・染織・写真コースの方：卒業のための必修科目です。
履修方法	作品第1課題
課題提出形態	郵送・窓
課題数	1
課題提出期間	【4/20締切分】04/11～04/20、【5/20締切分】05/11～05/20、 【7/20締切分】07/11～07/20、【8/20締切分】08/11～08/20、 【10/21締切分】10/11～10/21、【11/20締切分】11/11～11/20、 【1/20締切分】01/11～01/20、【2/20締切分】02/11～02/20 郵送・窓口での提出は締切日必着。
単位修得試験	無
担当者	秋山一郎*、秋山みちか、浅野真一、梶谷いずみ、古井三恵子、中島敏行、他

科目概要と到達目標

「造形基礎演習2」では、テキストの6章以降で扱っている、20世紀に入ってから造形活動の動向とも関連づけながらデッサンに取り組みます。デッサンでは、目の前にある具体的なものからこの世にはないものまで、下品でワイザツなものから崇高で神々しいものまで、思い立ったら何を描いてもよいのですが、ここでは特にコラージュについて体験的に学びながら、さらに自分の目と手を使ってナマに描くことの積極的な意味について考えてみます。

この科目を通じて、コラージュを体験し、作品を制作できるようになること。そして、平面的なものを、そのまま別の平面上に写す（移す）ことで生じる“迫力”を体験し、徹底的な描き込みの意味を考えられるようになることを目標とします。

評価基準と成績評価方法

- 1、作者のねらいがコラージュ作品に現れ出ているか。
- 2、丁寧に、時間をかけて写し（移し）とったデッサンになっているか。
- 3、形が正確に写し（移し）とられているか。
- 4、コラージュ作品の中の色合いを、画用紙の白から鉛筆の黒さまでの幅の中にしっかりと置き換えることができているか。

本科目の成績評価は課題の評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『造形の基礎を学ぶ』（本学テキスト） 配本されていないテキストの入手については『学習ガイド』の「テキスト配本」の項を確認のうえ、巻末書式の「テキスト送付・購入申込書」で請求してください。
------	--

参考文献・URL	なし ○動画教材は、「テキスト・教材学習」のページ内に掲載しています。
----------	--

作品第1課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	大学指定の作品提出用角筒あるいは作品送付用大型封筒に台紙をそえて入れて一括送付 1、鉛筆デッサン1点（B4サイズ：257×364mm、または八つ切りサイズ：271×382mmの画用紙） ※ この課題で使用する鉛筆には色鉛筆は含みません。芯が黒鉛の鉛筆を使用してください。使用する鉛筆の目安は、芯の硬さが6Hから6B位のデッサンに適したもの（参考として、ユニ、ハイユニ、FABER-CASTELL、STAEDLER、STABILO等）。 2、コラージュ（B4サイズ：257×364mm、または八つ切りサイズ：271×382mm）または、コラージュが立体的だったり壊れやすく郵送が無理な場合はその写真（2L版：127×178mm）のいずれか1点 3、レポート（400字以内。400字詰め原稿用紙あるいは任意のA4用紙） 4、添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 5、返送用宛名シール（返送先明記、発送時と同額の切手を貼付） 【再履修について】 再履修の際には、初回提出物に加え、「前回の提出作品+前回のコメント+前回の添削指導入り提出作品コピー、前回提出（＝D評価）添削指導評価書」をつけて提出してください。
再提出物 (一括送付)	1、再提出作品+再提出作品についてのレポート（400字以内） 2、再提出用添削指導評価書 3、前回の提出作品+前回のレポート+前回の添削指導入り提出作品コピー 4、前回提出（＝D評価）添削指導評価書 5、返送用宛名シール（返送先明記、発送時と同額の切手を貼付）

課題の内容

「コラージュを制作し、それを、そっくりそのまま鉛筆で描く」

テキストの第6章第2節でふれたように、コラージュは20世紀最大の造形上の発見です。このコラージュをやってみましょう。身の回りの新聞や雑誌にある写真やイラスト、文字、色彩、等々を切り取って組み合わせて台紙にのりで貼る、それだけでコラージュができます。それだけでOKです。こんなに簡単なことが本当に20世紀最大の造形上の発見なのだろうか、と思ってしまう位作業としては簡単です。機会あるたびに、B4または八つ切りの大きさの用紙を台紙にして、コラージュをつくっておきましょう。

- ・ 日頃から身の回りの新聞や雑誌に気を配り、その中で気になった、写真やイラスト、文字、色彩、等々を、自分の好きな形に自由に切り取って、箱などに入れてためておきます。それを素材にします。
- ・ 素材がたくさんたまってきたら、大きなものから先に、小さなものはあとに（ホントはそれにもこだわらなくてもよいのですが）裏面にのりを隅々までしっかり塗りつけてB4または八つ切りの大きさの台紙に貼っていきます。
- ・ どんなでたらめもやっていいのだ、というのがコラージュの強みです。日常の価値基準を大いに逸脱してぺたぺた貼っていきます。ことさらに深刻に考えたりしない、というのもコツです。
- ・ 台紙の種類も画用紙だけではなくいろいろ工夫してみましょう。
- ・ 台紙の天地すら、でたらめでよい位の気持ちでちょうどよいはずですよ。

- ・コラージュの素材は印刷物に限りません。必要であれば自身の表現目的にかなうと思える素材を使用してもよいです（ただし針や虫ピン、カミソリなど、開封・添削時に危険な素材は使用しないでください）。
- ・ともかくたくさん作りましょう。

さて、今度は、たくさん作ったコラージュ作品のなかから、一点気に入ったものを選びます。選んだそれを見て、そっくりそのまま鉛筆で、B4または八つ切りの画用紙に描きましょう。時間がかかります。あきらめて時間をたっぷりかけてやりましょう。選んだコラージュ作品とそれをそっくりそのまま鉛筆で描いたデッサンとを提出してください。

・もとにするコラージュ作品は、B4または八つ切りサイズの紙に作成するか、B4または八つ切りサイズにトリミングしてください。どのように作ってもよいですが、もしそれが重すぎたり、壊れそうだったりしてデッサンやレポートと一緒に筒や封筒で送ることができないときには、面倒でも写真（2L版：127×178mm。カラープリント）を送ってください。写真は、作品を自分で撮ったものでよいです（デジカメプリントも可）。

・コラージュは添削の際、本来は実物を確認する必要があります。ですから、出来る限り実物を送付いただきたいのですが、コラージュに、例えば木の葉や実、昆虫の羽などが貼ってある場合、取り扱いに注意していても、どうしても素材の性質上、運送中に破損してしまうことがあります。せっかく制作した大切な作品が破損しては困ると思われる方は、写真で提出してください。また、そういった素材を使用しているコラージュを送付する場合は、破損しにくい貼り方や、梱包の仕方を工夫してください。

・デッサンのサイズは、コラージュをB4サイズで作成した場合はB4サイズで、八つ切りサイズで作成した場合は八つ切りサイズで行ってください。

・デッサンは必ず鉛筆を使って描いてください。

・絵が完成したら、フィキサチフという定着剤で鉛筆の粒子を紙に定着させてください。フィキサチフはどんな画材店でも売っています。買うときに、お店の人に使い方を尋ねましょう。

以上の制作の感想を400字以内の文章で記述し添付してください（400字詰め原稿用紙あるいは任意のA4用紙）。

○提出にあたっての注意事項

- ・デッサンの裏面右下には必ず「学籍番号・氏名・造形基礎演習2・○回目提出」を明記すること。
- ・コラージュを同封する際には、裏面右下に「学籍番号・氏名・造形基礎演習2・○回目提出」を明記すること。
- ・コラージュの写真と同封する際には、裏面右下に「学籍番号・氏名・造形基礎演習2・○回目提出」を明記すること。

TW	立体造形演習1 科目コード： 40503
配当年次	1年次～
単位数	2
履修の前提条件	なし ※大学指定の教材を入手し、履修を始めること（後述の「教材の入手方法について」参照） ※2014年度まで開講していた総合教育科目「立体造形演習1」の単位を修得済みの場合、履修は不可
履修方法	作品第1課題
課題提出形態	郵送・窓口
課題数	1
課題提出期間	【4/20締切分】04/11～04/20、【5/20締切分】05/11～05/20、 【7/20締切分】07/11～07/20、【8/20締切分】08/11～08/20、 【10/21締切分】10/11～10/21、【11/20締切分】11/11～11/20、 【1/20締切分】01/11～01/20、【2/20締切分】02/11～02/20 郵送・窓口での提出は締切日必着。
単位修得試験	無
担当者	大杉直*

科目概要と到達目標

自然の中に見い出される生命を持った形には、躍動感や緊張感やバランスの美しさといった様々な美的要素が含まれています。それらの要素を立体的な形の中で追求することがこの科目の目的です。ここではピーマンという身近な自然物を勉強の対象とします。まず、ピーマンそのものを描写することにより自然形態の立体的な描き方を学び、立体造形することにより自然形態の持つ動的な構造を学び、発泡スチロールの造形物を描写することにより、色にまどわされない明暗の変化を描くことを学びます。このようなことを学ぶにあたり、初歩の人が陥り易い部分的なものの見方にとらわれない、より大きなものの見方が出来ることを到達目標にしたいと思います。

評価基準と成績評価方法

ピーマンのデッサンと立体造形及び立体造形のデッサン、この3点の平均点を評価点とします。デッサンの場合は形や明暗の変化をどれだけ正確にとらえられているか、そして立体造形の場合は形の全体像を立体としてどれだけ正しくとらえられているか、ということが評価の基準になります。それらが正しくとらえられた時、量感、動感、質感、構造といったものは自然に付随してくるものです。

本科目の成績評価は課題の評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『彫刻』（本学テキスト） 配本されていないテキストの入手については『学習ガイド』の「テキスト配本」の項を確認のうえ、巻末書式の「テキスト送付・購入申込書」で請求してください。
参考文献・URL	なし

初回提出物 (一括送付)	材料を送付した立体作品提出用箱に入れて一括送付 1、添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2、＜デッサン1＞右と左に、ピーマンを異なる2方向から、それぞれ描いた鉛筆デッサン（B3画用紙） 3、＜立体造形＞ピーマンをモチーフとして、発泡スチロールで制作した立体造形 4、＜デッサン2＞制作した立体造形をモチーフにした鉛筆デッサン（B3画用紙） 5、返送用宛名シール（返送先明記、発送時と同額の切手貼付） ※1kgを超える場合は、作品返却用宅配便着払い伝票（返送先明記）を同封すること。
再提出物 (一括送付)	1、再提出作品（再提出課題作品については、大学から返却された「添削指導評価書」にて個別に指示しているものを提出してください。） 2、再提出用添削指導評価書 3、前回提出（＝D評価）の添削指導評価書 4、返送用宛名シール（返送先明記、発送時と同額の切手貼付） ※1kgを超える場合は、作品返却用宅配便着払い伝票（返送先明記）を同封すること。

課題の内容

「自然からの発見」

＜デッサン1＞ ピーマンをモチーフとして、異なる2方向から鉛筆デッサンをしなさい。

＜立体造形＞ ピーマンをモチーフとして、発泡スチロールの塊から立体的に造形しなさい。

＜デッサン2＞ 発泡スチロールで造形したピーマンをモチーフとして、1方向から鉛筆デッサンしなさい。

○課題意図

自然の形態であるピーマンは、日常よく目にする野菜ですが、単にピーマンと他の野菜が区別できる程度にしか見ていないものです。しかしあらためて、モチーフとして観、描写する経験をする、その多様な起伏を持つ量的な形態は、大変魅力のある形であることに気づくものです。そのような形の新たな発見が感動を呼び起し、創作意欲を駆り立てる契機にもなります。モチーフをよく観察し、その形態、動勢、バランスなど造形の諸要素を考慮しつつ、2次元空間、3次元空間での表現を求めましょう。

○モチーフ

ピーマン（またはパプリカなど大きめのもの）

○材料

発泡スチロール（20×20×30cm）、B3画用紙（514×364mm）

○道具

金ノコ刃、サンドペーパー（＃100、＃240）、ノコギリ、カッターナイフ、ヤスリ、マーカー、鉛筆、消しゴムなど

○制作方法

＜デッサン1＞

B3画用紙を横位置にして、右と左に、ピーマンを異なる側面の2方向から見て、それぞれ鉛筆でデッサンします。（描く大きさはモチーフの1.2～1.5倍位で ⇒テキスト第1部「形・発見」参照）
ものを立体的に把握するにはさまざまな角度から形を見る必要があります。クロッキー帳などに、ピーマンを多方向から描いてみます。それによりピーマンの立体的な特徴が理解できます。

<立体造形>

ピーマンをモチーフとしてその立体的特徴を踏まえながら、発泡スチロールを使い立体造形をします。
（⇒テキスト第2部第8章第3節「木を使った制作2 ピーマン」参照）

制作工程：

まず正面（へたが真横を向く位置を正面とした）から見た形を発泡スチロールの面にマーカーを使って描き、その輪郭線を幾つかの直線でとらえます。その直線にそって余分なところを金ノコ刃やノコギリで切り落とします。次に、側面から見た形を描き、切り落とし、そして上面からも同様に行います。さまざまな角度から見て余分なところを平面で切り落としていきます。ピーマンの表面はすべて曲面で覆われていますが、緩い曲面ときつい曲面があります。それぞれの起伏をすぐに丸めてしまわず、平面のつながりとして進めていきます。この面と角（かど）の設定は非常に重要です。ピーマンの表面は強い張りのある面で覆われています。曲面の構造を、面（平面）で捉えます。次に動勢に注意を払いながらサンドペーパー（＃100）で角を丸め、張りのある面を追求します。へたのような細部はカッターナイフやヤスリ、サンドペーパーを筒状に丸めたものなど工夫して仕上げていきます。最後にサンドペーパー（＃240）を細かく動かし曲面を壊さないように、発泡スチロールの面を平滑にして完成度を高めましょう。

<デッサン2>

完成した発泡スチロールの立体造形物をB3画用紙に鉛筆デッサンします。描く大きさは、立体造形とほぼ同じ大きさにしてください。形態が白く、明暗の調子が捉えやすいので、存在感がでるようしっかりと描きます。（⇒テキスト第1部「形・発見」参照）

○制作にあたっての注意点

- ・発泡スチロールを使つての立体造形は、第2部第8章第3節の木を使つた造形に比べずっと削りやすく、時間的にも早くできるので、失敗しないように慎重に制作をしてください。
- ・削りカスが多く出、周りに散らばったり服にくっついったりするので、制作する時は服を着替え、側にはゴミ袋や掃除機などを用意しておいてください。
- ・サンドペーパーはあまり細かく切つて使わず、横半分に切つたものを三つ折りにして使用します。箇所により、板などに巻きつけたりして工夫して使うとよいでしょう。

TW	立体造形演習2 科目コード： 40504
配当年次	1年次～
単位数	2
履修の前提条件	「立体造形演習1」を合格済みであること ※大学指定の教材を入手し、履修を始めること（後述の「教材の入手方法について」参照） ※2014年度まで開講していた総合教育科目「立体造形演習2」の単位を修得済みの場合、履修は不可
履修方法	作品第1課題
課題提出形態	郵送・窓口
課題数	1
課題提出期間	【4/20締切分】04/11～04/20、【5/20締切分】05/11～05/20、 【7/20締切分】07/11～07/20、【8/20締切分】08/11～08/20、 【10/21締切分】10/11～10/21、【11/20締切分】11/11～11/20、 【1/20締切分】01/11～01/20、【2/20締切分】02/11～02/20 郵送・窓口での提出は締切日必着。
単位修得試験	無
担当者	大杉直*

科目概要と到達目標

この科目は「立体造形演習1」と併せて行われるもので、当然その目標とすべきものに変わりはありませんが内容は少し異なります。この科目では何もないところから形を組み立てていきます。その組立の中に緊張感やバランスの美しさなどを追求します。またその基本となる形は直線や立方体で、それをつなぎ合わせることで幾何学的な形が生まれます。この幾何形態がどうしてもうまく描けないという人は、透視図法が理解できていないことが多いです。その理屈さえわかると回りの物が皆その理屈のように見えてくるはずですし、また、デッサンの形の狂いも自分で見つけられることでしょう。この透視図法の理解も目標の1つにしてください。

評価基準と成績評価方法

2枚のデッサンと立体造形の平均点を評価点とします。デッサンの場合は対象が幾何形態なので、透視図法をふまえた上で形や明暗の変化をどれだけ正確にとらえられているか、そして立体造形の場合は空間の中で線や面が、バランスや緊張感や動感といった美しさをどれだけ表わしているか、ということが評価の基準となります。

本科目の成績評価は課題の評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『彫刻』（本学テキスト） 配本されていないテキストの入手については『学習ガイド』の「テキスト配本」の項を確認のうえ、巻末書式の「テキスト送付・購入申込書」で請求してください。
参考文献・URL	なし

初回提出物 (一括送付)	材料を送付した立体作品提出用箱に入れて一括送付 1、添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2、＜デッサン1＞発泡スチロールの立方体で組み立てた作品をモチーフにした鉛筆デッサン1枚（B3画用紙）（発泡スチロールの立方体で組み立てた作品は提出不要） 3、＜立体造形＞銅線と紙による線と面の立体造形 4、＜デッサン2＞線と面の立体造形をモチーフにした鉛筆デッサン1枚（B3画用紙） 5、返送用宛名シール（返送先明記、発送時と同額の切手貼付） ※1kgを超える場合は、作品返却用宅配便着払い伝票（返送先明記）を同封すること。
再提出物 (一括送付)	1、再提出作品（再提出課題作品については、大学から返却された「添削指導評価書」にて個別に指示しているものを提出してください。） 2、再提出用添削指導評価書 3、前回提出（＝D評価）の添削指導評価書 4、返送用宛名シール（返送先明記、発送時と同額の切手貼付） ※1kgを超える場合は、作品返却用宅配便着払い伝票（返送先明記）を同封すること。

課題の内容

「幾何形態の構成と描写」

＜デッサン1＞ 一辺5cmの発泡スチロールの立方体15～20個を使い、バランスや緊張感を考えて組み立てなさい。一番よいと思った形を固定し、それを鉛筆デッサンしなさい。

＜立体造形＞ 組み立てた作品の稜線の一部を使って、線で構成された作品を1点作りなさい。空間におけるバランスや緊張感を考えながら、その一部に紙を貼り、平面も構成要素として取り入れること。

＜デッサン2＞ その線と面によって構成された作品を鉛筆デッサンしなさい。

○課題意図

立体の構造を知ること、立体を把握する上でなくてはならない作業です。幾何学的な立体を構成したり、それを線で表現したりすることは、その作業の具体的な実践であり、作者の空間意識やバランス感覚が試されます。また、それを平面に描写することは、幾何形体の平面による正しい伝達能力を問うものです。

○材料

一辺5cmの発泡スチロールの立方体（20個）、太い銅線（#14、2m×2）、細い銅線（#26、14m）、半紙（5枚）、B3画用紙（514×364mm）、発泡スチロール用接着剤 ※銅線：再提出の場合、太さが1番ほど違う程度であれば、市販のものを使用していただいても結構です。

○道具

ペンチ、定規、はさみ、のり、鉛筆、消しゴム、はんだごて、糸はんだ等

○制作方法

＜デッサン1＞

まず一辺5cmの発泡スチロールの立方体15～20個を使って造形します。ただし、各立方体は水平と垂直の方向に面と面とがずれないようにつなげるものとします。また、大きさは送付された箱に収まる範囲とします。形が決まれば発泡スチロール用の接着剤で固定します。アルコール系の接着剤を使うと、発泡スチロールが溶けてしまうので注意しましょう。その組み立てた作品をモチーフとして、全体の構造が最もよくわかる位置から、B3画用紙に鉛筆デッサンします。（⇒テキストの第1部第1章「デッサンを始める前に」、第2章「幾何形態の素描」、第2部第10章第4節「金属を使った制作3 量の構成」を参照）

＜立体造形＞

発泡スチロールの立方体で組み立てた作品の稜線（各立方体の稜線も含む）の一部を生かして、空間におけるバランスや緊張感を考えながら、線で構成された作品を1点作ります。ただし、使う線の長さの合計が、3～4mになるようにします。次に一辺5cmの正方形を一単位として、その作品のふさわしいと思う個所に半紙を貼り付けます。この時も全体のバランスや緊張感を考えます。また、面で四方を囲めば立体になりますが、その立体の要素を取り入れてもよいでしょう。（⇒テキストの第2部第10章「金属」および第4部「形・空間」を参照）

制作工程：

材料セットの「課題作品の制作工程」の写真1～8を参照してください。

（1）まず2mの太い銅線を2本ともまっすぐに伸ばし（道具を使わずできるだけゆっくり手で伸ばす方がきれいに伸びる）、マーカーで5cm毎に印を付けます。〔写真2〕。

（2）発泡スチロールの立方体で組み立てた作品〔写真1〕を見ながら、その稜線の一部を生かし、銅線を5cmごとに水平、垂直の方向に曲げていきます。〔写真3〕。一本の線で全体を曲げていくのは難しいので、2つぐらいいに分けて作の方がよいでしょう。ただし、1.5m～2m位の長さなら、できるだけ切らずに一本の線で曲げていきます。〔写真4、5〕。

（3）線の接点および線を補足したい箇所は、細い銅線でくくりつけます。そしてその上からはんだ付けをします（はんだ付けの仕方は、材料セットの「はんだ付けの仕方」にて確認してください）。はんだだけでうまく付けば、また、細い銅線だけでうまく付けば、それだけでも良いです。〔写真6〕。

（4）別々に作った線構成をつなぎます。写真7ではただ床に置いてあるだけですが、2つの部分がしっかりと結びついて床の上に安定して立つように工夫します。

（5）線構成の美しさを損なわないように自分で最もふさわしいと思う個所に半紙を貼ります。のりしろを考えて、少し大きめに切り、のりで貼り付けます。面で囲んで立体を作るのはよいですが、線の要素が消えてしまわないように注意します。これで完成。〔写真8〕。

＜デッサン2＞

完成した線と面の立体造形をモチーフとして、全体の構造が最もよくわかる位置から、B3画用紙に鉛筆デッサンします。特にテキストの第1部第1章で説明されている「透視図法」の項をよく読み、寸法が間違っていないか、また水平や垂直の関係が正しいかなどをしっかりと検討します。たとえ作った作品の線が正確でなくても、デッサンのほうは正確に作られたものとして描いてください。（⇒テキストの第1部第1章「デッサンを始める前に」、第2章「幾何形態の素描」を参照）

TW	色彩表現基礎 科目コード： 40505
配当年次	1年次～
単位数	2
履修の前提条件	なし ※2014年度まで開講していた総合教育科目「技術研究4：色彩表現基礎」の単位を修得済みの場合、履修は不可
履修方法	作品第1課題
課題提出形態	郵送・窓口
課題数	1
課題提出期間	【4/20締切分】04/11～04/20、【5/20締切分】05/11～05/20、 【7/20締切分】07/11～07/20、【8/20締切分】08/11～08/20、 【10/21締切分】10/11～10/21、【11/20締切分】11/11～11/20、 【1/20締切分】01/11～01/20、【2/20締切分】02/11～02/20 郵送・窓口での提出は締切日必着。
単位修得試験	無
担当者	杉山優子*、日比野ルミ、小枝繁昭

科目概要と到達目標

私たちの身のまわりを意識して見ると、形と材質と色彩を備えた様々なモノが満ちています。その気になればそれらのモノから、色の勉強はいつでもどこでもできます。そこで本科では、「その気」になるための二冊のテキストを編みました。一冊は色のレッスン集、もう一冊は15人の先生方による講義録です。『色をめぐる114のレッスン』では、生活の中で色に目を向け、色とのつき合い方を学びます。

『色で斬る！』では、専門分野の異なる先生方のさまざまな取り組みに学んだ上で、実際に「色彩採集」に取り組み、あなた自身がどのように身の回りの色をとらえているのかを学びます。そして色彩に対する認識や解釈の幅が広がり、生活や制作・研究の中で楽しく色彩とつき合い、操れるようになることを目標とします。

評価基準と成績評価方法

1. 時間をかけて丁寧に課題に取り組んでいるか。
2. 取り組みの過程で色を見て知ったこと、気づいたこと、気になったことがメモされているか。
3. 丁寧にファイルにまとめられているか。
4. 設問(2)において、30色選定までの過程を大切にしているか。

成績評価方法は、提出された課題の取り組み方とその内容の評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『色をめぐる114のレッスン』（本学テキスト） 『色で斬る！』（本学テキスト） 配本されていないテキストの入手については『学習ガイド』の「テキスト配本」の項を確認のうえ、巻末書式の「テキスト送付・購入申込書」で請求してください。
参考文献・URL	尾登誠一『色彩楽のすすめ』岩波アクティブ新書、2004年

参考文献・URL	城一夫『日本の色のルーツを探して』パイインターナショナル、2017年
----------	------------------------------------

作品第1課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	1. 添削指導評価書 2. レッスンに取り組みながら作ったA4サイズのファイル『色の地図帳』、および『色彩採集』 3. 返送用宛名シール（返送先明記、発送時と同額の切手貼付）
再提出物 (一括送付)	1. 再提出作品 2. 再提出用添削指導評価書 3. 前回提出（＝D評価）作品本体 4. 前回提出（＝D評価）添削指導評価書 5. 返送用宛名シール（返送先明記、発送時と同額の切手貼付）

課題の内容

設問(1)

テキスト『色をめぐる114のレッスン』の中から、3つ以上のレッスンを選び、取り組みの過程でメモをとりながら、その成果品を『色の地図帳』として、A4ファイルにまとめてください。行ったレッスンごとに「感想」も記して下さい。（ファイルは複数冊も可）

設問(2)

テキスト『色で斬る！』を全て読んだ上で、色彩採集をしてください。身の回りの色を200色以上集め、その中から30色（±3色は可）を選び、『色彩採集』というタイトルを記載してA4ファイルにまとめてください。色彩採集についての「感想」も記して下さい。（ファイルは複数冊も可）

上記(1)、(2)を合わせて課題とします。

TW	形態表現基礎 科目コード： 40506
配当年次	1年次～
単位数	2
履修の前提条件	なし ※2014年度まで開講していた総合教育科目「技術研究4：形態表現基礎」の単位を修得済みの場合、履修は不可
履修方法	作品第1課題
課題提出形態	郵送・窓口
課題数	1
課題提出期間	【4/20締切分】04/11～04/20、【5/20締切分】05/11～05/20、 【7/20締切分】07/11～07/20、【8/20締切分】08/11～08/20、 【10/21締切分】10/11～10/21、【11/20締切分】11/11～11/20、 【1/20締切分】01/11～01/20、【2/20締切分】02/11～02/20 郵送・窓口での提出は締切日必着。
単位修得試験	無
担当者	中島敏行*、井川淳子、池内晶子

科目概要と到達目標

この科目では、芸術を志す皆さんが、その制作や研究の対象として扱う形をテーマにします。そして目的は、皆さんに今まで以上によりよく形を見る為のきっかけを示す事です。周りを見渡すと目にうつる全てのモノが形といえます。私達は形に取り囲まれて生活しています。でも意識して見なければその美しさや魅力、不思議さは、なかなか見えてきません。そこで、形の世界へ導くためのテキスト『形をめぐる165のレッスン』を作成しました。レッスンといってもあまり身構えずに、自由に自分が興味あるものを選び行います。レッスンを通して、形の見方や解釈の幅が広がり、今まで注意を払っていなかった形へも意識が向くようになる、そのような変化が皆さんに起こること、

そして、それぞれの分野での制作や研究、日常生活の中での、形の見方や扱い方に結びつけられるようになることが目標です。

テキストには、『形にまつわる7つのエッセイ』も記載しています。専門分野の異なる7人の先生方の形に対してのこだわりや観点の違いにも触れてください。

評価基準と成績評価方法

- 1、時間をかけて丁寧にレッスンに取り組んでいるか。
- 2、取り組みの過程で発見した事や気になった事などが記載されているか。
- 3、丁寧にファイルにまとめられているか。
- 4、造形課題において、制作した作品の記録の仕方が第三者にしっかりと伝わるように工夫されているか。

本科目の成績評価は課題の評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『形をめぐる165のレッスン』（本学テキスト）
------	-------------------------

テキスト	配本されていないテキストの入手については『学習ガイド』の「テキスト配本」の項を確認のうえ、巻末書式の「テキスト送付・購入申込書」で請求してください。
参考文献・URL	『サウンド・エデュケーション』 マリー・シェーファー 春秋社

作品第1課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	1、レッスンをまとめたA4ファイル『形のファイル』 (複数冊になってもよい) 2、行なった全てのレッスンごとの感想文と、科目全体でのまとめとしての感想文 3、添削指導評価書(『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入) 4、返送用宛名シール(返送先明記、発送時と同額の切手を貼付) ※1kgを超える場合は、作品返却用宅配便着払い伝票(返送先明記)を同封すること。
再提出物 (一括送付)	1、再提出作品+再提出のレッスンについての感想文 2、再提出用添削指導評価書 3、前回提出(=D評価)作品本体および、行なった全てのレッスンごとの感想文と、科目全体でのまとめとしての感想文 4、前回提出(=D評価)添削指導評価書 5、返送用宛名シール(返送先明記、発送時と同額の切手を貼付) ※1kgを超える場合は、作品返却用宅配便着払い伝票(返送先明記)を同封すること。

課題の内容

「テキストを読み、レッスンに取り組み、成果品をファイルにまとめる」

①テキストを読み、「形とは?」「形を探す」「形の観察」の項目の中から、3つ以上のレッスンを選んで取り組み、その成果品を『形のファイル』として、A4ファイルにまとめてください。取り組む3つ以上のレッスンは、「形とは?」「形を探す」「形の観察」のすべての項目からそれぞれ1つずつ選んでも、1つの項目から3つ以上選んでも、どのように選んでも構いません。

②テキストの中の「形をつくる」の項目から、1つ以上のレッスンを選んで取り組み、その成果品を『形のファイル』として、A4ファイルにまとめてください。

上記①、②を合わせて課題とします。

※提出の際の注意事項

- ・①と②の課題は『形のファイル』として同じファイルにまとめても構いません。
- ・『形のファイル』は複数冊になっても構いません。
- ・『形のファイル』には、学籍番号、氏名を記す事。
- ・行ったレッスンの番号を記載の事。
- ・造形作品で直接ファイルできないものは、カメラで撮影し写真をファイルする事。立体物の撮影は、第三者にも分かり易く伝わるように、いろいろな角度から撮影したり、細部も分かるように写真で記録する事。
- ・動画や音は、CDにしてファイルする事。
- ・行なった全てのレッスンごとに感想を記し提出する事(文字数は問わない)。
- ・全てのレッスンを終え、この科目全体で発見した事や気が付いた事、反省点など、まとめとしての感想を記し提出する事(文字数は問わない)。

TX	知的財産権研究 著作権概論	科目コード： 41003
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート課題（プレ提出）→全体講評→レポート課題（最終提出）	
課題提出形態	airU	
課題数	1	
課題提出期間	第1課題 【8/31締切分】08/14～08/31【2/28締切分】02/14～02/28 ※プレ提出【7/30締切分】7/21～7/30、【1/31締切分】1/21～1/31	
単位修得試験	無	
担当者	大塚大*	

科目概要と到達目標

本講では、知的財産権、特に著作権について学んでいただきます。身近に多くの著作物があふれており、日常生活は 물론、ビジネスにおいても著作権の知識は必須となっています。デジタル社会における情報リテラシーの醸成、また著作物の保護と活用のためにも著作権を通じて法的な判断力(事例の分析力や判例の読み方、契約書類の書き方などのスキル)を身につけていただけたらと思います。

評価基準と成績評価方法

- ・文章の表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業の趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握
- ・受講生自身の見解の明示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

成績評価方法は、全課題の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『AGENCY FOR CULTURAL AFFAIRS 著作権テキスト ～初めて学ぶ人のために～』（平成30年5月版） （文化庁Webサイトで公開< http://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/pdf/r1392388_01.pdf >）なお、テキストは法改正に伴い、逐次改訂されます。以下のサイトで最新版をご確認ください。 http://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/kyozai.html
参考文献・URL	東京地裁平成30年6月19日平成28年(ワ)32742号著作権侵害差止等請求事件（判決文） http://www.courts.go.jp/app/files/hanrei_jp/871/087871_hanrei.pdf 東京地裁平成30年6月19日平成28年(ワ)32742号著作権侵害差止等請求事件（別紙1）

参考文献・URL	http://www.courts.go.jp/app/files/hanrei_jp/871/087871_option1.pdf 東京地裁平成30年6月19日平成28年(ワ)32742号著作権侵害差止等請求事件（別紙2） http://www.courts.go.jp/app/files/hanrei_jp/871/087871_option2.pdf 東京地裁平成30年6月19日平成28年(ワ)32742号著作権侵害差止等請求事件（別紙3） http://www.courts.go.jp/app/files/hanrei_jp/871/087871_option3.pdf 東京地裁平成30年6月19日平成28年(ワ)32742号著作権侵害差止等請求事件（別紙4） http://www.courts.go.jp/app/files/hanrei_jp/871/087871_option4.pdf
----------	---

第1課題

課題コード：11

課題の内容

ここは最終課題の提出欄です。プレ提出は「テキスト・教材学習」の「4（夏期プレ提出）」または「6（冬期プレ提出）」から提出してください。

【設問1】

ニュースで話題となった著作権が関わる事件、事例について、1例を取り上げて論評してください。その際には、以下の5つの点にすべて触れた上で1600字程度でまとめてください。

- （1）なぜ問題意識を持ったのか（争点はなにか）
- （2）何が問題となっているのか
- （3）法令上はどのようなになっているのか
- （4）他者の意見としてどのようなものがあるか
- （5）自分はどう考えるか

【設問2】

以下の判例について論評してください。その際には、以下の（1）～（4）4つの点にすべて触れた上で1600字程度でまとめてください。

「一竹辻が花美術館グッズ事件」

東京地裁平成30年6月19日平成28年(ワ)32742号著作権侵害差止等請求事件

http://www.courts.go.jp/app/files/hanrei_jp/871/087871_hanrei.pdf（判決文）
http://www.courts.go.jp/app/files/hanrei_jp/871/087871_option1.pdf（別紙1）
http://www.courts.go.jp/app/files/hanrei_jp/871/087871_option2.pdf（別紙2）
http://www.courts.go.jp/app/files/hanrei_jp/871/087871_option3.pdf（別紙3）
http://www.courts.go.jp/app/files/hanrei_jp/871/087871_option4.pdf（別紙4）

- （1）何が問題となっているのか（争点はなにか）
- （2）法令上はどのようなになっているのか
- （3）他者の意見としてどのようなものが考えられるか
- （4）自分はどう考えるか

TX	地域芸術実践1 本学通信教育部「収穫祭」に参加し、各地の文化芸術を作る活動を学ぶ		科目コード： 41301
配当年次	1年次～		
単位数	2		
履修の前提条件	なし		
履修方法	レポート課題		
課題提出形態	airU		
課題数	1		
課題提出期間	第1課題 【4/30締切分】04/21～04/30 【7/30締切分】07/21～07/30 【10/30締切分】10/21～10/30 【1/31締切分】01/21～01/31		
単位修得試験	無		
担当者	上村博*、井面舞、早川欣哉、小熊隆博		

科目概要と到達目標

芸術活動は地域の自然や文化の多様なあり方に応じて、実にさまざまな姿を示しています。本科目では、芸術がどのような地域的实践をなされているのかをつぶさに観察し、取り組まれる学生の皆さん各自の、活動の参考とすることを目指しています。

教材として、本学通信教育部「収穫祭」で予定されている現地研修を指定します。学生はその講座に予め参加したうえで、参加後にレポートに取り組んでいただきます。

※シラバスの注意事項を必ず確認してください。

本科目では芸術活動がさまざまな地域でどのように実践されているのかをつぶさに観察し、その状況について評価する力を身につけることを目標としています。

評価基準と成績評価方法

- ・文章の表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業の趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握
- ・受講生自身の見解の明示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

成績評価方法は、全課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、訪問予定の場所についてよく調べ、また研修内容に関連した情報を収集しておいて下さい。

復習として、研修中に見聞した内容で十分に意味が理解できなかったものがあれば、地誌や芸術史の参考図書にあたるなどしつつ受講のふりかえりを行って下さい。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	なし

第1課題

課題コード：11

課題の内容

【設問1】

レポート冒頭に参加した収穫祭のタイトルと開催日を記し、それに続けて研修の概要（記録）を1600字程度でまとめてください。添付資料として画像を添えても結構です。

【設問2】

参加した研修で学んだことを踏まえ、その地域にとっての芸術活動がどのような意味があるのかを1600字程度でまとめてください。「芸術活動」は原則として研修と関係のあるものを取りあげ、もしそれ以外のものを扱う場合は研修内容との関係に言及してください。

以下の期限を守ってレポート課題を提出してください。

4月～9月開講の現地研修は、当該年度中（翌年3月まで）。

10月～翌年3月開講の現地研修は、当該年度中、あるいは翌年度 前期（4月～9月）まで。

※再提出は期限にかかわらず前回レポートで取り上げたもので可。

TX	地域芸術実践2 指定されたいくつかの現地研修に参加し、各地の文化芸術を作る活動を学ぶ 科目コード： 41302
配当年次	1年次～
単位数	2
履修の前提条件	なし
履修方法	レポート課題
課題提出形態	airU
課題数	1
課題提出期間	第1課題 【4/30締切分】04/21～04/30 【7/30締切分】07/21～07/30 【10/30締切分】10/21～10/30 【1/31締切分】01/21～01/31
単位修得試験	無
担当者	上村博*、井面舞、早川欣哉、乾淑子、三井文博、武田幸子、山田咲ほか、小熊隆博

科目概要と到達目標

芸術活動は地域の自然や文化の多様なあり方に応じて、実にさまざまな姿を示しています。本科目では、芸術がどのような地域実践をなされているのかをつぶさに観察し、取り組まれる学生の皆さん各自の、活動の参考とすることを目指しています。

教材として、本学の提携機関で開講されている現地研修のいくつかを指定します。学生はその講座に予め参加したうえで、参加後にレポートに取り組んでいただきます。

※シラバスの注意事項を必ず確認してください。

本科目では芸術活動がさまざまな地域でどのように実践されているのかをつぶさに観察し、その状況について評価する力を身につけることを目標とします。

評価基準と成績評価方法

- ・文章の表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業の趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握
- ・受講生自身の見解の明示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

成績評価方法は、全課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、訪問予定の場所についてよく調べ、また研修内容に関連した情報を収集しておいて下さい。

復習として、研修中に見聞した内容で十分に意味が理解できなかったものがあれば、地誌や芸術史の参考図書にあたるなどしつつ受講のふりかえりを行って下さい。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	なし

第1課題

課題コード：11

課題の内容

【設問1】

レポート冒頭に参加した研修のタイトルと開催日を記し、それに続けて研修の概要（記録）を1600字程度でまとめてください。添付資料として画像を添えても結構です。

【設問2】

参加した研修で学んだことを踏まえ、その地域にとっての芸術活動がどのような意味があるのかを1600字程度でまとめてください。「芸術活動」は原則として研修と関係のあるものを取りあげ、もしそれ以外のものを扱う場合は研修内容との関係に言及してください。

以下の期限を守ってレポート課題を提出してください。

4月～9月開講の現地研修は、当該年度中（翌年3月まで）。

10月～翌年3月開講の現地研修は、当該年度中、あるいは翌年度 前期（4月～9月）まで。

※再提出は期限にかかわらず前回レポートで取り上げたもので可。

WS	芸術史講義（日本）1 日本の造形芸術の成立から平安時代、鎌倉時代までの展開		科目コード： 41101
配当年次	1年次～		
単位数	2		
履修の前提条件	なし		
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴		
課題提出形態	airU		
開講期	春期		
課題提出期間	05/21～05/28		
全体講評 視聴期間	06/13～06/20		
担当者	三上美和*、濱村繭衣子、川合加容子、大橋利光、金子典正		

科目概要と到達目標

日本の美術史を体系的に学びます。縄文・弥生時代から古墳時代までの芸術と飛鳥時代から鎌倉時代までの仏教美術を主に紹介します。

この講義の目的は、まずは日本美術史を専門的に学習するために必要とされる基礎的な知識を身につけることです。その上で、縄文から鎌倉時代までを通史として概観することによって、これらの時代の芸術作品に通底する特徴を見出すことを目指します。

芸術史講義（日本）1では、造形表現の出発として縄文時代を出発としますが、中心となるのは仏教関係の図像や彫刻です。仏教が日本に伝来したのち、他のアジア地域の美術との関わりのなかでどう展開していったのかを具体的な作例から学んでいきます。

また、正倉院の工芸作品など、古代の工芸についても取り上げます。さらに庭園、建築の歴史的な展開についても学びます。

ここでは、日本での造形芸術活動の歴史的な流れを正しく把握するとともに、個別の作例について、その造形的特徴や制作の背景について理解することを目指します。最初は細かいことにはあまりとらわれず、全体の大まかな流れをまず理解するように心がけてください。

評価基準と成績評価方法

- ・文章表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握
- ・受講生自身の見解の明示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。

復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	栗本徳子編『日本の芸術史 造形篇Ⅰ 信仰、自然との関わりの中で』（芸術教養シリーズ1）、藝術学舎、2013年
参考文献・URL	辻惟雄監修『カラー版日本美術史』（増補新装版）美術出版社、2002年 辻惟雄『日本美術の歴史』東京大学出版会、2005年 佐藤康宏『日本美術史』日本放送出版協会、2008年

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならないため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 造形意識の芽生え－縄文・弥生・古墳時代
- ・2章 仏教美術の幕開け－飛鳥時代
- ・3章 写実の萌芽－白鳳時代
- ・4章 写実の完成－奈良時代前期
- ・5章 写実の成熟－奈良時代後期から平安時代初期
- ・6章 曼荼羅の世界－密教の美術
- ・7章 和様化の過程－平安時代の仏像
- ・8章 院政期の仏画－善美を尽くす
- ・9章 鎌倉の写実－慶派の仏像
- ・10章 仏像の展開－中世から近世へ
- ・11章 古代の工芸－飛鳥時代から平安時代
- ・12章 寺院建築の歴史－日本建築 1
- ・13章 神社建築と住宅－日本建築 2

- ・ 14章 古代・中世の庭園－日本庭園 1
- ・ 15章 庭園様式と近世以降の庭園－日本庭園 2

WS	芸術史講義（日本）1 日本の造形芸術の成立から平安時代、鎌倉時代までの展開	科目コード： 41101
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴	
課題提出形態	airU	
開講期	秋期	
課題提出期間	11/21～11/28	
全体講評 視聴期間	12/13～12/20	
担当者	三上美和*、濱村繭衣子、川合加容子、大橋利光、金子典正	

科目概要と到達目標

日本の美術史を体系的に学びます。縄文・弥生時代から古墳時代までの芸術と飛鳥時代から鎌倉時代までの仏教美術を主に紹介します。

この講義の目的は、まずは日本美術史を専門的に学習するために必要とされる基礎的な知識を身につけることです。その上で、縄文から鎌倉時代までを通史として概観することによって、これらの時代の芸術作品に通底する特徴を見出すことを目指します。

芸術史講義（日本）1では、造形表現の出発として縄文時代を出発としますが、中心となるのは仏教関係の図像や彫刻です。仏教が日本に伝来したのち、他のアジア地域の美術との関わりのなかでどう展開していったのかを具体的な作例から学んでいきます。

また、正倉院の工芸作品など、古代の工芸についても取り上げます。さらに庭園、建築の歴史的な展開についても学びます。

ここでは、日本での造形芸術活動の歴史的な流れを正しく把握するとともに、個別の作例について、その造形的特徴や制作の背景について理解することを目指します。最初は細かいことにはあまりとらわれず、全体の大まかな流れをまず理解するように心がけてください。

評価基準と成績評価方法

- ・文章表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握
- ・受講生自身の見解の明示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。

復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	栗本徳子編『日本の芸術史 造形篇Ⅰ 信仰、自然との関わりの中で』（芸術教養シリーズ1）、藝術学舎、2013年
参考文献・URL	辻惟雄監修『カラー版日本美術史』（増補新装版）美術出版社、2002年 辻惟雄『日本美術の歴史』東京大学出版会、2005年 佐藤康宏『日本美術史』日本放送出版協会、2008年

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならないため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 造形意識の芽生え－縄文・弥生・古墳時代
- ・2章 仏教美術の幕開け－飛鳥時代
- ・3章 写実の萌芽－白鳳時代
- ・4章 写実の完成－奈良時代前期
- ・5章 写実の成熟－奈良時代後期から平安時代初期
- ・6章 曼荼羅の世界－密教の美術
- ・7章 和様化の過程－平安時代の仏像
- ・8章 院政期の仏画－善美を尽くす
- ・9章 鎌倉の写実－慶派の仏像
- ・10章 仏像の展開－中世から近世へ
- ・11章 古代の工芸－飛鳥時代から平安時代
- ・12章 寺院建築の歴史－日本建築 1
- ・13章 神社建築と住宅－日本建築 2

- ・ 14章 古代・中世の庭園－日本庭園 1
- ・ 15章 庭園様式と近世以降の庭園－日本庭園 2

WS	芸術史講義（日本）2 日本の造形芸術の近世および近代の絵画・工芸		科目コード： 41102
配当年次	1年次～		
単位数	2		
履修の前提条件	なし		
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴		
課題提出形態	airU		
開講期	夏期		
課題提出期間	08/21～08/28		
全体講評 視聴期間	09/13～09/20		
担当者	三上美和*、濱村繭衣子、川合加容子、大橋利光、金子典正		

科目概要と到達目標

日本の美術史を体系的に学びます。主に室町時代から江戸時代における芸術をとりあげ、彫刻、絵画、工芸の各領域にわたってその歴史の流れを把握し、また個々の作品についても制作された活動や歴史的背景について考察します。

芸術史講義（日本）2では、他のアジア地域の美術との関わりを視野に入れながら、平安時代から明治時代にいたる日本美術の造形表現の展開を学びます。

まず、平安時代から室町時代にかけての屏風と絵巻、さらに水墨表現の展開を見ていきます。こうした中世までの展開を確認したのち、桃山時代から江戸時代を経て明治時代にいたる時代に進みます。具体的には狩野派や円山派といった流派の展開、洋風画、文人画、浮世絵など江戸時代に特に特異な展開が見られた各ジャンルや、さらに陶磁器、漆芸、染織などの工芸についても学びます。

ここでは、日本での造形芸術活動の歴史的な流れを正しく把握するとともに、個別の作例について、その造形的特徴や制作の背景について理解することを目指します。最初は細かいことにはあまりとらわれず、まず、全体の大まかな流れを理解するように心がけてください。

評価基準と成績評価方法

- ・文章表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握
- ・受講生自身の見解の明示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。

復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキスト	栗本徳子編『日本の芸術史 造形篇Ⅱ 飾りと遊びの豊かなかたち』（芸術教養シリーズ2）、藝術学舎、2013年
参考文献・URL	辻惟雄監修『カラー版日本美術史』（増補新装版）美術出版社、2002年 辻惟雄『日本美術の歴史』東京大学出版会、2005年 佐藤康宏『日本美術史』日本放送出版協会、2008年

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならぬため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 唐絵とやまと絵－飛鳥時代から平安時代
- ・2章 神と仏と武士の美－鎌倉時代の美術
- ・3章 漢と和の世界－室町時代の絵画
- ・4章 狩野派の展開－中世から近世へ
- ・5章 天下人の美－桃山時代
- ・6章 琳派の創始 光悦・宗達－江戸時代前期
- ・7章 琳派の継承 光琳・抱一－江戸時代中期から後期
- ・8章 絵画における写生と奇想－中国 明清絵画の影響 1
- ・9章 文人へのあこがれ－中国 明清絵画の影響 2
- ・10章 円山四条派の写生画－江戸中期・後期の京都画壇
- ・11章 西洋へのまなざし－洋風画の展開
- ・12章 庶民芸術の開花－浮世絵の成立と展開
- ・13章 近世の染織－小袖の発展と染織の美
- ・14章 色絵の美－近世陶磁の展開
- ・15章 近代の胎動－幕末から明治時代前期まで

WS	芸術史講義（日本）2 日本の造形芸術の近世および近代の絵画・工芸	科目コード： 41102
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴	
課題提出形態	airU	
開講期	冬期	
課題提出期間	02/21～02/28	
全体講評 視聴期間	03/13～03/20	
担当者	三上美和*、濱村繭衣子、川合加容子、大橋利光、金子典正	

科目概要と到達目標

日本の美術史を体系的に学びます。主に室町時代から江戸時代における芸術をとりあげ、彫刻、絵画、工芸の各領域にわたってその歴史の流れを把握し、また個々の作品についても制作された活動や歴史的背景について考察します。

芸術史講義（日本）2では、他のアジア地域の美術との関わりを視野に入れながら、平安時代から明治時代にいたる日本美術の造形表現の展開を学びます。

まず、平安時代から室町時代にかけての屏風と絵巻、さらに水墨表現の展開を見ていきます。こうした中世までの展開を確認したのち、桃山時代から江戸時代を経て明治時代にいたる時代に進みます。具体的には狩野派や円山派といった流派の展開、洋風画、文人画、浮世絵など江戸時代に特に特異な展開が見られた各ジャンルや、さらに陶磁器、漆芸、染織などの工芸についても学びます。

ここでは、日本での造形芸術活動の歴史的な流れを正しく把握するとともに、個別の作例について、その造形的特徴や制作の背景について理解することを目指します。最初は細かいことにはあまりとらわれず、まず、全体の大まかな流れを理解するように心がけてください。

評価基準と成績評価方法

- ・文章表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握
- ・受講生自身の見解の明示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。
 復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキスト	栗本徳子編『日本の芸術史 造形篇Ⅱ 飾りと遊びの豊かなかたち』（芸術教養シリーズ2）、藝術学舎、2013年
参考文献・URL	辻惟雄監修『カラー版日本美術史』（増補新装版）美術出版社、2002年 辻惟雄『日本美術の歴史』東京大学出版会、2005年 佐藤康宏『日本美術史』日本放送出版協会、2008年

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならぬため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 唐絵とやまと絵－飛鳥時代から平安時代
- ・2章 神と仏と武士の美－鎌倉時代の美術
- ・3章 漢と和の世界－室町時代の絵画
- ・4章 狩野派の展開－中世から近世へ
- ・5章 天下人の美－桃山時代
- ・6章 琳派の創始 光悦・宗達－江戸時代前期
- ・7章 琳派の継承 光琳・抱一－江戸時代中期から後期
- ・8章 絵画における写生と奇想－中国 明清絵画の影響 1
- ・9章 文人へのあこがれ－中国 明清絵画の影響 2
- ・10章 円山四条派の写生画－江戸中期・後期の京都画壇
- ・11章 西洋へのまなざし－洋風画の展開
- ・12章 庶民芸術の開花－浮世絵の成立と展開
- ・13章 近世の染織－小袖の発展と染織の美
- ・14章 色絵の美－近世陶磁の展開
- ・15章 近代の胎動－幕末から明治時代前期まで

WS	芸術史講義（アジア）1 中国の古代から明清時代に至るまでの 芸術史	科目コード： 41103
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴	
課題提出形態	airU	
開講期	春期	
課題提出期間	05/21～05/28	
全体講評 視聴期間	06/13～06/20	
担当者	羅翠恂*、金子典正	

科目概要と到達目標

中国の造形芸術の流れを体系的に学びます。取りあげる時代の範囲は先史時代の紀元前6000年頃から清王朝の19世紀までです。

第1章から第7章は先史～唐時代として、最初期の土器の造形美から始まり、殷周時代の玉器や青銅器、また兵馬俑坑といった秦漢時代の墳墓美術、さらに絵画や書が芸術として成立した南北朝から唐王朝に至るまでの中国独自の美術の流れ、さらに仏教を受容して隆盛した敦煌石窟や龍門石窟といった仏教美術を取りあげます。

第8章から第14章は五代・宋～明・清時代として、山水画が確立して大きな発展を遂げた中国絵画の流れ、数多くの優れた作例が生み出された陶磁器について見ていきます。

そして最後の15章は、万里長城、故宮、西安市の大雁塔、蘇州の拙政園など、中国の有名な遺跡、建築、庭園を取りあげます。各章では当時の歴史的背景を述べるとともに、造形芸術の流れを具体的に詳しく見ていきます。

玉器や青銅器のような古代から育まれた中国独自の伝統美術、インドで発生した仏教を受容して繁栄をきわめた仏教美術、五代・宋時代から数々の名作が描かれた山水画の世界、陶磁器の造形美、建築、庭園など、中国美術のジャンルは多岐にわたります。

こうした古代から続く様々なジャンルの中国美術はいかにして成立し、そして展開して行ったのでしょうか。その長い歴史を学ぶことにより、アジアにおける中国の造形芸術の営みを体系的に把握することを目標とします。

また、日本美術との関係、アジア各地との関係性にも目を向けましょう。作品を歴史順に並べて単に覚えるのではなく、芸術を生み出した人々や社会、歴史的背景についても注目して、幅広い視点から中国美術の本質が理解できるようになってください。アジアの造形芸術の流れのなかで中国美術の理解を深化させることが目標です。

評価基準と成績評価方法

- ・文章表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握
- ・受講生自身の見解の明示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。
復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	金子典正編『アジアの芸術史 造形篇Ⅰ 中国の美術と工芸』（芸術教養シリーズ3）、藝術学舎、2013年
参考文献・URL	小杉一雄『中国美術史 日本美術の源流』南雲堂、1986年 『世界美術大全集東洋編 全17巻』小学館、1997～2000年 古田真一・山名伸生・木島史雄編『中国美術 見かた・考えかた』昭和堂、2003年 『新版中国美術全集 全60巻』人民美術出版社、2006年

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならないため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 中国美術の曙－新石器時代・殷時代
- ・2章 周王朝と地域性の展開－西周・春秋戦国時代
- ・3章 神仙世界の美術－秦・漢時代
- ・4章 芸術の成立－三国・南北朝時代
- ・5章 仏教美術の開花－後漢～南北朝時代

- ・ 6章 仏教美術の成熟－隋・唐時代
- ・ 7章 王朝美の精華－隋・唐時代
- ・ 8章 仏教美術の爛熟－五代・宋・元時代
- ・ 9章 山水画の確立－五代・北宋時代
- ・ 10章 院体画の成立と展開－南宋時代
- ・ 11章 中国陶磁器の精髓－宋時代
- ・ 12章 伝統への回帰と文人画家の台頭－元時代
- ・ 13章 浙派・呉派から多様化の時代へ－明・清時代
- ・ 14章 陶磁の彩と工芸の極致－明・清時代の工芸
- ・ 15章 中国の遺跡・建築・庭園

WS	芸術史講義（アジア）1 中国の古代から明清時代に至るまでの 芸術史	科目コード： 41103
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴	
課題提出形態	airU	
開講期	秋期	
課題提出期間	11/21～11/28	
全体講評 視聴期間	12/13～12/20	
担当者	羅翠恂*、金子典正	

科目概要と到達目標

中国の造形芸術の流れを体系的に学びます。取りあげる時代の範囲は先史時代の紀元前6000年頃から清王朝の19世紀までです。

第1章から第7章は先史～唐時代として、最初期の土器の造形美から始まり、殷周時代の玉器や青銅器、また兵馬俑坑といった秦漢時代の墳墓美術、さらに絵画や書が芸術として成立した南北朝から唐王朝に至るまでの中国独自の美術の流れ、さらに仏教を受容して隆盛した敦煌石窟や龍門石窟といった仏教美術を取りあげます。

第8章から第14章は五代・宋～明・清時代として、山水画が確立して大きな発展を遂げた中国絵画の流れ、数多くの優れた作例が生み出された陶磁器について見ていきます。

そして最後の15章は、万里長城、故宮、西安市の大雁塔、蘇州の拙政園など、中国の有名な遺跡、建築、庭園を取りあげます。各章では当時の歴史的背景を述べるとともに、造形芸術の流れを具体的に詳しく見ていきます。

玉器や青銅器のような古代から育まれた中国独自の伝統美術、インドで発生した仏教を受容して繁栄をきわめた仏教美術、五代・宋時代から数々の名作が描かれた山水画の世界、陶磁器の造形美、建築、庭園など、中国美術のジャンルは多岐にわたります。

こうした古代から続く様々なジャンルの中国美術はいかにして成立し、そして展開して行ったのでしょうか。その長い歴史を学ぶことにより、アジアにおける中国の造形芸術の営みを体系的に把握することを目標とします。

また、日本美術との関係、アジア各地との関係性にも目を向けましょう。作品を歴史順に並べて単に覚えるのではなく、芸術を生み出した人々や社会、歴史的背景についても注目して、幅広い視点から中国美術の本質が理解できるようになってください。アジアの造形芸術の流れのなかで中国美術の理解を深化させることが目標です。

評価基準と成績評価方法

- ・文章表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握
- ・受講生自身の見解の明示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。
復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	金子典正編『アジアの芸術史 造形篇Ⅰ 中国の美術と工芸』（芸術教養シリーズ3）、藝術学舎、2013年
参考文献・URL	小杉一雄『中国美術史 日本美術の源流』南雲堂、1986年 『世界美術大全集東洋編 全17巻』小学館、1997～2000年 古田真一・山名伸生・木島史雄編『中国美術 見かた・考えかた』昭和堂、2003年 『新版中国美術全集 全60巻』人民美術出版社、2006年

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならぬため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 中国美術の曙－新石器時代・殷時代
- ・2章 周王朝と地域性の展開－西周・春秋戦国時代
- ・3章 神仙世界の美術－秦・漢時代
- ・4章 芸術の成立－三国・南北朝時代
- ・5章 仏教美術の開花－後漢～南北朝時代

- ・ 6章 仏教美術の成熟－隋・唐時代
- ・ 7章 王朝美の精華－隋・唐時代
- ・ 8章 仏教美術の爛熟－五代・宋・元時代
- ・ 9章 山水画の確立－五代・北宋時代
- ・ 10章 院体画の成立と展開－南宋時代
- ・ 11章 中国陶磁器の精髓－宋時代
- ・ 12章 伝統への回帰と文人画家の台頭－元時代
- ・ 13章 浙派・呉派から多様化の時代へ－明・清時代
- ・ 14章 陶磁の彩と工芸の極致－明・清時代の工芸
- ・ 15章 中国の遺跡・建築・庭園

WS	芸術史講義（アジア）2 朝鮮半島、西アジア、中央アジア、インドなどアジア各地の芸術史		科目コード： 41104
配当年次	1年次～		
単位数	2		
履修の前提条件	なし		
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴		
課題提出形態	airU		
開講期	夏期		
課題提出期間	08/21～08/28		
全体講評 視聴期間	09/13～09/20		
担当者	金子典正*、神田惟		

科目概要と到達目標

朝鮮半島、西アジア、中央アジア、インド、東南アジアなど、アジア各地の芸術史を幅広く体系的に学びます。

第1章から第5章は朝鮮半島を取りあげて、古墳時代から朝鮮時代までの芸術について学びます。

第6章と第7章は西アジア各地の先史時代の芸術からはじめて、イスラームの芸術についても見ていきます。

第8章から第10章は中央アジアと西域で栄えた遊牧民族の美術や仏教美術を中心に取りあげます。

第11章から第14章はインドの先史時代からはじめ、アジア各地の仏教美術の源流となったインドの仏教美術の流れを取りあげ、さらに中世から近世までの芸術の歴史を詳しく見ていきます。

そして最後の15章は東南アジアを中心に取りあげます。各章では各地域・時代の歴史的背景を述べるとともに、著名な彫刻、絵画、工芸、建築、遺跡などを取りあげて、それぞれの地域の造形芸術の流れを具体的に詳しく見ていきます。

この授業で取りあげるアジア各地の造形芸術は、長い歴史を振り返れば明らかなように、それぞれの地域もしくは国内で純粹に成立したものではありません。

各時代の国際関係や交易にともなう文化の伝播や交流の歴史があり、それぞれが互いに影響し合っ各地域の芸術が成立した経緯があります。それらを正確に理解することがこの授業の目標です。

また、単に各地の作品を歴史順に並べて単に覚えるのではなく、それらの芸術を生み出した人々や社会、歴史的背景についても注目して、幅広い視点からアジアの芸術史の本質を理解するようにしましょう。

さらに、日本美術との関係にも目を向けながら各地域の芸術の流れを考察することも大切です。

評価基準と成績評価方法

- ・文章表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握
- ・受講生自身の見解の明示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。
復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	金子典正編『アジアの芸術史 造形篇Ⅱ 朝鮮半島・西アジア・中央アジア・インド』（芸術教養シリーズ4）、藝術学舎、2013年
参考文献・URL	『世界美術大全集東洋編 全17巻』小学館、1997～2000年 鄭于澤、並木誠士『韓国の美術・日本の美術』昭和堂、2002年 ヴィディヤ・デヘージア、宮治昭・平岡 三保子訳『岩波世界の美術インド美術』岩波書店、2002年 榊屋友子『すぐわかるイスラームの美術』東京美術、2009年

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならないため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 三国時代の墳墓美術－韓国古代美術の成立と展開
- ・2章 三国時代の仏教美術－仏教の伝来と古代美術の開花
- ・3章 統一新羅時代の美術－韓国古典美術の完成と地方への広がり
- ・4章 高麗時代の美術－華やかな王朝文化と浄土信仰の美術
- ・5章 朝鮮時代の美術－士大夫の文化とその理想

- ・6章 西アジアの美術－先史～ササン朝ペルシア
- ・7章 イスラームの美術－ウマイヤ朝～サファヴィー朝
- ・8章 中央アジアの美術－先史～クシャーナ朝
- ・9章 ガンダーラの仏教美術－仏像の成立と展開
- ・10章 西域美術－シルクロードの美術と仏教遺跡
- ・11章 インド美術の幕開け－インダス文明～仏教美術の成立
- ・12章 古代インドの美術Ⅰ－クシャーナ朝～グプタ朝時代の北インド
- ・13章 古代インドの美術Ⅱ－南～西インドでの展開
- ・14章 中世～近世インドの美術－ヒンドゥー教美術とイスラーム教美術の隆盛
- ・15章 スリランカ・東南アジアの美術－仏教・ヒンドゥー教美術の伝播

WS	芸術史講義（アジア）2 朝鮮半島、西アジア、中央アジア、インドなどアジア各地の芸術史		科目コード： 41104
配当年次	1年次～		
単位数	2		
履修の前提条件	なし		
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴		
課題提出形態	airU		
開講期	冬期		
課題提出期間	02/21～02/28		
全体講評 視聴期間	03/13～03/20		
担当者	金子典正*、神田惟		

科目概要と到達目標

朝鮮半島、西アジア、中央アジア、インド、東南アジアなど、アジア各地の芸術史を幅広く体系的に学びます。

第1章から第5章は朝鮮半島を取りあげて、古墳時代から朝鮮時代までの芸術について学びます。

第6章と第7章は西アジア各地の先史時代の芸術からはじめて、イスラームの芸術についても見ていきます。

第8章から第10章は中央アジアと西域で栄えた遊牧民族の美術や仏教美術を中心に取りあげます。

第11章から第14章はインドの先史時代からはじめ、アジア各地の仏教美術の源流となったインドの仏教美術の流れを取りあげ、さらに中世から近世までの芸術の歴史を詳しく見ていきます。

そして最後の15章は東南アジアを中心に取りあげます。各章では各地域・時代の歴史的背景を述べるとともに、著名な彫刻、絵画、工芸、建築、遺跡などを取りあげて、それぞれの地域の造形芸術の流れを具体的に詳しく見ていきます。

この授業で取りあげるアジア各地の造形芸術は、長い歴史を振り返れば明らかなように、それぞれの地域もしくは国内で純粹に成立したものではありません。

各時代の国際関係や交易にともなう文化の伝播や交流の歴史があり、それぞれが互いに影響し合っ各地域の芸術が成立した経緯があります。それらを正確に理解することがこの授業の目標です。

また、単に各地の作品を歴史順に並べて単に覚えるのではなく、それらの芸術を生み出した人々や社会、歴史的背景についても注目して、幅広い視点からアジアの芸術史の本質を理解するようにしましょう。

さらに、日本美術との関係にも目を向けながら各地域の芸術の流れを考察することも大切です。

評価基準と成績評価方法

- ・文章表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握
- ・受講生自身の見解の明示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。
復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	金子典正編『アジアの芸術史 造形篇Ⅱ 朝鮮半島・西アジア・中央アジア・インド』（芸術教養シリーズ4）、藝術学舎、2013年
参考文献・URL	『世界美術大全集東洋編 全17巻』小学館、1997～2000年 鄭于澤、並木誠士『韓国の美術・日本の美術』昭和堂、2002年 ヴィディヤ・デヘージア、宮治昭・平岡 三保子訳『岩波世界の美術インド美術』岩波書店、2002年 榊屋友子『すぐわかるイスラームの美術』東京美術、2009年

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならぬため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 三国時代の墳墓美術－韓国古代美術の成立と展開
- ・2章 三国時代の仏教美術－仏教の伝来と古代美術の開花
- ・3章 統一新羅時代の美術－韓国古典美術の完成と地方への広がり
- ・4章 高麗時代の美術－華やかな王朝文化と浄土信仰の美術
- ・5章 朝鮮時代の美術－士大夫の文化とその理想

- ・6章 西アジアの美術－先史～ササン朝ペルシア
- ・7章 イスラームの美術－ウマイヤ朝～サファヴィー朝
- ・8章 中央アジアの美術－先史～クシャーナ朝
- ・9章 ガンダーラの仏教美術－仏像の成立と展開
- ・10章 西域美術－シルクロードの美術と仏教遺跡
- ・11章 インド美術の幕開け－インダス文明～仏教美術の成立
- ・12章 古代インドの美術Ⅰ－クシャーナ朝～グプタ朝時代の北インド
- ・13章 古代インドの美術Ⅱ－南～西インドでの展開
- ・14章 中世～近世インドの美術－ヒンドゥー教美術とイスラーム教美術の隆盛
- ・15章 スリランカ・東南アジアの美術－仏教・ヒンドゥー教美術の伝播

WS	芸術史講義（ヨーロッパ）1 ヨーロッパの造形芸術の成立から盛期ルネサンスまでの展開	科目コード： 41105
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴	
課題提出形態	airU	
開講期	春期	
課題提出期間	05/21～05/28	
全体講評 視聴期間	06/13～06/20	
担当者	加藤志織*、秦明子、衣笠弥生	

科目概要と到達目標

ヨーロッパ文明の源である、古代エーゲ海文明から、古代ギリシアおよび古代ローマの芸術、そして初期キリスト教時代を経てビザンティン、ロマネスク、ゴシック、ルネサンスへと続く西洋の芸術の道程を、講義映像と映像資料そしてWEBテキストを用いて概観します。さらに各地域、各時代の芸術作品にみられる様式の比較を行い、その変遷を通史のなかに跡づける作業をおこないます。

まずヨーロッパ芸術の誕生からイタリアの盛期ルネサンスまでの大きな流れを通史として把握していただきます。具体的には、ヨーロッパの造形芸術の土台が、古代エーゲ海文明、さらには古代ギリシアやローマ文明を基に形成されていく過程を理解します。つぎにその土台から、キリスト教芸術が展開していく様子を、当時の社会的・文化的・地理的条件を考慮しながら見ていきましょう。

こうした芸術史の流れと共に、各地域・各時代に生じた芸術動向を典型的に示した作品にかんする基本的な情報を学んでいただき、作品を様式的に捉える能力を身につけていただきます。このように作品を見る力を養うことによって、個々の作品をヨーロッパ芸術史に正しく位置づけられるようになります。また学問としての美術史が過去の作品を分析してきたさまざまな方法論にも目を向けてもらいます。くわえて、それら方法論の功罪について考察する能力を培ってください。

評価基準と成績評価方法

- ・文章表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握
- ・受講生自身の見解の明示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。

復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	水野千依編『西洋の芸術史 造形篇Ⅰ 古代から初期ルネサンスまで』（芸術教養シリーズ5）、藝術学舎、2013年
参考文献・URL	高階秀爾監修『カラー版 西洋美術史』美術出版社、1990年 高階秀爾・三浦篤（編）『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997年 グザヴィエ・バラル・イ・アルテ著、吉岡健二郎・上村博（訳）『美術史入門』白水社、1999年 千足伸行監修『新西洋美術史』西村書店、1999年 田中英道監修『西洋美術への招待』東北大学出版会、2002年 『世界美術大全集 西洋編』（全29巻）小学館、1992～97年

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならないため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 エーゲ海文明とギリシア美術の誕生ー古代地中海文明の形成
- ・2章 ギリシア美術の黄金期ークラシック時代
- ・3章 ヘレニズム美術と古代イタリア美術ーギリシア文化の終焉とエトルリア美術
- ・4章 古代ローマ美術ー古代の成熟と終焉
- ・5章 初期キリスト教美術ー葬礼美術から地上の聖堂装飾へ
- ・6章 前期ビザンティン美術ー皇帝ユスティニアヌス一世の黄金時代
- ・7章 中期・後期ビザンティン美術ー円熟から帝国滅亡へ
- ・8章 初期中世美術ー西欧社会のあけぼの
- ・9章 初期ロマネスク美術ー紀元1000年前後からロマネスク美術の誕生へ

- ・10章 ロマネスク美術の展開－西ヨーロッパ全体に開花した美術の諸相
- ・11章 ゴシック美術－大聖堂の時代
- ・12章 イタリア美術の芽生え－ゴシックからルネサンスの黎明へ
- ・13章 中世末期の美術－国際ゴシック様式
- ・14章 初期イタリア・ルネサンス美術－古代復興と芸術革新
- ・15章 イタリア・ルネサンス美術の展開－フィレンツェの黄金時代からローマの盛期ルネサンスへ

WS	芸術史講義（ヨーロッパ）1 ヨーロッパの造形芸術の成立から盛期ルネサンスまでの展開	科目コード： 41105
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴	
課題提出形態	airU	
開講期	秋期	
課題提出期間	11/21～11/28	
全体講評 視聴期間	12/13～12/20	
担当者	加藤志織*、秦明子、衣笠弥生	

科目概要と到達目標

ヨーロッパ文明の源である、古代エーゲ海文明から、古代ギリシアおよび古代ローマの芸術、そして初期キリスト教時代を経てビザンティン、ロマネスク、ゴシック、ルネサンスへと続く西洋の芸術の道程を、講義映像と映像資料そしてWEBテキストを用いて概観します。さらに各地域、各時代の芸術作品にみられる様式の比較を行い、その変遷を通史のなかに跡づける作業をおこないます。

まずヨーロッパ芸術の誕生からイタリアの盛期ルネサンスまでの大きな流れを通史として把握していただきます。具体的には、ヨーロッパの造形芸術の土台が、古代エーゲ海文明、さらには古代ギリシアやローマ文明を基に形成されていく過程を理解します。つぎにその土台から、キリスト教芸術が展開していく様子を、当時の社会的・文化的・地理的条件を考慮しながら見ていきましょう。

こうした芸術史の流れと共に、各地域・各時代に生じた芸術動向を典型的に示した作品にかんする基本的な情報を学んでいただき、作品を様式的に捉える能力を身につけていただきます。このように作品を見る力を養うことによって、個々の作品をヨーロッパ芸術史に正しく位置づけられるようになります。また学問としての美術史が過去の作品を分析してきたさまざまな方法論にも目を向けてもらいます。くわえて、それら方法論の功罪について考察する能力を培ってください。

評価基準と成績評価方法

- ・文章表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握
- ・受講生自身の見解の明示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。

復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	水野千依編『西洋の芸術史 造形篇Ⅰ 古代から初期ルネサンスまで』（芸術教養シリーズ5）、藝術学舎、2013年
参考文献・URL	高階秀爾監修『カラー版 西洋美術史』美術出版社、1990年 高階秀爾・三浦篤（編）『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997年 グザヴィエ・バラル・イ・アルテ著、吉岡健二郎・上村博（訳）『美術史入門』白水社、1999年 千足伸行監修『新西洋美術史』西村書店、1999年 田中英道監修『西洋美術への招待』東北大学出版会、2002年 『世界美術大全集 西洋編』（全29巻）小学館、1992～97年

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならないため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 エーゲ海文明とギリシア美術の誕生ー古代地中海文明の形成
- ・2章 ギリシア美術の黄金期ークラシック時代
- ・3章 ヘレニズム美術と古代イタリア美術ーギリシア文化の終焉とエトルリア美術
- ・4章 古代ローマ美術ー古代の成熟と終焉
- ・5章 初期キリスト教美術ー葬礼美術から地上の聖堂装飾へ
- ・6章 前期ビザンティン美術ー皇帝ユスティニアヌス一世の黄金時代
- ・7章 中期・後期ビザンティン美術ー円熟から帝国滅亡へ
- ・8章 初期中世美術ー西欧社会のあけぼの
- ・9章 初期ロマネスク美術ー紀元1000年前後からロマネスク美術の誕生へ

- ・ 10章 ロマネスク美術の展開－西ヨーロッパ全体に開花した美術の諸相
- ・ 11章 ゴシック美術－大聖堂の時代
- ・ 12章 イタリア美術の芽生え－ゴシックからルネサンスの黎明へ
- ・ 13章 中世末期の美術－国際ゴシック様式
- ・ 14章 初期イタリア・ルネサンス美術－古代復興と芸術革新
- ・ 15章 イタリア・ルネサンス美術の展開－フィレンツェの黄金時代からローマの盛期ルネサンスへ

WS	芸術史講義（ヨーロッパ）2 盛期ルネサンスから20世紀はじめまでの 造形芸術の歴史	科目コード： 41106
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴	
課題提出形態	airU	
開講期	夏期	
課題提出期間	08/21～08/28	
全体講評 視聴期間	09/13～09/20	
担当者	加藤志織*、衣笠弥生、秦明子	

科目概要と到達目標

盛期イタリア・ルネサンスのミケランジェロの芸術から、ヴェネツィア派の美術、15・16世紀のネーデルラントとドイツの芸術、さらにマニエリスム、バロック、ロココ、フランスの新古典主義、ロマン主義とレアリズム、印象派、これらそれぞれの芸術の関係性と特徴について解説をおこないます。

まず、各時代・各地域を象徴する作品の様式や制作技法などの基礎的な知識を学びます。つぎにそうした芸術作品にみられる様式の比較をおこなうことによって、その変遷を通史のなかに跡付けます。そして個々の芸術作品が生み出された背景を当時の芸術的な動向や政治、経済、宗教、あるいは諸地域間の交流といったさまざまな社会・文化的な状況から多層的に考察する力を身につけます。

イタリア盛期ルネサンス芸術を完成に導いたとされるミケランジェロから、ポスト印象派の芸術までを通史として把握していただきます。イタリアを中心にさまざまな地域で生起し、その後、多様な展開を遂げた数多くの作品の基礎的な知識を身につけると同時に、各時代、各地域の作品を比較して、それらの様式的な特徴についても理解してください。

この講義で扱う約500年間にはたくさんの芸術論が誕生しました。これらが、芸術作品を制作する場合だけではなく、作品を評価する際にも大きな影響を与えたことを学習しましょう。また学問としての美術史がこの間に制作された作品をどのように分析してきたのか見てみましょう。こうして美術史のさまざまな方法論を検証することによって、その功罪についても学んでいただきます。

評価基準と成績評価方法

- ・文章表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握
- ・受講生自身の見解の明示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。
復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	水野千依編『西洋の芸術史 造形篇Ⅱ 盛期ルネサンスから十九世紀末まで』（芸術教養シリーズ6）、藝術学舎、2013年
参考文献・URL	高階秀爾監修『カラー版 西洋美術史』美術出版社、1990年 高階秀爾・三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997年 グザヴィエ・バラル・イ・アルテ著、吉岡健二郎・上村博訳『美術史入門』白水社、1999年 千足伸行監修『新西洋美術史』西村書店、1999年 田中英道監修『西洋美術への招待』東北大学出版会、2002年 『世界美術大全集 西洋編』（全29巻）小学館、1992～97年

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならぬため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 盛期イタリア・ルネサンス美術－ミケランジェロの芸術
- ・2章 ヴェネツィア美術－油彩画技法のあらたなる展開
- ・3章 北方ルネサンス美術 I－ネーデルラントの写実
- ・4章 北方ルネサンス美術 II－ドイツ美術の萌芽と展開
- ・5章 マニエリスム美術－古典的理想美からの逸脱

- ・6章 イタリアの初期バロック美術ーカラッチ一族とカラヴァッジョの革新
- ・7章 イタリアの盛期バロック美術ーカトリックの首都ローマにおける総合芸術
- ・8章 スペインと中南米のバロック美術ーリアリズムと幻想空間
- ・9章 17世紀フランスの美術ー絶対王政下でのバロックと古典主義
- ・10章 フランドル、オランダのバロック美術ー新しい絵画ジャンルの隆盛
- ・11章 ロココ美術ー感覚のよろこびの目覚め
- ・12章 革命期および新古典主義の美術ー理性と理想の時代
- ・13章 ロマン主義からレアリスムへー新たな主題を求めて
- ・14章 印象派とその周辺ー近代芸術の幕あけ
- ・15章 ポスト印象派から世紀末へー印象主義の遺産とその超克

WS	芸術史講義（ヨーロッパ）2 盛期ルネサンスから20世紀はじめまでの 造形芸術の歴史	科目コード： 41106
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴	
課題提出形態	airU	
開講期	冬期	
課題提出期間	02/21～02/28	
全体講評 視聴期間	03/13～03/20	
担当者	加藤志織*、衣笠弥生、秦明子	

科目概要と到達目標

盛期イタリア・ルネサンスのミケランジェロの芸術から、ヴェネツィア派の美術、15・16世紀のネーデルラントとドイツの芸術、さらにマニエリスム、バロック、ロココ、フランスの新古典主義、ロマン主義とレアリスム、印象派、これらそれぞれの芸術の関係性と特徴について解説をおこないます。

まず、各時代・各地域を象徴する作品の様式や制作技法などの基礎的な知識を学びます。つぎにそうした芸術作品にみられる様式の比較をおこなうことによって、その変遷を通史のなかに跡付けます。そして個々の芸術作品が生み出された背景を当時の芸術的な動向や政治、経済、宗教、あるいは諸地域間の交流といったさまざまな社会・文化的な状況から多層的に考察する力を身につけます。

イタリア盛期ルネサンス芸術を完成に導いたとされるミケランジェロから、ポスト印象派の芸術までを通史として把握していただきます。イタリアを中心にさまざまな地域で生起し、その後、多様な展開を遂げた数多くの作品の基礎的な知識を身につけると同時に、各時代、各地域の作品を比較して、それらの様式的な特徴についても理解してください。

この講義で扱う約500年間にはたくさんの芸術論が誕生しました。これらが、芸術作品を制作する場合だけではなく、作品を評価する際にも大きな影響を与えたことを学習しましょう。また学問としての美術史がこの間に制作された作品をどのように分析してきたのか見てみましょう。こうして美術史のさまざまな方法論を検証することによって、その功罪についても学んでいただきます。

評価基準と成績評価方法

- ・文章表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握
- ・受講生自身の見解の明示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。
復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	水野千依編『西洋の芸術史 造形篇Ⅱ 盛期ルネサンスから十九世紀末まで』（芸術教養シリーズ6）、藝術学舎、2013年
参考文献・URL	高階秀爾監修『カラー版 西洋美術史』美術出版社、1990年 高階秀爾・三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997年 グザヴィエ・バラル・イ・アルテ著、吉岡健二郎・上村博訳『美術史入門』白水社、1999年 千足伸行監修『新西洋美術史』西村書店、1999年 田中英道監修『西洋美術への招待』東北大学出版会、2002年 『世界美術大全集 西洋編』（全29巻）小学館、1992～97年

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならぬため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 盛期イタリア・ルネサンス美術－ミケランジェロの芸術
- ・2章 ヴェネツィア美術－油彩画技法のあらたなる展開
- ・3章 北方ルネサンス美術 I－ネーデルラントの写実
- ・4章 北方ルネサンス美術 II－ドイツ美術の萌芽と展開
- ・5章 マニエリスム美術－古典的理想美からの逸脱

- ・6章 イタリアの初期バロック美術ーカラッチ一族とカラヴァッジョの革新
- ・7章 イタリアの盛期バロック美術ーカトリックの首都ローマにおける総合芸術
- ・8章 スペインと中南米のバロック美術ーリアリズムと幻想空間
- ・9章 17世紀フランスの美術ー絶対王政下でのバロックと古典主義
- ・10章 フランドル、オランダのバロック美術ー新しい絵画ジャンルの隆盛
- ・11章 ロココ美術ー感覚のよろこびの目覚め
- ・12章 革命期および新古典主義の美術ー理性と理想の時代
- ・13章 ロマン主義からレアリスムへー新たな主題を求めて
- ・14章 印象派とその周辺ー近代芸術の幕あけ
- ・15章 ポスト印象派から世紀末へー印象主義の遺産とその超克

WS	芸術史講義（近現代）1 20世紀初頭から21世紀まで、特に欧米での造形芸術の流れ	科目コード： 41107
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴	
課題提出形態	airU	
開講期	春期	
課題提出期間	05/21～05/28	
全体講評 視聴期間	06/13～06/20	
担当者	高橋千晶*、唄邦弘、大崎智史、加藤志織	

科目概要と到達目標

20世紀初頭から今日まで、おもに西洋で生じた様々な芸術動向に関する基礎的な知識を学ぶと共に、目まぐるしく変わる近現代の芸術作品、その様式の多様性についても紹介します。絵画・彫刻・建築といった既成のジャンルを横断するような作品の出現、あるいは新たなジャンルの誕生など、様式やジャンルの多様性が生み出された背景についても解説します。

とりあげるのは、フォーヴィスム、表現主義から、キュビズムと未来派、抽象絵画、ダダ、シュルレアリスム、抽象表現主義、アンフォルメル、ネオ・ダダ、ポップ・アート、ランド・アート、そして今日活躍しているジェームズ・タレルやジェフ・クーンズなどの作品です。

この授業の目標は、

- ①20世紀初頭から現在までの芸術動向の歴史的展開を理解すること
 - ②代表的な作家や作品を通して、各時代の芸術運動の理論的基盤と表現手法の特徴を理解すること
 - ③受講生一人一人が近現代の芸術表現をめぐる諸問題について自分の考えを深めていくこと
- の3点です。

まずは近現代美術の基本的な情報を押さえることによって、近現代の芸術活動をより身近な存在としてとらえ直し、近現代美術に触れるきっかけを掴んでもらうことが本講義の最大の狙いです。この講義を通して受講生の皆さんがさまざまな刺激を受け、芸術の見方や考え方を広げ、芸術に対する新しい視点を獲得していかれることを願っています。

評価基準と成績評価方法

- ・文章表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握
- ・受講生自身の見解の明示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。
復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	林洋子編『近現代の芸術史 造形篇Ⅰ 欧米のモダニズムとその後の運動』（芸術教養シリーズ7）、藝術学舎、2013年
参考文献・URL	末永照和監修『20世紀の美術』美術出版社、2000年 H・H・アースナン、上田高弘他訳『現代美術の歴史』美術出版社、1995年 ロバート・アトキンズ『近代美術のキーワード』美術出版社、1995年 ロバート・アトキンズ『現代美術のキーワード』美術出版社、1995年 暮沢剛巳編『現代美術を知るクリティカル・ワーズ』フィルムアート社、2002年 松井みどり『アート：“芸術”が終わった後の“アート”』朝日出版社、2002年

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならないため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 「表現」への衝動ーフォーヴィスム、表現主義、プリミティヴィスム
- ・2章 空間と時間の拡張ーキュビズムと未来派
- ・3章 本質をめざしてー抽象絵画の始まり
- ・4章 反逆の芸術ーダダとシュルレアリスム
- ・5章 戦争・革命・芸術ー両大戦間期と第二次大戦下のヨーロッパ
- ・6章 20世紀前半の彫刻ー公共空間のモニュメントからアトリエ内の実験へ

- ・7章 パリからニューヨークへーアメリカ美術の胎動
- ・8章 戦後の抽象ー抽象表現主義と現代絵画の系譜
- ・9章 ネオ・ダダからポップ・アートへー芸術と生活の架橋
- ・10章 ミニマリズムとポスト・ミニマリズムー現代芸術の極点
- ・11章 コンセプチュアル・アートとランド・アートー拡張する芸術表現
- ・12章 世紀末の都市ー性・人種・機械
- ・13章 イメージの氾濫ー写真・映像を通過する芸術表現
- ・14章 20世紀後半の彫刻ー形式の多様化と人間像の再生
- ・15章 グローバル化するアートー地域・市場・国際展

WS	芸術史講義（近現代）1 20世紀初頭から21世紀まで、特に欧米での造形芸術の流れ	科目コード： 41107
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴	
課題提出形態	airU	
開講期	秋期	
課題提出期間	11/21～11/28	
全体講評 視聴期間	12/13～12/20	
担当者	高橋千晶*、 唄邦弘、大崎智史、加藤志織	

科目概要と到達目標

20世紀初頭から今日まで、おもに西洋で生じた様々な芸術動向に関する基礎的な知識を学ぶと共に、目まぐるしく変わる近現代の芸術作品、その様式の多様性についても紹介します。絵画・彫刻・建築といった既成のジャンルを横断するような作品の出現、あるいは新たなジャンルの誕生など、様式やジャンルの多様性が生み出された背景についても解説します。

とりあげるのは、フォーヴィスム、表現主義から、キュビズムと未来派、抽象絵画、ダダ、シュルレアリスム、抽象表現主義、アンフォルメル、ネオ・ダダ、ポップ・アート、ランド・アート、そして今日活躍しているジェームズ・タレルやジェフ・クーンズなどの作品です。

この授業の目標は、

- ①20世紀初頭から現在までの芸術動向の歴史的展開を理解すること
 - ②代表的な作家や作品を通して、各時代の芸術運動の理論的基盤と表現手法の特徴を理解すること
 - ③受講生一人一人が近現代の芸術表現をめぐる諸問題について自分の考えを深めていくこと
- の3点です。

まずは近現代美術の基本的な情報を押さえることによって、近現代の芸術活動をより身近な存在としてとらえ直し、近現代美術に触れるきっかけを掴んでもらうことが本講義の最大の狙いです。この講義を通して受講生の皆さんがさまざまな刺激を受け、芸術の見方や考え方を広げ、芸術に対する新しい視点を獲得していかれることを願っています。

評価基準と成績評価方法

- ・文章表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握
- ・受講生自身の見解の明示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。
復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	林洋子編『近現代の芸術史 造形篇Ⅰ 欧米のモダニズムとその後の運動』（芸術教養シリーズ7）、芸術学舎、2013年
参考文献・URL	末永照和監修『20世紀の美術』美術出版社、2000年 H・H・アースナン、上田高弘他訳『現代美術の歴史』美術出版社、1995年 ロバート・アトキンズ『近代美術のキーワード』美術出版社、1995年 ロバート・アトキンズ『現代美術のキーワード』美術出版社、1995年 暮沢剛巳編『現代美術を知るクリティカル・ワーズ』フィルムアート社、2002年 松井みどり『アート：“芸術”が終わった後の“アート”』朝日出版社、2002年

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならないため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 「表現」への衝動ーフォーヴィスム、表現主義、プリミティヴィスム
- ・2章 空間と時間の拡張ーキュビズムと未来派
- ・3章 本質をめざしてー抽象絵画の始まり
- ・4章 反逆の芸術ーダダとシュルレアリスム
- ・5章 戦争・革命・芸術ー両大戦間期と第二次大戦下のヨーロッパ
- ・6章 20世紀前半の彫刻ー公共空間のモニュメントからアトリエ内の実験へ

- ・7章 パリからニューヨークへーアメリカ美術の胎動
- ・8章 戦後の抽象ー抽象表現主義と現代絵画の系譜
- ・9章 ネオ・ダダからポップ・アートへー芸術と生活の架橋
- ・10章 ミニマリズムとポスト・ミニマリズムー現代芸術の極点
- ・11章 コンセプチュアル・アートとランド・アートー拡張する芸術表現
- ・12章 世紀末の都市ー性・人種・機械
- ・13章 イメージの氾濫ー写真・映像を通過する芸術表現
- ・14章 20世紀後半の彫刻ー形式の多様化と人間像の再生
- ・15章 グローバル化するアートー地域・市場・国際展

WS	芸術史講義（近現代）2 アジアやアフリカなどの動向や建築、写真、ファッションなどの歴史		科目コード： 41108
配当年次	1年次～		
単位数	2		
履修の前提条件	なし		
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴		
課題提出形態	airU		
開講期	夏期		
課題提出期間	08/21～08/28		
全体講評 視聴期間	09/13～09/20		
担当者	高橋千晶*、唄邦弘、大崎智史、加藤志織		

科目概要と到達目標

非西洋世界、おもに日本の明治後期以後の芸術を中心とし、現代の中国および韓国、あるいはアフリカで誕生した近現代芸術にくわえて、写真、工芸、ファッション、女性作家といった今日的な項目を設定して、多様な芸術作品と作家についての基礎的な情報を学びます。

非西洋世界の芸術が、社会の近代化によってどのような影響を受け、いかに変化し展開していったのかを、欧米の近代美術との関係を踏まえつつ検討することによって、モダニズム芸術の本質あるいはそれが抱える問題について考察します。

本講義の目標は、次の3点です。

- ①日本における近現代美術の動向とともに中国と韓国の美術の展開、さらにはアフリカ・オセアニアの美術の動きまで、芸術表現のグローバルな広がりを理解すること。
- ②従来の西洋中心主義的な美術史だけではなく、多様な地域の表現活動に目を向けることで、そこから派生する今日的な問題意識をはぐくんでいくこと。
- ③絵画や彫刻などのいわゆる「高級芸術」だけではなく、写真やデザインなど私たちにとって身近な視覚文化の領域に目を向けることによって、20世紀における芸術文化の変貌や拡張をより多面的に理解していくこと。

こうした情報をきっかけに皆さん一人一人が、芸術の語り方や表現の可能性を切り開いていってください。

評価基準と成績評価方法

- ・文章表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握
- ・受講生自身の見解の明示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。
復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	林洋子編『近現代の芸術史 造形篇Ⅱアジア・アフリカと新しい潮流』（芸術教養シリーズ8）、藝術学舎、2013年
参考文献・URL	中村興二・岸文和編『日本美術を学ぶ人のために』世界思想社、2001年 飯沢耕太郎監修『カラー版：世界写真史』美術出版社、2004年 ジル・モラ、前川修他訳『写真のキーワード：技術・表現・歴史』昭和堂、2001年 ジョン・A・ウォーカー、サラ・チャップリン、岸文和他訳『ヴィジュアル・カルチャー入門：美術史を超えるための方法論』晃洋書房、2001年 深井晃子監修『世界服飾史』美術出版社、1998年 成実弘至編『モードと身体——ファッション文化の歴史と現在』角川書店、2003年 グリゼルダ・ポロック、萩原弘子訳『視線と差異：フェミニズムで読む美術史』新水社、1998年

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならないため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 日本 1－明治後期から大正前期まで
- ・2章 日本 2－大正後期から戦時下まで
- ・3章 日本 3－復興期の美術

- ・4章 日本 4－激動期の美術
- ・5章 日本 5－消費社会の美術
- ・6章 日本 6－冷戦終結後の美術
- ・7章 中国－激動の時代と共に生きる芸術家たち
- ・8章 韓国－近現代美術の流れ
- ・9章 非西洋の美術－多文化共生の時代
- ・10章 写真
- ・11章 工芸
- ・12章 建築
- ・13章 デザイン
- ・14章 ファッション
- ・15章 女性美術家

WS	芸術史講義（近現代）2 アジアやアフリカなどの動向や建築、写真、ファッションなどの歴史		科目コード： 41108
配当年次	1年次～		
単位数	2		
履修の前提条件	なし		
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴		
課題提出形態	airU		
開講期	冬期		
課題提出期間	02/21～02/28		
全体講評 視聴期間	03/13～03/20		
担当者	高橋千晶*、唄邦弘、大崎智史、加藤志織		

科目概要と到達目標

非西洋世界、おもに日本の明治後期以後の芸術を中心とし、現代の中国および韓国、あるいはアフリカで誕生した近現代芸術にくわえて、写真、工芸、ファッション、女性作家といった今日的な項目を設定して、多様な芸術作品と作家についての基礎的な情報を学びます。

非西洋世界の芸術が、社会の近代化によってどのような影響を受け、いかに変化し展開していったのかを、欧米の近代美術との関係を踏まえつつ検討することによって、モダニズム芸術の本質あるいはそれが抱える問題について考察します。

本講義の目標は、次の3点です。

- ①日本における近現代美術の動向とともに中国と韓国の美術の展開、さらにはアフリカ・オセアニアの美術の動きまで、芸術表現のグローバルな広がりを理解すること。
- ②従来の西洋中心主義的な美術史だけではなく、多様な地域の表現活動に目を向けることで、そこから派生する今日的な問題意識をはぐくんでいくこと。
- ③絵画や彫刻などのいわゆる「高級芸術」だけではなく、写真やデザインなど私たちにとって身近な視覚文化の領域に目を向けることによって、20世紀における芸術文化の変貌や拡張をより多面的に理解していくこと。

こうした情報をきっかけに皆さん一人一人が、芸術の語り方や表現の可能性を切り開いていってください。

評価基準と成績評価方法

- ・文章表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握
- ・受講生自身の見解の明示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。
復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	林洋子編『近現代の芸術史 造形篇Ⅱアジア・アフリカと新しい潮流』（芸術教養シリーズ8）、藝術学舎、2013年
参考文献・URL	中村興二・岸文和編『日本美術を学ぶ人のために』世界思想社、2001年 飯沢耕太郎監修『カラー版：世界写真史』美術出版社、2004年 ジル・モラ、前川修他訳『写真のキーワード：技術・表現・歴史』昭和堂、2001年 ジョン・A・ウォーカー、サラ・チャップリン、岸文和他訳『ヴィジュアル・カルチャー入門：美術史を超えるための方法論』晃洋書房、2001年 深井晃子監修『世界服飾史』美術出版社、1998年 成実弘至編『モードと身体——ファッション文化の歴史と現在』角川書店、2003年 グリゼルダ・ポロック、萩原弘子訳『視線と差異：フェミニズムで読む美術史』新水社、1998年

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならないため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 日本 1－明治後期から大正前期まで
- ・2章 日本 2－大正後期から戦時下まで
- ・3章 日本 3－復興期の美術

- ・4章 日本 4－激動期の美術
- ・5章 日本 5－消費社会の美術
- ・6章 日本 6－冷戦終結後の美術
- ・7章 中国－激動の時代と共に生きる芸術家たち
- ・8章 韓国－近現代美術の流れ
- ・9章 非西洋の美術－多文化共生の時代
- ・10章 写真
- ・11章 工芸
- ・12章 建築
- ・13章 デザイン
- ・14章 ファッション
- ・15章 女性美術家

WS	芸術史講義（日本）3 日本の文学、芸能、音楽の古代から近世に至るまでの流れ		科目コード： 41109
配当年次	1年次～		
単位数	2		
履修の前提条件	なし		
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴		
課題提出形態	airU		
開講期	春期		
課題提出期間	05/21～05/28		
全体講評 視聴期間	06/13～06/20		
担当者	井上勝志*、野村朋弘		

科目概要と到達目標

まず古代の『万葉集』から近世の俳句にいたる歌や文学作品、あるいは能や狂言を採りあげて、日本芸能の流れを通史として概観します。そして各時代、各地域を象徴する作品の様式や技法といった基礎的な知識を修得します。つぎに個々の文学作品や芸能が生み出された背景を、当時の政治、経済、宗教といった様々な社会状況から多層的に考察します。

講義では約1000年の間に生み出されてきた多様な芸術作品を動画とテキストによって解説します。

上代から近世に至る歌謡・和歌・音楽・俳諧、物語・日記・随筆・浮世草子、能・狂言について、各時代、各分野の流れを把握していただきます。各章の学習を通して、個々の韻文、散文、芸能それぞれの特徴を把握することが、一つ目の目標です。

それと同時に、同時代の異なる分野間の相互関係にも気を配る共時的観点と、同分野の芸術が時代を超えてどのように繋がっているのかという通時的観点との両方から、日本における芸術の流れを総合的に修得することが、もう一つの目標です。

評価基準と成績評価方法

- ・文章表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。
 復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキスト	矢内賢二編『日本の芸術史 文学上演篇Ⅰ 歌、舞、物語の豊かな世界』（芸術教養シリーズ9）、藝術学舎、2014年
参考文献・URL	全国大学国語国文学会編『日本語日本文学の新たな視座』おうふう、2006年6月 服部幸雄他『芸能史』山川出版社、1998年7月

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならぬため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 上代文学と歌謡－歌い舞い書かれる歌
- ・2章 和歌の伝統－和歌・歌謡・連歌の流れ
- ・3章 雅楽－古代のみやび
- ・4章 仏教音楽・声明の世界－祈りの荘厳
- ・5章 源氏物語の世界－世界に冠たる『源氏物語』の達成
- ・6章 中古の物語－作り物語・歌物語・歴史物語の特質
- ・7章 中古の日記と随筆－日記文学および随筆『枕草子』の文学的特色
- ・8章 中世の説話－広がる文学的活動
- ・9章 中世の物語・日記・随筆－文学的舞台と物語の受容
- ・10章 歌謡と軍記物語－芸能の時代中世の幕開け
- ・11章 能の成立と発展－観阿弥・世阿弥の大成
- ・12章 能の物語と演出－能の演技を成り立たせる諸要素
- ・13章 狂言の笑い－庶民のたくましさを描く
- ・14章 井原西鶴－浮世の観察者の文芸
- ・15章 松尾芭蕉－永遠の旅人の芸術

WS	芸術史講義（日本）3 日本の文学、芸能、音楽の古代から近世に至るまでの流れ		科目コード： 41109
配当年次	1年次～		
単位数	2		
履修の前提条件	なし		
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴		
課題提出形態	airU		
開講期	秋期		
課題提出期間	11/21～11/28		
全体講評 視聴期間	12/13～12/20		
担当者	井上勝志*、野村朋弘		

科目概要と到達目標

まず古代の『万葉集』から近世の俳句にいたる歌や文学作品、あるいは能や狂言を採りあげて、日本芸能の流れを通史として概観します。そして各時代、各地域を象徴する作品の様式や技法といった基礎的な知識を修得します。つぎに個々の文学作品や芸能が生み出された背景を、当時の政治、経済、宗教といった様々な社会状況から多層的に考察します。

講義では約1000年の間に生み出されてきた多様な芸術作品を動画とテキストによって解説します。

上代から近世に至る歌謡・和歌・音楽・俳諧、物語・日記・随筆・浮世草子、能・狂言について、各時代、各分野の流れを把握していただきます。各章の学習を通して、個々の韻文、散文、芸能それぞれの特徴を把握することが、一つ目の目標です。

それと同時に、同時代の異なる分野間の相互関係にも気を配る共時的観点と、同分野の芸術が時代を超えてどのように繋がっているのかという通時的観点との両方から、日本における芸術の流れを総合的に修得することが、もう一つの目標です。

評価基準と成績評価方法

- ・文章表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。
 復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	矢内賢二編『日本の芸術史 文学上演篇Ⅰ 歌、舞、物語の豊かな世界』（芸術教養シリーズ9）、藝術学舎、2014年
参考文献・URL	全国大学国語国文学会編『日本語日本文学の新たな視座』おうふう、2006年6月 服部幸雄他『芸能史』山川出版社、1998年7月

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならぬため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 上代文学と歌謡－歌い舞い書かれる歌
- ・2章 和歌の伝統－和歌・歌謡・連歌の流れ
- ・3章 雅楽－古代のみやび
- ・4章 仏教音楽・声明の世界－祈りの荘厳
- ・5章 源氏物語の世界－世界に冠たる『源氏物語』の達成
- ・6章 中古の物語－作り物語・歌物語・歴史物語の特質
- ・7章 中古の日記と随筆－日記文学および随筆『枕草子』の文学的特色
- ・8章 中世の説話－広がる文学的活動
- ・9章 中世の物語・日記・随筆－文学的舞台と物語の受容
- ・10章 歌謡と軍記物語－芸能の時代中世の幕開け
- ・11章 能の成立と発展－観阿弥・世阿弥の大成
- ・12章 能の物語と演出－能の演技を成り立たせる諸要素
- ・13章 狂言の笑い－庶民のたくましさを描く
- ・14章 井原西鶴－浮世の観察者の文芸
- ・15章 松尾芭蕉－永遠の旅人の芸術

WS	芸術史講義（日本）4 江戸時代から明治期に至るまでの文学、歌舞伎、話芸、民俗芸能 科目コード： 41110
配当年次	1年次～
単位数	2
履修の前提条件	なし
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴
課題提出形態	airU
開講期	夏期
課題提出期間	08/21～08/28
全体講評 視聴期間	09/13～09/20
担当者	井上勝志*、野村朋弘

科目概要と到達目標

まず江戸期から明治期までの文芸活動や、歌舞伎・浄瑠璃などの芸能の流れを概観します。特に近世に花開く町人文化としての戯作・歌舞伎や落語などの話芸、また各地域に伝承される民俗芸能などを中心として、個々の文学作品や芸能が生み出された背景を、当時の思想や宗教といった様々な社会状況から多層的に考察します。

約300年の間に生み出されてきた多様な芸術活動及び作品を動画とテキストによって解説します。

この授業では、おもに近世後期から明治前期に至る多様な芸術について学びます。

具体的には、散文・俳諧といった文学や思想、浄瑠璃・歌舞伎、邦楽・舞踊から祭礼・民俗芸能、落語・講談までの芸能、さらに明治期の文学（散文・詩歌）・思想について概観します。これらそれぞれの特徴を把握することがまずは目標です。

また、これらの多くは近世期に成立・発展したのですが、前時代からの影響あるいは現代に至る伝承も見られることから分かるように、時代や地域を超えた観点や、近世から近代への移行という視座も併せて習得することも目標です。

評価基準と成績評価方法

- ・文章表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。
復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	矢内賢二編『日本の芸術史 文学上演篇Ⅱ 近世から開化期の芸能と文学』（芸術教養シリーズ10）、藝術学舎、2014年
参考文献・URL	全国大学国語国文学会編『日本語日本文学の新たな視座』おうふう、2006年6月 服部幸雄他『芸能史』山川出版社、1998年7月

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならぬため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 浮世草子から読本へー上田秋成とその時代
- ・2章 長編読本の隆盛ー『南総里見八犬伝』と曲亭馬琴
- ・3章 江戸戯作の開花ー出版市場の成立と拡大
- ・4章 与謝蕪村・小林一茶ー近世中期・後期の俳諧をたどる
- ・5章 近世の思想ー儒学と国学の展開
- ・6章 近松門左衛門の浄瑠璃ー人形浄瑠璃の成立と発展
- ・7章 浄瑠璃の隆盛ー黄金時代から近代へ
- ・8章 歌舞伎の成立ー「ややこ踊」から元禄歌舞伎まで
- ・9章 歌舞伎の成熟ー南北・黙阿弥を中心に
- ・10章 近世の邦楽と舞踊ー日本オリジナルの醸成
- ・11章 祭礼と民俗芸能ー神霊との交歓
- ・12章 話芸の発展ー落語・講談の歴史
- ・13章 開化期の文学と思想ー手本としての「西洋」
- ・14章 明治前期の文学ー近代化する「小説」
- ・15章 明治前期の詩歌ー新たな「詩」の獲得

WS	芸術史講義（日本）4 江戸時代から明治期に至るまでの文学、歌舞伎、話芸、民俗芸能 科目コード： 41110
配当年次	1年次～
単位数	2
履修の前提条件	なし
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴
課題提出形態	airU
開講期	冬期
課題提出期間	02/21～02/28
全体講評 視聴期間	03/13～03/20
担当者	井上勝志*、野村朋弘

科目概要と到達目標

まず江戸期から明治期までの文芸活動や、歌舞伎・浄瑠璃などの芸能の流れを概観します。特に近世に花開く町人文化としての戯作・歌舞伎や落語などの話芸、また各地域に伝承される民俗芸能などを中心として、個々の文学作品や芸能が生み出された背景を、当時の思想や宗教といった様々な社会状況から多層的に考察します。

約300年の間に生み出されてきた多様な芸術活動及び作品を動画とテキストによって解説します。

この授業では、おもに近世後期から明治前期に至る多様な芸術について学びます。具体的には、散文・俳諧といった文学や思想、浄瑠璃・歌舞伎、邦楽・舞踊から祭礼・民俗芸能、落語・講談までの芸能、さらに明治期の文学（散文・詩歌）・思想について概観します。これらそれぞれの特質を把握することがまずは目標です。

また、これらの多くは近世期に成立・発展したのですが、前時代からの影響あるいは現代に至る伝承も見られることから分かるように、時代や地域を超えた観点や、近世から近代への移行という視座も併せて習得することも目標です。

評価基準と成績評価方法

- ・文章表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	矢内賢二編『日本の芸術史 文学上演篇Ⅱ 近世から開化期の芸能と文学』（芸術教養シリーズ10）、藝術学舎、2014年
参考文献・URL	全国大学国語国文学会編『日本語日本文学の新たな視座』おうふう、2006年6月 服部幸雄他『芸能史』山川出版社、1998年7月

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならぬため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 浮世草子から読本へー上田秋成とその時代
- ・2章 長編読本の隆盛ー『南総里見八犬伝』と曲亭馬琴
- ・3章 江戸戯作の開花ー出版市場の成立と拡大
- ・4章 与謝蕪村・小林一茶ー近世中期・後期の俳諧をたどる
- ・5章 近世の思想ー儒学と国学の展開
- ・6章 近松門左衛門の浄瑠璃ー人形浄瑠璃の成立と発展
- ・7章 浄瑠璃の隆盛ー黄金時代から近代へ
- ・8章 歌舞伎の成立ー「ややこ踊」から元禄歌舞伎まで
- ・9章 歌舞伎の成熟ー南北・黙阿弥を中心に
- ・10章 近世の邦楽と舞踊ー日本オリジナルの醸成
- ・11章 祭礼と民俗芸能ー神霊との交歓
- ・12章 話芸の発展ー落語・講談の歴史
- ・13章 開化期の文学と思想ー手本としての「西洋」
- ・14章 明治前期の文学ー近代化する「小説」
- ・15章 明治前期の詩歌ー新たな「詩」の獲得

WS	芸術史講義（アジア）3 中国の文学、音楽、舞台芸術についての の古代から19世紀までの流れ		科目コード： 41111
配当年次	1年次～		
単位数	2		
履修の前提条件	なし		
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴		
課題提出形態	airU		
開講期	春期		
課題提出期間	05/21～05/28		
全体講評 視聴期間	06/13～06/20		
担当者	赤松紀彦*、金子典正		

科目概要と到達目標

主に中国の古典文学、古典音楽や伝統演劇などさまざまな上演芸術を取りあげ、紀元前の周、秦といった時代から、漢、魏晉南北朝、隋、唐、宋を経て、元、明、清へと続く、中国のこうした芸術の展開を、映像資料をふんだんに用いながらたどって行きます。また、漢民族以外の少数民族の上演芸術についても、三つの章に分けて概観します。

中国の古典文学は、そのジャンルだけを挙げても、詩、史伝、散文、小説、戯曲と、さまざまな作品が紀元前このかた持続的に生み出されてきました。ここでは、時代をおいながら、文学史に関しては、他の上演芸術とも関係の深い詩、戯曲ならびに通俗小説に焦点をあてつつ、その流れを把握していただきます。そして文学とも密接な関係にあった音楽、さらに演劇やさまざまな芸能などがどのように生み出され、発展したのかというその過程を見て行くことにします。

こうした芸術はまた我が国にももたらされ、影響を与えました。江戸時代のそれについては特に一章を設け、理解を深めていただくこととしました。また広大な中国でその文化を紡いで来たのは、漢民族だけではなく、周辺の少数民族の上演芸術についても、最後の三つの章で学ぶことにします。

評価基準と成績評価方法

- ・文章表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握
- ・受講生自身の見解の明示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。
 復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	赤松紀彦編『アジアの芸術史 文学上演篇Ⅰ 中国の伝統文芸・演劇・音楽』（芸術教養シリーズ11）、藝術学舎、2014年
参考文献・URL	なし

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならないため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 『詩経』と『楚辞』—うたのはじまり
- ・2章 礼楽—儒教と音楽
- ・3章 漢代の文学と音楽—古代帝国と芸能の原点
- ・4章 魏晋南北朝—分裂と融合の時代
- ・5章 隋唐の文化—花は舞う大唐の春
- ・6章 宋代の詩歌とさまざまな芸能—新たなる文化の旗手
- ・7章 演劇の興隆—元代 異民族支配のもとで
- ・8章 小説、演劇の黄金時代—明代 拡大する文化の裾野
- ・9章 伝統文化の集大成—清代 続々と生み出された名作
- ・10章 語り物と演劇の諸相—伝統と現代
- ・11章 民間音楽のさまざま—広大な大地に響く音
- ・12章 日本に伝えられた中国音楽と演劇—海を越えた調べ
- ・13章 チベット・内モンゴルの芸能—自然と宗教によってはぐくまれた芸能
- ・14章 中国西北部の芸能—中国の中の西域
- ・15章 西南各民族の芸能—共通性から生まれる独自性と創られた伝統

WS	芸術史講義（アジア）3 中国の文学、音楽、舞台芸術についての の古代から19世紀までの流れ		科目コード： 41111
配当年次	1年次～		
単位数	2		
履修の前提条件	なし		
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴		
課題提出形態	airU		
開講期	秋期		
課題提出期間	11/21～11/28		
全体講評 視聴期間	12/13～12/20		
担当者	赤松紀彦*、金子典正		

科目概要と到達目標

主に中国の古典文学、古典音楽や伝統演劇などさまざまな上演芸術をとりあげ、紀元前の周、秦といった時代から、漢、魏晉南北朝、隋、唐、宋を経て、元、明、清へと続く、中国のこうした芸術の展開を、映像資料をふんだんに用いながらたどって行きます。また、漢民族以外の少数民族の上演芸術についても、三つの章に分けて概観します。

中国の古典文学は、そのジャンルだけを挙げても、詩、史伝、散文、小説、戯曲と、さまざまな作品が紀元前このかた持続的に生み出されてきました。ここでは、時代をおいながら、文学史に関しては、他の上演芸術とも関係の深い詩、戯曲ならびに通俗小説に焦点をあてつつ、その流れを把握していただきます。そして文学とも密接な関係にあった音楽、さらに演劇やさまざまな芸能などがどのように生み出され、発展したのかというその過程を見て行くことにします。

こうした芸術はまた我が国にももたらされ、影響を与えました。江戸時代のそれについては特に一章を設け、理解を深めていただくこととしました。また広大な中国でその文化を紡いで来たのは、漢民族だけではなく、周辺の少数民族の上演芸術についても、最後の三つの章で学ぶことにします。

評価基準と成績評価方法

- ・文章表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握
- ・受講生自身の見解の明示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。
 復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	赤松紀彦編『アジアの芸術史 文学上演篇Ⅰ 中国の伝統文芸・演劇・音楽』（芸術教養シリーズ11）、藝術学舎、2014年
参考文献・URL	なし

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならないため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 『詩経』と『楚辞』—うたのはじまり
- ・2章 礼楽—儒教と音楽
- ・3章 漢代の文学と音楽—古代帝国と芸能の原点
- ・4章 魏晋南北朝—分裂と融合の時代
- ・5章 隋唐の文化—花は舞う大唐の春
- ・6章 宋代の詩歌とさまざまな芸能—新たなる文化の旗手
- ・7章 演劇の興隆—元代 異民族支配のもとで
- ・8章 小説、演劇の黄金時代—明代 拡大する文化の裾野
- ・9章 伝統文化の集大成—清代 続々と生み出された名作
- ・10章 語り物と演劇の諸相—伝統と現代
- ・11章 民間音楽のさまざま—広大な大地に響く音
- ・12章 日本に伝えられた中国音楽と演劇—海を越えた調べ
- ・13章 チベット・内モンゴルの芸能—自然と宗教によってはぐくまれた芸能
- ・14章 中国西北部の芸能—中国の中の西域
- ・15章 西南各民族の芸能—共通性から生まれる独自性と創られた伝統

WS	芸術史講義（アジア）4 朝鮮半島、インド、東南アジアの文学、上演芸術	科目コード： 41112
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴	
課題提出形態	airU	
開講期	夏期	
課題提出期間	08/21～08/28	
全体講評 視聴期間	09/13～09/20	
担当者	赤松紀彦*、金子典正	

科目概要と到達目標

アジア諸地域の文学、演劇、音楽などさまざまな上演芸術の歴史を体系的に学習します。韓国、インド、さらにベトナム、ミャンマー、カンボジア、インドネシア・マレーシア、タイ・ラオスといった東南アジア諸国の上演芸術をとりあげて、各時代・各地域におけるそれらの展開を映像資料をふんだんに用いながら、歴史的に跡づけます。なお、西アジア、イスラームのそれについては、本編では割愛しました。

最初の五章では、韓国、すなわち朝鮮半島の上演芸術について、上古、三国・統一新羅、高麗、李氏朝鮮と時代を追ってその諸相を歴史的に跡づけ、さらに日本でもよく知られたパンソリ・仮面劇（タルチュム）・人形劇など民衆に愛され続けてきたいわゆる民俗劇について学びます。

次の五章はインドです。インドもまた古代よりさまざまな芸術が花開いた地域です。ここでは、インドの文化と聖典、文学、演劇、舞踏、音楽とジャンル別にその展開を追います。

そして最後の五章は、東南アジアのさまざまな芸術を国別に学んで行きます。中にはこれまで我が国ではあまり紹介されることのなかったものも含まれます。その多彩な芸術の世界は、大いに皆さんを魅了することでしょう。

評価基準と成績評価方法

- ・文章表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握
- ・受講生自身の見解の明示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。

復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	赤松紀彦編『アジアの芸術史 文学上演篇Ⅱ 朝鮮半島、インド、東南アジアの詩と芸能』（芸術教養シリーズ12）、藝術学舎、2014年
参考文献・URL	なし

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならぬため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 韓国 上古時代－萌芽期の芸能
- ・2章 三国・統一新羅時代－東アジア文化交流の始まり
- ・3章 高麗時代－仏教行事と芸能
- ・4章 李氏朝鮮時代－民衆の文学と芸能の展開
- ・5章 韓国の民俗劇－諷刺と即興
- ・6章 インドの文化と聖典－上演系芸術の基層
- ・7章 インドの文学－神々と人々の戯れ
- ・8章 インドの演劇－言葉と身体の統合
- ・9章 インドの舞踊と芸能－静寂と狂騒
- ・10章 インドの音楽－声が奏でる音の世界
- ・11章 ベトナムの芸能－民族の移動、外的影響による伝統芸能の広がり
- ・12章 ミャンマーの芸能－口承と書承によって伝えられる芸能
- ・13章 カンボジアの芸能－洗練された古典芸能と日常に根づく庶民の芸能
- ・14章 インドネシアとマレーシアの上演芸術－島嶼世界における歴史と文化の重層性
- ・15章 タイの芸能－国境を越えて広がるさまざまなカタチ

WS	芸術史講義（アジア）4 朝鮮半島、インド、東南アジアの文学、上演芸術	科目コード： 41112
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴	
課題提出形態	airU	
開講期	冬期	
課題提出期間	02/21～02/28	
全体講評 視聴期間	03/13～03/20	
担当者	赤松紀彦*、金子典正	

科目概要と到達目標

アジア諸地域の文学、演劇、音楽などさまざまな上演芸術の歴史を体系的に学習します。韓国、インド、さらにベトナム、ミャンマー、カンボジア、インドネシア・マレーシア、タイ・ラオスといった東南アジア諸国の上演芸術をとりあげて、各時代・各地域におけるそれらの展開を映像資料をふんだんに用いながら、歴史的に跡づけます。なお、西アジア、イスラームのそれについては、本編では割愛しました。

最初の五章では、韓国、すなわち朝鮮半島の上演芸術について、上古、三国・統一新羅、高麗、李氏朝鮮と時代を追ってその諸相を歴史的に跡づけ、さらに日本でもよく知られたパンソリ・仮面劇（タルチュム）・人形劇など民衆に愛され続けてきたいわゆる民俗劇について学びます。

次の五章はインドです。インドもまた古代よりさまざまな芸術が花開いた地域です。ここでは、インドの文化と聖典、文学、演劇、舞踏、音楽とジャンル別にその展開を追います。

そして最後の五章は、東南アジアのさまざまな芸術を国別に学んで行きます。中にはこれまで我が国ではあまり紹介されることのなかったものも含まれます。その多彩な芸術の世界は、大いに皆さんを魅了することでしょう。

評価基準と成績評価方法

- ・文章表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握
- ・受講生自身の見解の明示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。

復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	赤松紀彦編『アジアの芸術史 文学上演篇Ⅱ 朝鮮半島、インド、東南アジアの詩と芸能』（芸術教養シリーズ12）、藝術学舎、2014年
参考文献・URL	なし

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならぬため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 韓国 上古時代－萌芽期の芸能
- ・2章 三国・統一新羅時代－東アジア文化交流の始まり
- ・3章 高麗時代－仏教行事と芸能
- ・4章 李氏朝鮮時代－民衆の文学と芸能の展開
- ・5章 韓国の民俗劇－諷刺と即興
- ・6章 インドの文化と聖典－上演系芸術の基層
- ・7章 インドの文学－神々と人々の戯れ
- ・8章 インドの演劇－言葉と身体の統合
- ・9章 インドの舞踊と芸能－静寂と狂騒
- ・10章 インドの音楽－声が奏でる音の世界
- ・11章 ベトナムの芸能－民族の移動、外的影響による伝統芸能の広がり
- ・12章 ミャンマーの芸能－口承と書承によって伝えられる芸能
- ・13章 カンボジアの芸能－洗練された古典芸能と日常に根づく庶民の芸能
- ・14章 インドネシアとマレーシアの上演芸術－島嶼世界における歴史と文化の重層性
- ・15章 タイの芸能－国境を越えて広がるさまざまなカタチ

WS	芸術史講義（ヨーロッパ）3 ヨーロッパの文学、音楽、舞台の古代 ギリシアから18世紀までの歴史	科目コード： 41113
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴	
課題提出形態	airU	
開講期	春期	
課題提出期間	05/21～05/28	
全体講評 視聴期間	06/13～06/20	
担当者	小柏裕俊*、加藤志織	

科目概要と到達目標

ヨーロッパにおいて、古代ギリシアから18世紀後半の啓蒙主義の時代までに生み出された、上演芸術に関係するさまざまな文学作品あるいは文芸理論についてとりあげます。

その歴史を通史として概観すると同時に、個々の作品や作家に関する基礎的な知識を身につけることで、上演芸術について考察する能力を培います。その上で、上演芸術が演劇、美術、音楽、文学、舞踏からなる総合芸術であることを学びます。

この講義の前半では、ギリシア文学、ギリシア哲学、ローマ文学、キリスト教文学、ルネサンス文学、人文主義といったヨーロッパ文化の「土台」というべきものを学びます。どれも近現代の西洋文化が成立するうえで欠かせない要素です。例えば、シェイクスピアはギリシア文学から人文主義にいたる要素をすべて自分の作品のなかに取り入れています。しかし、ギリシア文化から18世紀の文化にいたる流れは必ずしも直線的なものではなく、空白があり、停滞があり、迂回があります。また、シェイクスピアの演劇とオペラの誕生といったような「同時進行」も見られます。

講義の後半では、17世紀から18世紀にかけて、大きな変化がゆっくりと繰り広げられていきます。デカルトの哲学は何を変えたのでしょうか。「小説」というジャンルはどのように生まれていくのでしょうか。こうした変遷をしっかりと時代の流れのなかで捉えてください。

評価基準と成績評価方法

- ・文章表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握
- ・受講生自身の見解の明示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。
復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	中村亮二編『西洋の芸術史 文学上演篇Ⅰ 神々の世界から市民社会の幕開けまで』（芸術教養シリーズ13）、藝術学舎、2014年
参考文献・URL	なし

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならないため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 ギリシア文学－神話からホメロスへ
- ・2章 古代ギリシア哲学－「世界への問い」から「人間への問い」へ
- ・3章 ギリシア悲劇－古代ギリシアの全盛期とともに
- ・4章 古代ローマの文学－政治とヒューマニズムの時代
- ・5章 聖書とその周辺－イエスの登場から受難、そしてキリスト教成立へ
- ・6章 中世の文化－スコラ哲学の隆盛、宗教劇の始まり
- ・7章 ダンテからルネサンスへ－新しい世界観に向かって
- ・8章 中世とルネサンスの音楽－歴史的かなたの音を求めて
- ・9章 人文主義の時代－ルネサンスから宗教改革へ
- ・10章 シェイクスピアルネサンス文学の集成
- ・11章 古典主義演劇の黄金期－モリエールの喜劇、ラシーヌの悲劇

- ・ 12章 デカルトとパスカルー近代の扉を開く
- ・ 13章 小説の黎明期ーロマンスから小説（ノヴェル）へ
- ・ 14章 オペラの誕生とバロック音楽ーモンテヴェルディからバッハまで
- ・ 15章 啓蒙思想ー思想運動としての啓蒙

WS	芸術史講義（ヨーロッパ）3 ヨーロッパの文学、音楽、舞台の古代 ギリシアから18世紀までの歴史	科目コード： 41113
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴	
課題提出形態	airU	
開講期	秋期	
課題提出期間	11/21～11/28	
全体講評 視聴期間	12/13～12/20	
担当者	小柏裕俊*、加藤志織	

科目概要と到達目標

ヨーロッパにおいて、古代ギリシアから18世紀後半の啓蒙主義の時代までに生み出された、上演芸術に関係するさまざまな文学作品あるいは文芸理論についてとりあげます。

その歴史を通史として概観すると同時に、個々の作品や作家に関する基礎的な知識を身につけることで、上演芸術について考察する能力を培います。その上で、上演芸術が演劇、美術、音楽、文学、舞踏からなる総合芸術であることを学びます。

この講義の前半では、ギリシア文学、ギリシア哲学、ローマ文学、キリスト教文学、ルネサンス文学、人文主義といったヨーロッパ文化の「土台」というべきものを学びます。どれも近現代の西洋文化が成立するうえで欠かせない要素です。例えば、シェイクスピアはギリシア文学から人文主義にいたる要素をすべて自分の作品のなかに取り入れています。しかし、ギリシア文化から18世紀の文化にいたる流れは必ずしも直線的なものではなく、空白があり、停滞があり、迂回があります。また、シェイクスピアの演劇とオペラの誕生といったような「同時進行」も見られます。

講義の後半では、17世紀から18世紀にかけて、大きな変化がゆっくりと繰り返されていきます。デカルトの哲学は何を変えたのでしょうか。「小説」というジャンルはどのように生まれていくのでしょうか。こうした変遷をしっかりと時代の流れのなかで捉えてください。

評価基準と成績評価方法

- ・文章表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握
- ・受講生自身の見解の明示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。
復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	中村亮二編『西洋の芸術史 文学上演篇Ⅰ 神々の世界から市民社会の幕開けまで』（芸術教養シリーズ13）、藝術学舎、2014年
参考文献・URL	なし

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならないため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 ギリシア文学－神話からホメロスへ
- ・2章 古代ギリシア哲学－「世界への問い」から「人間への問い」へ
- ・3章 ギリシア悲劇－古代ギリシアの全盛期とともに
- ・4章 古代ローマの文学－政治とヒューマンイズムの時代
- ・5章 聖書とその周辺－イエスの登場から受難、そしてキリスト教成立へ
- ・6章 中世の文化－スコラ哲学の隆盛、宗教劇の始まり
- ・7章 ダンテからルネサンスへ－新しい世界観に向かって
- ・8章 中世とルネサンスの音楽－歴史的かなたの音を求めて
- ・9章 人文主義の時代－ルネサンスから宗教改革へ
- ・10章 シェイクスピアルネサンス文学の集成
- ・11章 古典主義演劇の黄金期－モリエールの喜劇、ラシーヌの悲劇

- ・ 12章 デカルトとパスカルー近代の扉を開く
- ・ 13章 小説の黎明期ーロマンスから小説（ノヴェル）へ
- ・ 14章 オペラの誕生とバロック音楽ーモンテヴェルディからバッハまで
- ・ 15章 啓蒙思想ー思想運動としての啓蒙

WS	芸術史講義（ヨーロッパ）4 18世紀・19世紀のヨーロッパ諸国の上 演芸術作品の諸潮流	科目コード： 41114
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴	
課題提出形態	airU	
開講期	夏期	
課題提出期間	08/21～08/28	
全体講評 視聴期間	09/13～09/20	
担当者	小柏裕俊*、加藤志織	

科目概要と到達目標

西洋の上演芸術を、18世紀後半から19世紀末までの約150年間にわたって概観し、ドイツ、イタリア、イギリス、フランス、ロシア、アメリカなどで生じた様々な作品についての基礎的な知識を修得します。特にハイドンやモーツァルトに代表される古典派音楽から、ゲーテなどのロマン主義の文学、さらにはイタリア・オペラ、あるいはワーグナーやチェーホフそしてワイルドの作品などを採りあげます。

また、個々の作品の背景にある芸術動向について学習した上で、それらの上演芸術を分析し、近代という時代の特殊性に関して考察します。

18世紀後半になると、文学の世界では「小説」、音楽では「交響曲」といったような、私たちになじみの深いジャンルが確立されます。また、感性の面においては、「ロマン主義」がこの時期から台頭し、それに対抗するかのよう、19世紀半ばには「自然主義」が発展していきます。こうした西洋文化の重要な要素がどのように形づくられ、どのように変化していくか、全体の流れのなかで総合的に理解していくようにしてください。と同時に、この講義を通じて、さまざまな作家、さまざま芸術家に出会い、個々の作品に親しむ機会を設けてください。単なる紹介文に満足せずに、実際の作品に触れることが大事です。理想は個々の作品を様式的に捉えたうえで、その作品の特性を理解することです。この2つのアプローチは一見矛盾しているように見えるかもしれませんが、しかし、この2つが両立した時に、真の意味で文化を把握できたと言えるでしょう。

評価基準と成績評価方法

- ・文章表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握
- ・受講生自身の見解の明示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。
復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	中村亮二編『西洋の芸術史 文学上演篇Ⅱ ロマン主義の胎動から世紀末まで』（芸術教養シリーズ14）、藝術学舎、2014年
参考文献・URL	なし

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならないため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 古典派の音楽－人間の理性と科学の時代へ
- ・2章 ゲーテと近代ドイツ文学の幕開け－啓蒙主義、シュトゥルム・ウント・ドラングからロマン主義へ
- ・3章 ロマン主義の誕生－18世紀末へ向けて
- ・4章 近代小説の誕生－内面へのまなざし
- ・5章 ロマン主義の作家たち－古典からの脱却
- ・6章 ロマン主義の音楽－市民階級の時代
- ・7章 ドイツ観念論－経験から遠く離れて
- ・8章 オペラとバレエ－歌と舞踊がつくり出すドラマ
- ・9章 リアリズムの系譜－ブルジョワジー作家たちの活躍
- ・10章 小説の時代1－呼応する新旧大陸

- ・ 11章 小説の時代2ーロシア文学の全盛期
- ・ 12章 ロシアとフランス、民族主義の音楽ーさまざまな作曲家群像
- ・ 13章 象徴主義ー新しい詩のために
- ・ 14章 イプセンからチェーホフへー近代のはずれで生きる
- ・ 15章 19世紀末の文学ー20世紀へ向けて

WS	芸術史講義（ヨーロッパ）4 18世紀・19世紀のヨーロッパ諸国の上 演芸術作品の諸潮流	科目コード： 41114
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴	
課題提出形態	airU	
開講期	冬期	
課題提出期間	02/21～02/28	
全体講評 視聴期間	03/13～03/20	
担当者	小柏裕俊*、加藤志織	

科目概要と到達目標

西洋の上演芸術を、18世紀後半から19世紀末までの約150年間にわたって概観し、ドイツ、イタリア、イギリス、フランス、ロシア、アメリカなどで生じた様々な作品についての基礎的な知識を修得します。特にハイドンやモーツァルトに代表される古典派音楽から、ゲーテなどのロマン主義の文学、さらにはイタリア・オペラ、あるいはワーグナーやチェーホフそしてワイルドの作品などを採りあげます。

また、個々の作品の背景にある芸術動向について学習した上で、それらの上演芸術を分析し、近代という時代の特殊性に関して考察します。

18世紀後半になると、文学の世界では「小説」、音楽では「交響曲」といったような、私たちになじみの深いジャンルが確立されます。また、感性の面においては、「ロマン主義」がこの時期から台頭し、それに対抗するかのよう、19世紀半ばには「自然主義」が発展していきます。こうした西洋文化の重要な要素がどのように形づくられ、どのように変化していくか、全体の流れのなかで総合的に理解していくようにしてください。と同時に、この講義を通じて、さまざまな作家、さまざま芸術家に出会い、個々の作品に親しむ機会を設けてください。単なる紹介文に満足せずに、実際の作品に触れることが大事です。理想は個々の作品を様式的に捉えたうえで、その作品の特性を理解することです。この2つのアプローチは一見矛盾しているように見えるかもしれませんが、しかし、この2つが両立した時に、真の意味で文化を把握できたと言えるでしょう。

評価基準と成績評価方法

- ・文章表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握
- ・受講生自身の見解の明示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。
復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	中村亮二編『西洋の芸術史 文学上演篇Ⅱ ロマン主義の胎動から世紀末まで』（芸術教養シリーズ14）、藝術学舎、2014年
参考文献・URL	なし

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならないため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 古典派の音楽－人間の理性と科学の時代へ
- ・2章 ゲーテと近代ドイツ文学の幕開け－啓蒙主義、シュトゥルム・ウント・ドラングからロマン主義へ
- ・3章 ロマン主義の誕生－18世紀末へ向けて
- ・4章 近代小説の誕生－内面へのまなざし
- ・5章 ロマン主義の作家たち－古典からの脱却
- ・6章 ロマン主義の音楽－市民階級の時代
- ・7章 ドイツ観念論－経験から遠く離れて
- ・8章 オペラとバレエ－歌と舞踊がつくり出すドラマ
- ・9章 リアリズムの系譜－ブルジョワジー作家たちの活躍
- ・10章 小説の時代1－呼応する新旧大陸

- ・ 11章 小説の時代2ーロシア文学の全盛期
- ・ 12章 ロシアとフランス、民族主義の音楽ーさまざまな作曲家群像
- ・ 13章 象徴主義ー新しい詩のために
- ・ 14章 イプセンからチェーホフへー近代のはずれで生きる
- ・ 15章 19世紀末の文学ー20世紀へ向けて

WS	芸術史講義（近現代）3 十九世紀末からの文学、舞台芸術の流れと社会の動き	科目コード： 41115
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴	
課題提出形態	airU	
開講期	春期	
課題提出期間	05/21～05/28	
全体講評 視聴期間	06/13～06/20	
担当者	大辻都*、荒川徹	

科目概要と到達目標

20世紀を中心に、19世紀末から現代までの文学と上演芸術について学ぶ科目です。

文学では、ジョイスやフォークナーなど英語圏文学、プルーストなどフランス語圏文学、カフカなどドイツ語圏文学、ラテンアメリカ文学やポストコロニアル文学、そして、大江健三郎や村上春樹など現代日本文学を扱います。

後半では、舞台芸術について、劇作家と作品だけでなく、演出や演者などさまざまな側面から考えていきます。

20世紀になると、それまでの時代とは比較にならないほど価値の多様化が進み、また、科学技術も大きく進歩します。そうした社会背景は、芸術のあり方にも大きな変化をもたらしました。「芸術史講義（近現代）3」では、20世紀以降の芸術のなかでも、特に文学と舞台芸術に焦点を当て、それぞれの流れを見てゆきます。

「芸術史講義（近現代）3」「芸術史講義（近現代）4」を通じ、現在進行形のものであるさまざまな芸術動向の全体像をとらえることを目標とします。

評価基準と成績評価方法

- ・文章表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握
- ・受講生自身の見解の明示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。

復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	森山直人編『近現代の芸術史 文学上演篇Ⅰ 20世紀の文学・舞台芸術』（芸術教養シリーズ15）、藝術学舎、2014年
参考文献・URL	多岐にわたりますので、テキスト各章の末尾をご覧ください。

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならないため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 「メディア」と「戦争」の 20 世紀—イントロダクション
- ・2章 英語圏の文学1—イギリスとアイルランド ジョイスとモダニズム
- ・3章 英語圏の文学2—アメリカ フォークナーとモダニズム
- ・4章 フランス語圏の文学—ベル・エポックから第二次大戦後まで
- ・5章 ドイツ語圏の文学—〈ドイツ的なもの〉への問い
- ・6章 ラテンアメリカ文学とメタフィクション—危機意識の文学への反映
- ・7章 ポストコロニアル文学—ヨーロッパ圏以外の文学
- ・8章 近代日本文学—日本近代文学の誕生
- ・9章 現代日本文学—大衆消費社会における日本文学
- ・10章 現代の舞台芸術1—戯曲と劇言語
- ・11章 現代の舞台芸術2—演出家とその時空間
- ・12章 現代の舞台芸術3—近代演技術と身体
- ・13章 現代の舞台芸術4—バレエとダンスの新たな地平
- ・14章 現代の舞台芸術5—ダンスを超えるダンス
- ・15章 現代の舞台芸術6—近代アジアの舞台芸術 日本と韓国の場合

WS	芸術史講義（近現代）3 十九世紀末からの文学、舞台芸術の流れと社会の動き		科目コード： 41115
配当年次	1年次～		
単位数	2		
履修の前提条件	なし		
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴		
課題提出形態	airU		
開講期	秋期		
課題提出期間	11/21～11/28		
全体講評 視聴期間	12/13～12/20		
担当者	大辻都*、荒川徹		

科目概要と到達目標

20世紀を中心に、19世紀末から現代までの文学と上演芸術について学ぶ科目です。

文学では、ジョイスやフォークナーなど英語圏文学、プルーストなどフランス語圏文学、カフカなどドイツ語圏文学、ラテンアメリカ文学やポストコロニアル文学、そして、大江健三郎や村上春樹など現代日本文学を扱います。

後半では、舞台芸術について、劇作家と作品だけでなく、演出や演者などさまざまな側面から考えていきます。

20世紀になると、それまでの時代とは比較にならないほど価値の多様化が進み、また、科学技術も大きく進歩します。そうした社会背景は、芸術のあり方にも大きな変化をもたらしました。「芸術史講義（近現代）3」では、20世紀以降の芸術のなかでも、特に文学と舞台芸術に焦点を当て、それぞれの流れを見てゆきます。

「芸術史講義（近現代）3」「芸術史講義（近現代）4」を通じ、現在進行形のものであるさまざまな芸術動向の全体像をとらえることを目標とします。

評価基準と成績評価方法

- ・文章表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握
- ・受講生自身の見解の明示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。

復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	森山直人編『近現代の芸術史 文学上演篇Ⅰ 20世紀の文学・舞台芸術』（芸術教養シリーズ15）、藝術学舎、2014年
参考文献・URL	多岐にわたりますので、テキスト各章の末尾をご覧ください。

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならないため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 「メディア」と「戦争」の 20 世紀—イントロダクション
- ・2章 英語圏の文学1—イギリスとアイルランド ジョイスとモダニズム
- ・3章 英語圏の文学2—アメリカ フォークナーとモダニズム
- ・4章 フランス語圏の文学—ベル・エポックから第二次大戦後まで
- ・5章 ドイツ語圏の文学—〈ドイツ的なもの〉への問い
- ・6章 ラテンアメリカ文学とメタフィクション—危機意識の文学への反映
- ・7章 ポストコロニアル文学—ヨーロッパ圏以外の文学
- ・8章 近代日本文学—日本近代文学の誕生
- ・9章 現代日本文学—大衆消費社会における日本文学
- ・10章 現代の舞台芸術1—戯曲と劇言語
- ・11章 現代の舞台芸術2—演出家とその時空間
- ・12章 現代の舞台芸術3—近代演技術と身体
- ・13章 現代の舞台芸術4—バレエとダンスの新たな地平
- ・14章 現代の舞台芸術5—ダンスを超えるダンス
- ・15章 現代の舞台芸術6—近代アジアの舞台芸術 日本と韓国の場合

WS	芸術史講義（近現代）4 近現代の欧米とアジアの音楽、映画そしてサブカルチャーの変遷		科目コード： 41116
配当年次	1年次～		
単位数	2		
履修の前提条件	なし		
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴		
課題提出形態	airU		
開講期	夏期		
課題提出期間	08/21～08/28		
全体講評 視聴期間	09/13～09/20		
担当者	大辻都*、荒川徹		

科目概要と到達目標

19世紀末以降現代までの音楽、映画、さらにマンガやアニメーションなどサブカルチャーについて学習します。

ジョン・ケージらの試みや電子音楽、ジャズ、ロック、ワールドミュージックなどを含む現代音楽、ハリウッドやヌーヴェル・ヴァーグといった映画、手塚治虫、ディズニーから宮崎駿のアニメーションまでのサブカルチャーについて、多面的に紹介してゆきます。

20世紀になると、それまでの時代とは比較にならないほど価値の多様化が進み、また、科学技術も大きく進歩します。そうした社会背景は、芸術のあり方にも大きな変化をもたらしました。「芸術史講義（近現代）4」では、20世紀以降の芸術のなかでも、特に音楽、映画、サブカルチャーに焦点を当て、それぞれの流れを見てゆきます。

「芸術史講義（近現代）3」「芸術史講義（近現代）4」を通じ、現在進行形のものであるさまざまな芸術動向の全体像をとらえることを目標とします。

評価基準と成績評価方法

- ・文章表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握
- ・受講生自身の見解の明示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。
 復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	森山直人編『近現代の芸術史 文学上演篇Ⅱ メディア社会における「芸術」の行方』（芸術教養シリーズ16）、藝術学舎、2014年
参考文献・URL	多岐にわたりますので、テキスト各章の末尾をご覧ください。

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならないため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 現代の音楽1－電子音響・ノイズ
- ・2章 現代の音楽2－リズム、ビート
- ・3章 現代の音楽3－混血性
- ・4章 現代の音楽4－環境
- ・5章 現代の音楽5－方法論・進歩主義？
- ・6章 映画1－古典的ハリウッド映画の功罪
- ・7章 映画2－初期映画の可能性と魅力
- ・8章 映画3－「夢の工場」の発展と盛衰
- ・9章 映画4－ヨーロッパ映画の多様性と革新性
- ・10章 映画5－アジアのなかの日本映画
- ・11章 映画6－映像の現在 新しい映像の世紀に向けて
- ・12章 サブカルチャー1－敗戦後のアイデンティティの復興
- ・13章 サブカルチャー2－消費社会と虚構の時代
- ・14章 サブカルチャー3－グローバル化する中国と新しい地理感覚
- ・15章 〈21世紀〉に向き合う芸術思想－9.11と3.11のあとで

WS	芸術史講義（近現代）4 近現代の欧米とアジアの音楽、映画そしてサブカルチャーの変遷	科目コード： 41116
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴	
課題提出形態	airU	
開講期	冬期	
課題提出期間	02/21～02/28	
全体講評 視聴期間	03/13～03/20	
担当者	大辻都*、荒川徹	

科目概要と到達目標

19世紀末以降現代までの音楽、映画、さらにマンガやアニメーションなどサブカルチャーについて学習します。

ジョン・ケージらの試みや電子音楽、ジャズ、ロック、ワールドミュージックなどを含む現代音楽、ハリウッドやヌーヴェル・ヴァーグといった映画、手塚治虫、ディズニーから宮崎駿のアニメーションまでのサブカルチャーについて、多面的に紹介してゆきます。

20世紀になると、それまでの時代とは比較にならないほど価値の多様化が進み、また、科学技術も大きく進歩します。そうした社会背景は、芸術のあり方にも大きな変化をもたらしました。「芸術史講義（近現代）4」では、20世紀以降の芸術のなかでも、特に音楽、映画、サブカルチャーに焦点を当て、それぞれの流れを見てゆきます。

「芸術史講義（近現代）3」「芸術史講義（近現代）4」を通じ、現在進行形のものであるさまざまな芸術動向の全体像をとらえることを目標とします。

評価基準と成績評価方法

- ・文章表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握
- ・受講生自身の見解の明示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。
復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	森山直人編『近現代の芸術史 文学上演篇Ⅱ メディア社会における「芸術」の行方』（芸術教養シリーズ16）、藝術学舎、2014年
参考文献・URL	多岐にわたりますので、テキスト各章の末尾をご覧ください。

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならないため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 現代の音楽1－電子音響・ノイズ
- ・2章 現代の音楽2－リズム、ビート
- ・3章 現代の音楽3－混血性
- ・4章 現代の音楽4－環境
- ・5章 現代の音楽5－方法論・進歩主義？
- ・6章 映画1－古典的ハリウッド映画の功罪
- ・7章 映画2－初期映画の可能性と魅力
- ・8章 映画3－「夢の工場」の発展と盛衰
- ・9章 映画4－ヨーロッパ映画の多様性と革新性
- ・10章 映画5－アジアのなかの日本映画
- ・11章 映画6－映像の現在 新しい映像の世紀に向けて
- ・12章 サブカルチャー1－敗戦後のアイデンティティの復興
- ・13章 サブカルチャー2－消費社会と虚構の時代
- ・14章 サブカルチャー3－グローバル化する中国と新しい地理感覚
- ・15章 〈21世紀〉に向き合う芸術思想－9.11と3.11のあとで